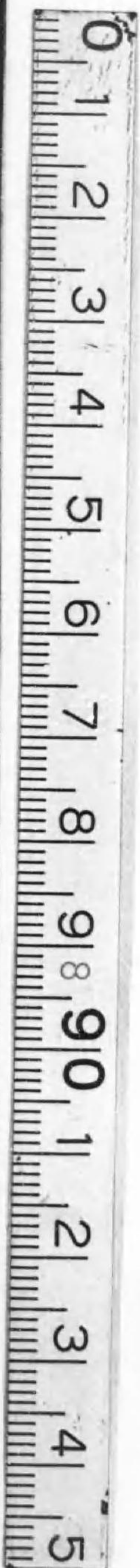
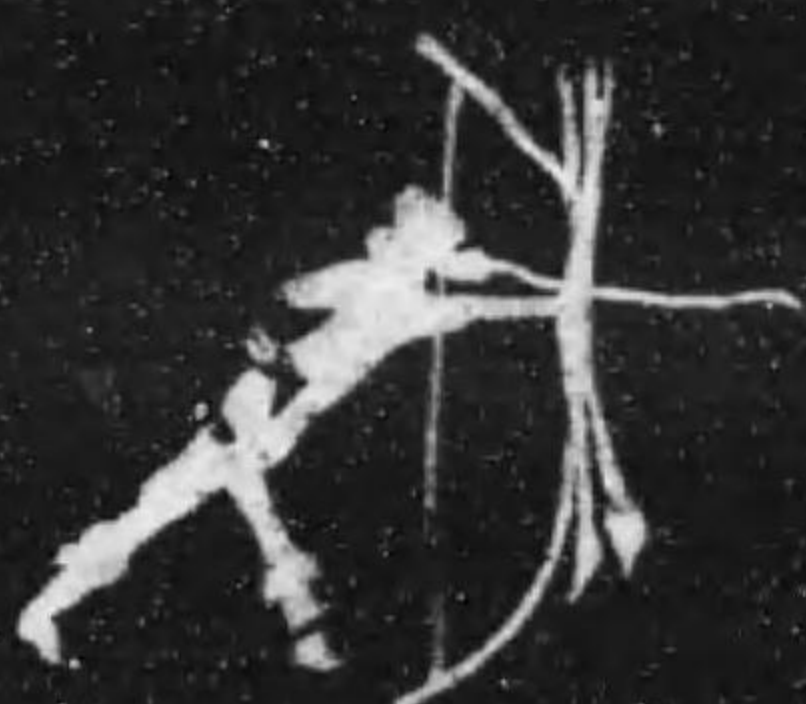


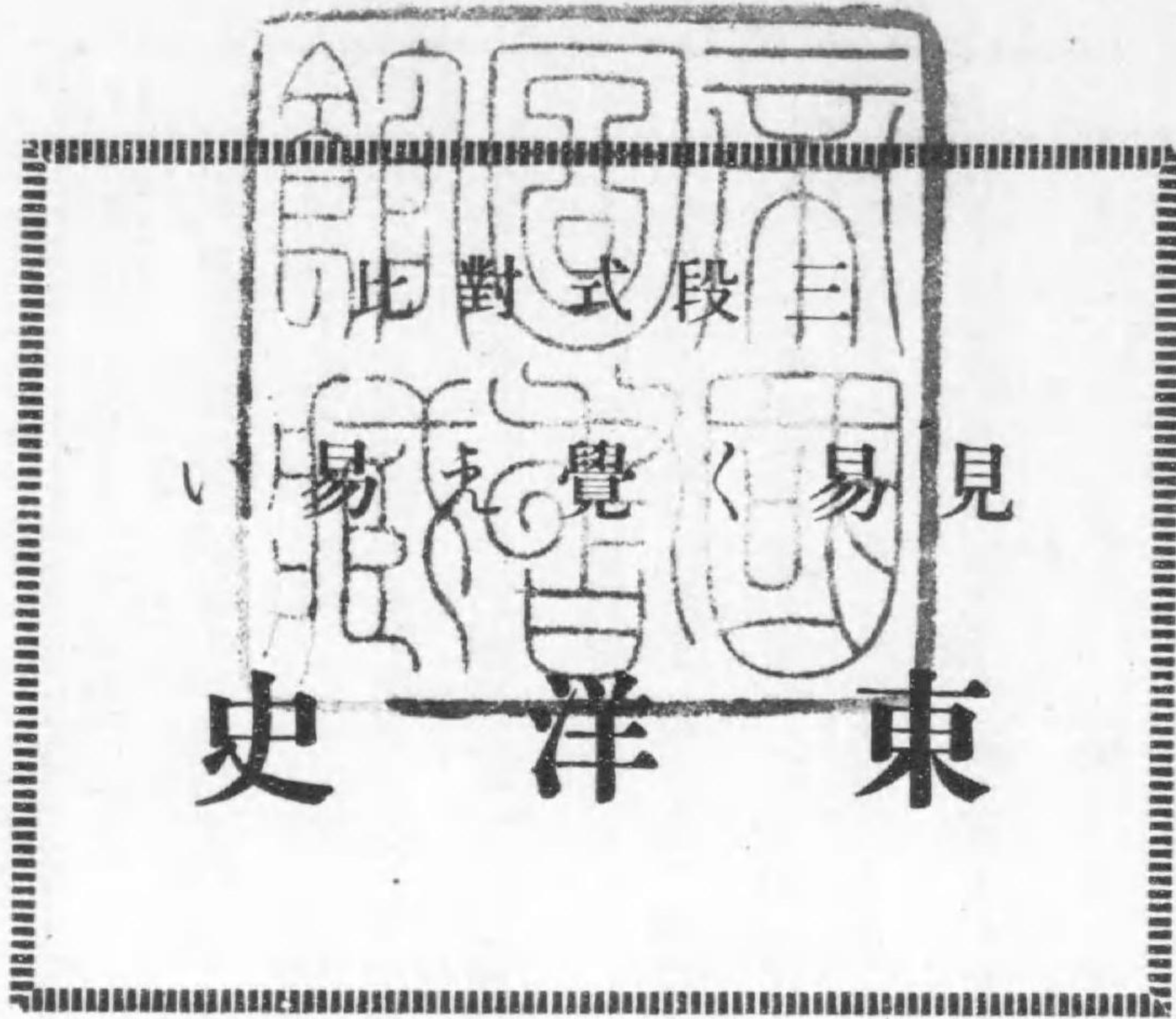
312
266



始



特219
506



編部輯編堂林盛



東京

行發堂林盛

凡 例

本書は見易く、解り易く、覚え易く、世界の興亡と國內の事情を對比す。

本書は恩師八代、松井、磯田諸先生並に三上、三浦諸博士、桑原、羽田諸博士、瀬川、村川諸博士の中等歴史教科書を基準として日本及び東洋、西洋の歴史を三段的に對比す。

本書は簡明平易に全章を(甲)(A)(○)(イ)等に分類要解し章末に王位繼承の關係參考問題を附記し重要なものは註釋を附記す。

本書は高等専門諸學校陸海軍學校の受験用とし且つ獨習用として文化方面を詳述す。

年代は對比的に國家及び民族の興亡を主眼とし各國に影響せる大事件を附記す。西曆世紀に基き皇紀紀年を配し、天皇天子を序列し執政家の盛衰を附記す。

參考問題は既往問題にして明治年間ものは年代を附せず、學校名のみとし大正年間ものは年代學校名を附記す、略號次の如し。

各	全國高等學校	一	高	二高以下は各高等學校
東	東京高等師範學校	廣	師	廣島高等師範學校
女	女子高等師範學校	海	兵	海軍兵學校
海	海軍機關學校	海	經	海軍經理學校
陸	陸軍士官學校	陸	經	陸軍經理學校
陸	陸軍主計學校	商	大	東京商科大學豫科
東	東京高等商業學校	長	商	長崎高等商業學校
山	山口高等商業學校	神	商	神戸高等商業學校
橫	橫濱高等商業學校	大	分	大分高等商業學校
和	和歌山高等商業學校	農	大	農科大學豫科
外	外國語學校	商	船	商船學校
美	美術專門學校	名	工	名古屋高等工業學校
千	千葉醫學專門學校	神	皇	神宮皇學館
早	早稻田第一高等學院			

昭和二年八月

島尾 獏庵 識

目次

第	一	章	上古の支那文化	一
			参考問題	四
第	二	章	西周東周の興亡	五
			参考問題	九
第	三	章	周代の文化	三
			参考問題	一七
第	四	章	印度の古代文化	一八
			参考問題	二〇
第	五	章	秦の興亡	三
			参考問題	二四
第	六	章	西漢—前漢の興起	二五
			参考問題	二八

第七章 西漢—前漢時代の外交……………三〇
 参考問題……………三三

第八章 西漢の衰微……………三五
 参考問題……………三七

第九章 東漢—後漢の興亡……………三八
 参考問題……………四一

第十章 漢代の文化……………四三
 参考問題……………四五

第十一章 三國及び西晉東晉の盛衰……………四六
 参考問題……………五一

第十二章 五胡南北朝の興廢……………五三
 参考問題……………五七

第十三章 隋唐朝鮮の大勢……………五九
 参考問題……………六二

第十四章 唐の政治と外交……………六三

第十五章 唐の衰滅……………七一
 参考問題……………七三

第十六章 唐代の文化……………七九
 参考問題……………八四

第十七章 五代及諸民族の勃興……………八六
 参考問題……………九〇

第十八章 宋代の内治と外交……………九二
 参考問題……………九四

第十九章 宋代の文化……………九六
 参考問題……………一〇一

第二十章 蒙古族の興起……………一〇三
 参考問題……………一〇九

第二十一章 元の衰滅……………一一一
 参考問題……………一一三

第二十二章 元代の政治文化……………一二四
 参考問題……………一二九

第二十三章 明の盛衰と外交……………一二〇
 参考問題……………一二七

第二十四章 明代の文化……………一二九
 参考問題……………一三三

第二十五章 清朝の興隆……………一三四
 参考問題……………一三七

第二十六章 清朝の文化……………一三九
 参考問題……………一四六

第二十七章 莫臥兒帝國の興亡……………一四七
 参考問題……………一五〇

第二十八章 清朝の衰運……………一五二
 参考問題……………一五七

第二十九章 露佛の亞細亞經營……………一五九

第三十章 清末の外交……………一六六
 参考問題……………一六九

第三十一章 輾近の排外運動……………一七一
 参考問題……………一七四

第三十二章 極東及び太平洋問題……………一七五
 参考問題……………一八〇

第三十三章 清朝の滅亡……………一八一
 参考問題……………一八三

第三十四章 中華民國の内治……………一八四
 第三十五章 中華民國の外交……………一八八

受験の學生諸彦に……………一

附 録 (學校別問題集)

各高等學校……………一

各陸海軍學校……………三

各高等師範學校……………七

各高等商業學校……………一〇

外語・商船・各専門學校……………一二

目次終

受験の學生諸彦に

(一) あらゆる宇宙の萬象は時間と空間によつて支配されてゐる。課せられた問題に對しては、靜かに瞑目し思索しなくてはならない。輕輕しくペンを走らせてから筆削して汚ない答案を作成する時間と努力を先づ手を拱く時に働かせなければならぬ。組織的に系統的に答案を書くには正確な時と處の觀念が要る。足利義滿其人を思索する時に南北朝統一後平和克復したこと京都の室町に開幕したことを注意しなくてはならない。其處に鎌倉中心の文化が京都へと西徙し東山文化の基調となつた事が肯定せらるる。

(二) 史的事象人名地名が問題として課せられた時には先づ何時唯れが何處に何をしたかといふ四項目につきて必ず聯想しなくてはならない。更に何うなつたかといふ結果なり影響なりを考察して完璧たり得る。其處に問題としての價值があり受験者の眞實の力を評價し得るものである。大陸封鎖令といふナポレオン大帝の發布した大號令も只管其の内容だけを書綴つたでは十分でない。其れが物産の豊かでない英國といふ島國に對してであり、一八〇六年といふトラファルガル海戰の翌年の事でナポレオン大帝の最世紀であつたのである。而も此うした無理が西歐諸

國の蹴起となり遂に大帝没落の基因となつたと考へて初めて此の問題の理想的答案となるのである。

(三) 歴史は魂の歩みである。徒な手跡足跡ではない一步一步に新しい意味がなくてはならない、史的事象でも人名でも地名でも新意義の史的價值がある。佛蘭西のルソー等の啓蒙思想が十八世紀に現はれ更に十九世紀に日本へ支那へと現はれ來て帝國議會の開設を生み支那清朝の轉覆となつたものゝ其處には國民的の傳統精神によつて異なる光彩となり暗影となつたのである。

(四) 人生には因果の律を脱し得ない。(A)の原因は (B)の結果を生み (B)の結果は既に (C)の原因を孕むておることを忘れてはならない。大概前章の結尾の事象は次章の事件の遠因となるものである。徳川幕府の滅亡といふ問題については江戸開幕當時の朝廷對策を聯想する時所謂榮える平家久しからずといつた理法即ち遠因が明正女帝の即位の事情でありと言ひ得る。

(五) 受験の問題は可及的に數少く覚え方を確にしなくてはならない。此の問題が何章にあつた事位

は記憶すべきである。多讀粗讀は何の効果もない。惱裡の系統を素すのみである。永い年代を通觀する問題も近年よくあることながらそうしたものに驚くことはない、顯微鏡にあらはるゝ一つ一つの細胞はやがて人體を構成しておるのであるから各時代の代表的の人名事件さへ確實なれば何でもない。周時代と唐時代と清時代を年代順に記述する時には周の武王唐の玄宗清の聖祖と人名によつて配列すればよい。

(六) 各高等専門學校に共通する問題は其れだけ時代に大きな波紋をなけた譯であるから年號をも確實に記憶しなければない。年號ばかり記憶することに腐心しては却つて重なる事件の内容が忘却されて益がない。近來年號を問題とする場合もある。一四五三年に起りし事件と言つたことを練習するには各五學校分類問題の主要なるものに就き雜記帳に同符號を附け書入更に本章本節本項に参照すべきである。

(七) 各學校によりて問題の大多數が傾向がある。其れは各個の高等専門學校に現代の國家社會が要求し存在價值あらしめておるのである。斯故に問題によりて學校の色彩を會得する事が受験の鐵門の鍵錠を最も手近に握る方法である本問題の分類を熟讀して更に本章につきて習得する時

最上の確實性を帯びてくるのである。高等學校ならば文藝復古とか鎌倉時代の新宗教とか陸海軍の學校ならばペルシャ戰役とか長髮賊の亂とか言つた戰爭が多いのである。年度が続いて同一問題が命題を變へて課せらる事も多いから詰らぬ打算根性を出してはならない。

(八) 本分類の問題は受験前に必ず一度は雜記帳に練習し本章と参照すべきであつて記帳を確かにするには重要なものは印を附し地圖又は年表の如きものを書くことも須要である。ペルシャ戰役などは第一回から第二回と戰圖が異つて居るのであるから本章につき略圖を書いて見るのも効果がある。

(九) 歴史は大洋の様に連鎖され潮流の様に移徙してゐるのであるから外交政治や宗教美術と言つても割成さるべきでないから佛教の傳來の影響といつた問題でも政治界には大臣大連の政争なり美術上には推古藝術となつて現はれておるから天皇の御治績等の問題はなるべく各方面に何か事蹟がなかつたかと思ひ浮べて見なければならぬ。

(十) 人類は唯孤獨に生存して來たものでない。外交の問題につきましては彼我の當時の國情をも考慮し

なくてはならない。部族的に國家的に國際的に各個の秘密がなくなつて蜘蛛の巢の様になつてゆく、遣唐使といふ問題につきても其起原と廢止の年代につきて如何に支那の唐代の文化が整備して居たか日本の推古奈良朝は文化に對する同化力の盛な時代であつたかといふ事並に廢止當時の唐は安祿山の亂があり異民族が侵入して反面平安朝には獨創力が現はれて純日本文化建設に努力して居たかを考へなくてはならない。

編者 嶋尾 猥 庵

欠

前皇紀 八四一〇 七四九一	前皇紀 八四一〇 七四九一	前皇紀 八四一〇 七四九一	前皇紀 八四一〇 七四九一
神代略系	神代略系	神代略系	神代略系
神之御中主神	神之御中主神	神之御中主神	神之御中主神
高皇產靈神	高皇產靈神	高皇產靈神	高皇產靈神
常世思兼神 三穗津姬神	常世思兼神 三穗津姬神	常世思兼神 三穗津姬神	常世思兼神 三穗津姬神
少彥名命	少彥名命	少彥名命	少彥名命
可美葦牙彥身神 天之常立神 以上五神別天神	可美葦牙彥身神 天之常立神 以上五神別天神	可美葦牙彥身神 天之常立神 以上五神別天神	可美葦牙彥身神 天之常立神 以上五神別天神
國之常立神	國之常立神	國之常立神	國之常立神
豐雲野神	豐雲野神	豐雲野神	豐雲野神
泥土煮神 沙土煮神	泥土煮神 沙土煮神	泥土煮神 沙土煮神	泥土煮神 沙土煮神
角杙神 活杙神	角杙神 活杙神	角杙神 活杙神	角杙神 活杙神
大戸之道神 大戸之邊神	大戸之道神 大戸之邊神	大戸之道神 大戸之邊神	大戸之道神 大戸之邊神
意母太流神 阿夜可志古禰神	意母太流神 阿夜可志古禰神	意母太流神 阿夜可志古禰神	意母太流神 阿夜可志古禰神
伊弉諾神 伊弉冉神	伊弉諾神 伊弉冉神	伊弉諾神 伊弉冉神	伊弉諾神 伊弉冉神
以上天神七世	以上天神七世	以上天神七世	以上天神七世
諸丹二神 大綿津見神(海神) 大山祇神(山神) 木花開耶姬命 (瓊杵尊妃)	諸丹二神 大綿津見神(海神) 大山祇神(山神) 木花開耶姬命 (瓊杵尊妃)	諸丹二神 大綿津見神(海神) 大山祇神(山神) 木花開耶姬命 (瓊杵尊妃)	諸丹二神 大綿津見神(海神) 大山祇神(山神) 木花開耶姬命 (瓊杵尊妃)
1400	1400	1400	1400
Pheonicea B.C 1500	Pheonicea B.C 1500	Pheonicea B.C 1500	Pheonicea B.C 1500

前皇紀 一四二一 一四二一	前皇紀 一四二一 一四二一	前皇紀 一四二一 一四二一	前皇紀 一四二一 一四二一
神代略系	神代略系	神代略系	神代略系
天之御中主神	天之御中主神	天之御中主神	天之御中主神
高皇產靈神	高皇產靈神	高皇產靈神	高皇產靈神
常世思兼神 三穗津姬神	常世思兼神 三穗津姬神	常世思兼神 三穗津姬神	常世思兼神 三穗津姬神
少彥名命	少彥名命	少彥名命	少彥名命
可美葦牙彥身神 天之常立神 以上五神別天神	可美葦牙彥身神 天之常立神 以上五神別天神	可美葦牙彥身神 天之常立神 以上五神別天神	可美葦牙彥身神 天之常立神 以上五神別天神
國之常立神	國之常立神	國之常立神	國之常立神
豐雲野神	豐雲野神	豐雲野神	豐雲野神
泥土煮神 沙土煮神	泥土煮神 沙土煮神	泥土煮神 沙土煮神	泥土煮神 沙土煮神
角杙神 活杙神	角杙神 活杙神	角杙神 活杙神	角杙神 活杙神
大戸之道神 大戸之邊神	大戸之道神 大戸之邊神	大戸之道神 大戸之邊神	大戸之道神 大戸之邊神
意母太流神 阿夜可志古禰神	意母太流神 阿夜可志古禰神	意母太流神 阿夜可志古禰神	意母太流神 阿夜可志古禰神
伊弉諾神 伊弉冉神	伊弉諾神 伊弉冉神	伊弉諾神 伊弉冉神	伊弉諾神 伊弉冉神
以上天神七世	以上天神七世	以上天神七世	以上天神七世
諸丹二神 大綿津見神(海神) 大山祇神(山神) 木花開耶姬命 (瓊杵尊妃)	諸丹二神 大綿津見神(海神) 大山祇神(山神) 木花開耶姬命 (瓊杵尊妃)	諸丹二神 大綿津見神(海神) 大山祇神(山神) 木花開耶姬命 (瓊杵尊妃)	諸丹二神 大綿津見神(海神) 大山祇神(山神) 木花開耶姬命 (瓊杵尊妃)
1400	1400	1400	1400
Pheonicea B.C 1500	Pheonicea B.C 1500	Pheonicea B.C 1500	Pheonicea B.C 1500

B.C 1760	B.C 2200	B.C 2000	B.C 2000
桀王 時陀	禹王	吠度印	吠度印
THE EASTERN PROVINCES			
Assyria B.C 1900			
Hebrew B.C 2000			
Babylon B.C 2300			
Egypt B.C 3000			
B.C 1900	B.C 2000	B.C 2300	B.C 3000

紀前 九世 〇四二 一四一	紀前 十世 〇四三 一四二	前 世十 紀一 〇四四 一四三
神日本磐余彦尊 三毛入野命 彦稻飯命 五瀨命 鷗鷺草葺不合尊 彦火々出見尊	火闌降尊 天津彦々瓊々杵尊 天忍穗耳尊 天照皇大神	經津主命
韓 秦 韓 辯 韓	馬 鮮 南)	鮮朝子箕
		周 西
專 門 羅 波		武 王 1000
	Judea B.C 953	
		Greece B.C 11
		G

前 世十 紀二 〇四五 一四四	前 世十 紀三 〇四六 一四五	前 世十 紀四 〇四七 一四六
磐筒男神 武甕槌命 饒速日神 香久土命(火神) 建御名方神	八重事代命 大國主命 建速素盞鳴尊 月夜見尊	天照大神 大宜都姬命(生活神) 足名椎 奇稻田姬命 火々出見命
B.C 1120		殷 B.C
紂王		盤庚王
代 時 詩 史	度 印	1400
	E. Rameses II	
00		

紀前 四世	一〇 六六	二三	紀前 五世	一〇 六六	一二 皇紀
代	時	6 神 隨		5	4
		孝安		孝昭	懿德
		秦		威烈王	越
		孝公			勾踐
					佛
		Parthia			P. Cambyses
		B.C 331			
		Alexander 大王			波斯年役
		アレクサンドル大王の遠征			

紀前 六世	一〇 六一	紀七 前七世	〇四 〇六	紀前 八世	〇四 一四
3	2	紀神 元武		代時展發族民孫天	
安寧	綏靖	大正十五年十月	御名御璽 攝政名	長慶天皇御在位 確認詔書	
内閣總理大臣 若槻禮次郎	宮内大臣 一木喜徳郎	二十一日	レリ乃チ大統中同天皇ヲ 後村上天皇ノ次ニ列ス茲 ニ之ヲ宣示ス	朕惟フニ長慶天皇在位ノ 事蹟ハ史乘ノ紀述審ナラ ザルモノアリ今ヤ在廷ノ 臣僚ニ命シ深究精覈セシ メ其ノ事蹟明瞭ナルニ至	
				(立 鼎)	
				周 東	
				秋 春	B.C 770
				楚 莊王	平王
				晉 文公	齊 桓公
				Saka. 555	代 時 橫
				E A滅 Persia B P亡 B.C 546 H	
				Macedonia B.C 550	
				509 共和政治	
					Rome B.C 753
					帝政

紀 十 世	一六五一 〇六六一	紀 九 世	一六四一 〇六五一	紀 八 世
65	62	60	59	52
花 山	村 上	醍 醐	字 多	嵯 峨
白	關	政	攝	原
麗	高	937		
成 宗	定 宗	太 祖	女 真 王	景 文 王
宋 北	960	代 五		
遼		926		
太 宗	太 祖		宜 宗	
			EAST CALIPH	
			WEST CALIPH	
Otto	German			
	France	911		
			England	827
	Poland	954	Russia	862
				774

一六三一 〇六四一	紀 七 世	一六二一 〇六三一	紀 六 世紀	一六一 〇六二
朝 良 奈 45	38	36	35	33
聖 武	天 智	孝 德	皇 極	推 古
		一三〇六	權 專	崇 峻
		一三〇〇	我 蘇	一三三 三
	使 唐 遣 隨 遣			
一 統 羅	新	668	百	新 百
聖 德 王	孝 昭 王	文 武 王	武 烈 王	義 慈 王
		唐	618	隋
		高 宗	太 宗	煬 帝
				文 帝
渤 713	武 后			
支 宗	717			
		PURANAS 時代		
				Frank
				555
	711			
				Lombard
				568

世紀十五 一六〇二 〇六一二	世紀十四 一六九一 〇六〇二	世紀十三
103 代時町室 100	朝北南 一六九一 98 97 96 三三三	91代時83
後土御門 軍將利足	長・慶・後村上 (軍將王親)	後宇多 後嵯峨 權執
商通明		好
鮮朝李	1392	
成宗 太祖	恭愍王 忠肅王 元	忠烈王
憲宗	1368 太祖 順帝 世祖	理宗 ISL
		1261 Selduik Turks
1453		
1402	1339 百年役	
アンゴラ役		
	Austria 1276	
		Aragon & Castile
1479	Columbus 發見	

一五

一六八一 〇六九一	世紀十二 一〇六八 六一一	世紀十一 一〇六一 〇六七	皇紀
倉鎌 84	順德 軍將源	77 74	66 一條 專
條北	後鳥羽 (臣人平)	72 68	白河一七四 後一條 横
脩宋			
高宗	明宗 毅宗 睿宗	1127	文宗 顯宗 穆宗
1234	宋 南 金	1125	
寧宗	孝宗 高宗 徽宗		神宗 眞宗
1228			
			Holy Roman Empire G
	十字軍役		F
		1066 William	E
			R
			Hungary
		Portugal. 1095	

一四

世二一六五二 紀十七八五二	世 十 九 紀 九	一六四二 〇六五二	世十 紀八
時大明 代正治	122	121	119 代 116
今 123 上 大 閣 正 内	明治	孝明	光格 桃園
	船來米英露		(聘來使信鮮)
合日 併韓 1910	韓 1897		
	哲宗	憲宗	純祖 英宗
國民華中 1912			
袁世凱 光緒帝 併	穆宗	宣宗	仁宗 高宗
	合國帝印英	Bahadur 1857 1805	民殖國英 17
	Italy 1861		
1920 1914	1882 German 1871	1815	1789 1772
國際 聯盟	二國 及 三國 同 盟	ウイ ン 會 議	大革 命 波 蘭 分 割 Poland 亡 America 1783
		United Ststes	

一六三二 〇六四二	世 十 七 紀 七	一六二二 〇六三二	世十西 紀六紀	一六一二 〇六二二 皇紀
時 戶 1:3	江 111	109	時桃 代山	安土 104
東 山 軍 將	後西 川 德	明正	後108 水尾 吉秀	107 正親町 106 長信
朝) 商通	那支蘭和		航來人西葡	
肅宗 清		仁宗 1661	宜祖	明宗 中宗
聖祖	太宗	憲宗	神宗	孝宗
61 Auranzzeb Moghul 時代			Akbar 1556 Baber 1526	
1740 1721		1618	1555 1517	G F E R
埃國 繼承 役	北方 戰役	三十年 戰役	新舊 兩教 融和 宗教 改革	
			1564	
	Spain Portugal	1640		

三段式
對比

見易く覺え易い東洋史

第一章 上古の支那文化

甲、支那の文化

A 漢族の起源 B.C. Cir 3000

- ① 黄河 (Hoang Ho) 地帯の北支那占領。
 - イ 中央亞細亞より遷徙せり。
 - ロ 恒河 (R. Ganges) 地方の印度文化と俱に東洋の二大文明系統なり。
 - ハ 先住の苗族 (Indo China) を南支那へ放逐す。
- ② 天地の創造及び建國の神話。
 - イ 三皇の燧人伏羲神農の三氏は人類進化の過程の傳説なり。
 - ロ 黄帝。顓頊。帝嚳。堯。舜の五帝は建國に至る道程の傳説なり。
- ③ 黄帝の創業—軒轅氏とも稱す。
 - イ 蚩尤を涿鹿の野に撃退す。

□ 文字船車市場の文化を創造す。

B 唐虞時代—理想的二大聖主

① 帝堯—陶唐氏(陶—山東省曹州定陶縣 唐—山西省太原府太原) B.C. 2340

イ 殖産を奨励し仁徳あり。

□ 曆法創定—(十二月三百六十六日 三歲閏月 七閏一章)

② 帝舜—有虞氏(虞—山 西省蒲州府) B.C. 2260

イ 巡遊朝勤の制度—封建的の制度。

□ 九官と五刑(墨劓剕 宮大辟)の制定

ハ 黄河の汎濫を治む。

乙、夏時代

B.C. 2200—**十七代四百四十年間**
B.C. 1760

A 禹の禪讓—(禹は嘗て夏伯(河南 省禹州)に封せらる)

① 黄河の治水事業。

イ 舜の命をうけ父鯀の、失敗せるより苦難八年にて成功せり。

□ 九州の貢賦五服の制を創め禹域と稱せらる—地方行政の基。

② 安邑冀都(山西省 解州夏縣)—B.C. 2200

B 桀王の暴政—夏の滅亡 B.C. 1760

① 妹喜の愛に溺れ酒池肉林の遊をなす。

② 商の湯王に討たれ鳴條(山西省 安邑)に死す。

丙、殷時代

B.C. 1760—**二十八代六百四十年間**
B.C. 1120

A 商の湯王—(湯の祖先契は唐虞の世商 陝西省商州)に封せらる)

① 桀を南巢に放伐し亳(河南省歸德 府商邱縣)に定都。

② 伊尹輔弼となり封建制完備せり。

B 般庚王—(祖丁の子 十七代に して殷の中興の宗)

① 殷(河南省河南府 偃師縣)に遷都し國號を改む。

② 奢侈を禁じ綱紀を肅正せり。

C 紂王の苛政—(帝乙の子) B.C. 1122

① 妲己を寵し酷刑苛税を課す。

② 箕子微子比干の三仁の諫言を却く。

③ 周の武王に放伐せらる。

1 夏禹王……………16 發——癸(桀) 17
在位八 在位一九 在位五三

1 商成湯——太丁——2 太甲……………17 商盤庚……………
在位二三 在位三 在位二八

26 太丁——27 帝乙——微子啓(妾 腹)
在位三 在位三七
箕子——28 紂王辛(正後腹)

参考問題

1 漢人種の起原。(簡略)

2 夏時代より近代に至る迄の漢土の王朝を年代順記述。(漢土海疆外諸美術)

【註】 夏、殷、西周、東周、秦、前漢(西漢)、後漢(東漢)、蜀、西晉、東晉、南北朝、隋、唐、五代、北宋、南宋、元、明清。

第二章 西周東周の興亡

甲、西周の興起 B.C. 1120
B.C. 770

A 周の武王——(周の西伯) 昌の子)

① 殷の討滅。

イ 岐山より興り太公望(名は呂光)は文王の遺命により補佐せり。
ロ 伯夷叔齊諫言すれども聽かず。

② 鎬京(陝西省) 鎬京(長安岐山の南方) B.C. 1122

B 周公旦——(周の文王の子) 武王の弟)

① 政治的功績。

イ 冢宰となり成王の攝政たり。

ロ 同姓を諸侯に封し諸侯を鎮む。

② 文化的事蹟。

イ 禮樂制度の創定。

口 儒教思想の基調を創む。

乙、周室の東遷—東周の起因

(西周—武王より平王、二十三代)
(東周—桓王より赧王、二十四代)

A 原因

- ① 成王康王以降西周の衰頹。
- ② 幽王朝に太子宜臼廢位せられ申侯(河南省)等謀叛す。
- ③ 犬戎族侵入して幽王を殺害せり。

B 遷都

- ① 周公の創定せる東都洛邑(河南省)に遷都す。B.C. 770
- ② 東周と國號を改む西周は十三代三百五十二年間平王迄を言ふ。

丙、春秋時代

(東周十三代平王四九年)—二百五十年間 B.C. 770
B.C. 520

A 霸業

- ① 無政府状態にて東周の主權認められず。
- ② 聖人觀念に代り霸道興隆す。
- ③ 北方漢人種と南蠻人種との鬭争。

B 五

霸—周室の式微に當り尊王攘夷の功ありし諸侯

- ① 齊桓公宋襄王晉文王秦穆王楚莊王。

イ 管仲桓王を補佐し富國策をたつ鮑叔と交る。

ロ 南蠻異族を撃退す。B.C. 656

C 吳越

- ① 吳王闔閭越王と交戦し敗死せり。
- ② 吳の夫差會稽(浙江省)に復讐す。B.C. 494
- ③ 越王勾踐吳を討ちて復讐を企圖して夫老を撃ち伍子胥憤死す。B.C. 473
- ④ 吳越を加へ齊晉楚にても五霸と稱す—荀子の説。

丁、戰國時代

B.C. 440
B.C. 240

A 大勢

- ① 群雄割據して土地兼併を擅にせり。
- ② 田氏は齊を篡ひ晉は韓魏趙に三分し秦楚燕を加へ七雄と言ふ。

B 特徴

- ① 合従の説—秦に對抗す。B.C. 331

- イ 従は縦の意にて南北の聯盟。
- ロ 洛邑の人蘇秦提唱せり。
- ハ 六國同盟して秦に對抗せらるも失敗せり。
- ② 連衡の説—秦に修好す。B.C. 311
- イ 衡は横の意にて東西の協約。
- ロ 秦の相張儀主唱せり。
- ハ 張儀秦を去りて其の説も破る。

戊、秦の一統

(甘肅省) B.C. 359
(秦州) B.C. 221

A 原因

- ① 地 勢—函谷關の要塞(河南省 陝州府)
- ② 民族性—西戎と争闘し野蠻性。
- ③ 政治政策。
- イ 孝公朝商鞅は刑律新令を發し強兵策をたぐ。B.C. 359
- ロ 昭襄王朝范雎は遠交近攻の政策をたぐ。B.C. 256

B 統

—

- ① 東周滅亡—赧王降る…… B.C. 256
- ② 韓趙楚燕齊も討滅せらる B.C. 230—B.C. 221



参考問題

- 1 和漢の國體の異同。(外語 東師 大正二)
- 2 支那の國體。(外語)
- 3 春秋時代と戰國時代の差異。(廣師 大正一五)

- 4 唐漢明周元宋の年代順序列と國都。(專門)
- 【註】 1 周 鎬京後洛邑 2 漢 長安後洛陽 3 唐 長安 4 宋 開卦後健康
- 5 元和 林後開平 6 明 金陵後北京。
- 5 春秋の世及其の時代の覇者。(鹽經 海兵)
- 6 戰國時代の齊秦の疆域は凡そ今の支那の何省に當るか。(東師)
- 【註】 齊 山東省 秦 陝西省。
- 7 周末七大國の位置及其の國都。(二高)
- 1 田齊 山東省 2 韓 河南省 3 魏 河南省
- 臨淄 新鄭 開封
- 6 楚 湖北省 7 燕 直隸省 薊
- 8 支那秦楚燕の位置。(女師)
- 9 戰國時代の七雄國の名稱三晋の意義。(海兵)
- 10 戰國七雄。(海經)
- 11 洛陽の今の位置。(女師)
- 12 管仲。(海經)
- 13 齊管晉文。(商大略)

- 14 商鞅。(二高 海兵 東師 專門 大正三)
- 15 戰國時代の合從策。(陸士)
- 16 戰國時代の連衡策。(陸士 東師)
- 17 合從連衡。(陸士 海兵 東師 專門 長商 海經)
- 18 邯鄲。(東師)
- 19 周公旦の事蹟。

第三章 周代の文化 B.C. 1120—B.C. 256

甲、官制—夏—三公、九卿、二十七大夫
殷—二相

A 天子の諮詢機關—(樞密顧問)

- ① 三公—太師太傅太保。
- ② 三孤—少師少傅少保。

B 中央政府—内閣

- ① 天官—冢 宰—庶政。
- ② 地官—大司徒—民治。
- ③ 春官—大司馬—祭祀。
- ④ 夏官—大司馬—軍事。
- ⑤ 秋官—大司寇—刑律。
- ⑥ 冬官—大司空—工藝。

乙、田制税制

A 田制—井田法—班田授受法—(男二十歳にて授け
六十歳にて收む)

- ① 周の徹法(井田法)は夏の貢法(五十畝)殷の助法(七十畝)を併用せり。
- ② 方一里(九百畝)を九分し公田(一分百畝)と私田(八分各戸分耕)とに別つ—(百畝は一町七段)

B 税制—三征—租庸調

- ① 粟米の征—田租—總收額十分の一。
- ② 力役の征—勞役—一年間中三ケ日。
- ③ 布縷の征—絹布の貢納。

丙、學制

A 教育方針

- ① 六藝—禮樂(德育)射御(體育)書數(智育)。
- ② 日常の禮儀作法を基調とす。

B 學校

- ① 大學—京師—有爵者地方選拔者。
- ② 小學—地方—洒掃應對進退を教ふ。
- ③ 鄉校—夏は校。殷は序。周は庠。と言ふ。

丁、兵制—五人_{||}伍_{||}伍長。伍五_{||}兩_{||}司長。四兩_{||}卒_{||}卒長。卒五_{||}旅_{||}旅師。旅五_{||}師_{||}師師。師長_{||}軍_{||}軍將。

A 天子—六軍 七五〇〇〇人

B 諸侯—(六十四井五百十二家_{||}一甸_{||}甸の徴收額_{||}戎馬四匹、兵車一乘、牛十三頭、甲士三、步七十二)

① 公侯—三軍 三七五〇〇人。

② 伯—二軍 二五〇〇〇人。

③ 子男—一軍 一二五〇〇人。

戊、學 藝

A 興隆の理由

① 社會的因由—強食弱肉の世に救世主を要求せ。こと—倫理思想家。

② 政治的因由—諸侯覇者の學術専門を招聘せること—戰術家法律家。

B 學 說

① 孔子—儒家。孔孟の道。B.C. 552—B.C. 479

イ 閱歷—名は丘。字は仲尼。魯—(山東省昌平郷)の人。七十三歳歿す。

ロ 學說—仁の道を説き孝悌を基とし齊家經國の實踐道德なり。

ハ 事業—諸侯を遊説し周室の復興を謀り魯國の政治を執る。

ニ 學統—孔門十哲顔回等を始め三千人論語を著し春秋に筆削し易經詩經も校訂せり。

ホ 學系—子思の中庸。孟軻の孟子。荀況の荀子。等の著作ありて性善說性惡說に分る。

② 老子—道家。老莊の說。

イ 閱歷—姓は李。名は聃、楚國の人。

ロ 學說—無爲自然の虛無思想。

ハ 事業—孔子より少し長じて周の圖書館吏員を辭して函谷關の關令伊喜に道德經五千言を遺して去る。

ニ 學統—列禦寇の列子。莊周の莊子等の著作あり。

③ 諸子百家。

イ 法 家—秦の商鞅。秦の韓非。(著作には)韓非子

ロ 兵 家—吳の孫武(著書には)孫子(魏の吳起(著書には)吳子)

ハ 縱橫家—蘇秦。張儀。

ニ 文章家—屈原(漁父の辭の作あり) 宋玉(屈原の門人賦作家)

己、世 相

A 社會制度

- ① 社會階級—天子。諸侯。大夫。庶民。
 イ 王畿(天子直轄地)方百里(自錄京至洛邑)
- ロ 公侯(方百里)—大國。伯(方七十里)—次國。子男(方五十里)—小國
- ② 社會習俗。
 イ 男女の別は嚴格なり(七歲別席)
 ロ 男子加冠して名字の稱あり。
 ハ 婚姻—婚期(男三十歲女二十歲)六禮(納采問名納吉納徵請期親迎)
- ③ 世業
 イ 男—耕作して粟米を貢ぐ。
 ロ 女—紡績して布縷を納む。

B 家族制度

- ① 族長は祖先の祭祀九族を和合す。
- ② 家長は嚴にして子弟は孝悌なり。

參考問題

- 1 孔子の事蹟。(商船外語 廣師大正三 商船大正八)
- 2 孟軻。(海橋海經 海兵 海兵大正七)
- 3 六藝。(東師 東師大正三)
- 4 夏殷周に於ける田制税法。(海經 陸主大正四)
- 5 井田法。(山商專門)
- 6 韓非子。(東師)
- 7 吳起。

第四章 印度の古代文化

甲、印度の興隆 B.C. Cir 2000

A 起原

- ① アリアン族 (Indo Aryan) 葱嶺方面より南下して先住のドゥツイダ (Dravida) 種族を放逐す。
- ② パンジャブ (Pamjab) 地方 (恒河地方) (R. Ganges ~ R. Indus) に建國し身毒 (Sindo) と稱す。

B 國家組織—四姓 B.C. Cir 1000

- ① 波羅門 (Brahman) — 僧族 — 宗教學術。
- ② 刹帝利 (Kshatriya) — 士族 — 軍事政治。
- ③ 毘舍 (Vaisya) — 平民 — 牧畜耕作。
- ④ 成達羅 (Sudra) — 奴隸 — 苦役。

C 文化

- ① 婆羅門教の吠陀 (Veda) の神話哲學思想。
(第一期 = 吠陀時代 (西紀前二十世紀) 第二期 = 叙事詩時代 (西紀前十世紀) 第三期 = 婆羅門時代 (西紀前六世紀) 第四期 = 佛教時代 (西紀紀元前後))
- ② ラーマヤ (Ramayana) マハバラタ (Mahabharata) の長詩篇。
- ③ マヌ法典 (Manu) による婆羅門の法理學說。

④ 梵學としての語學軍事學醫學數學。

乙、佛 教 B.C. 565—B.C. 485

A 釋迦の (Sakya Muni) 事蹟

- ① 父—淨飯王 (Suddodana) 母—摩耶 (Maya) 迦毘羅城主 (Kapiravastu)
- ② 姓—喬答摩 (Gautama) 名—悉達 (Siddhatha) 生時—B.C. 565 降誕地—ネパ (Nepal) 國タライ (Tarai) 地方。
- ③ 宗教的煩悶—生老病死の四苦を思索し山林に籠り波羅門の苦行をす—二十九歳。
- ④ 解説—佛陀伽耶 (Buddha Gaya) の菩提樹 (pipala) 下に於て苦集滅道の四諦を悟る—三十五歳。
- ⑤ 布教—摩伽陀 (Magadha) 國より恒河地帯を遊説巡鐸す—四十年間。
- ⑥ 涅槃—クシナガラ (Kusinagara) の沙羅雙樹の鶴林に入寂す—八十歳。
- ⑦ 遺骨—舍利佛として東洋諸國に分葬す。日蓮寺 (名古屋) の舍利骨は暹羅皇室より寄贈。

B 傳 統

- ① 阿育王 Asoka—阿輸王と記す………B.C.
- イ 中印度摩伽陀國王………B.C. 272
- ロ 經律論三藏の結集 (經は佛説論は) (律は佛戒)
- ハ 布教—東は緬甸 (Burma) 西は中亞細亞 (Bactria) 南は錫蘭 (Ceylon) 北は罽賓 (Kashmere)

- ニ 南方佛教となる—小乗教。
- ② 迦貳色迦王 (Kanishka) B.C. 60
 - イ 中央亞細亞大月氏國王 (クシヤン)
 - ロ 罽賓の三藏結集。
 - ハ 東漢明帝朝經典僧侶を傳ふ。
 - ニ 北方佛教となる—大乘教。
- ホ 健陀羅 (Kandahar) 式の藝術は佛教美術の精華なり—石窟院。壁畫。彫刻。

參考問題

- 1 印度四姓。(東師)
- 2 上代の印度。(前編 大正五)
- 3 印度古代の社會制度及釋迦。(陸士 大正七)
- 4 印度に佛教の興起せし理由。(專門)
- 5 阿育王。(東師 陸士 東師 大正四 南大 大正十四)
- 6 迦貳色加王。(東師)
- 7 佛陀加耶。

第五章 秦の興亡

甲、秦の興起

- A 秦の始皇帝—(名は政 莊襄王の子) B.C. 221—B.C. 207
 - ① 即位して皇帝(徳は三皇 功は五帝)と稱し二世三世と萬世に繼承し謚號を廢す。
 - ② 支那國號—漢族發展しシン (Chin) はシナ (China) と訛つた。
- B 統一事業
 - ① 帝都—咸陽を都とし富豪十二萬戸を移す—(陝西省鳳翔府 秦の孝公商鞅は宮廷を築造せり)
 - ② 永久平和策として兵器を收め鐘人を鑄る—(十二の銅人—長五六 各重さ二十四萬斤)
 - ③ 度量衡軌を統一す。
 - ④ 文字の整理。古文の蝌蚪文字篆書隸書を統一せり。
- C 政治組織
 - ① 李斯の献策。
 - ② 中央政府 丞相—總務。大尉—軍事。御史大夫—監督。

③ 地方—三十六郡 守—民政 尉—軍政 監—監督。

D 外 征 B.C. 215

① 匈奴征伐。

イ 匈奴 (Huns) (キョウド。フンヌ) は北戎としてトルコ族 (Turkey) にて春秋時代より南遷せ
る游牧未開種族なり。

ロ 蒙恬三十萬を以て征伐して河南(オルトス)の地方 (Ortos) まで追撃せり……B.C. 215

ハ 萬里長城—東は遼東より西は臨洮まで—(高さ十五丈より三十尺 厚さ基底二十五尺上部十五尺)

② 南越征伐。

イ 廣東廣西地方の南蠻苗族を討伐し四郡(閩中。南海。桂林。象郡)を設置す。
ロ 漢人五十萬を移住す。

乙、秦の滅亡

A 原因

① 勞役の苛酷。

イ 長城築造—七百里。

ロ 阿房宮—收容人數五十萬(東西五百步 南北五十步)

ハ 咸陽の首都。

② 財政の紊亂。

イ 渭南の上林苑(西安府)の皇居。

ロ 泰山梁父山に封禪し求仙す。

ハ 南支那に於ける移民事業。

③ 思想の惡化。 B.C. 213—B.C. 212

イ 刑律過重囚人酷使。

ロ 租稅苛酷。

ハ 焚書坑儒と稱して道德政治に關する書籍を焼き(醫藥と筮 農書除外) 儒生四百六十人を坑にす。B.C. 212

B 滅亡

① 二世皇帝は蕩情暴虐にして失政す。

② 宦者趙高の政權壟斷し二世皇帝を弑害し李斯蒙恬を斬殺し子嬰を擁立す。

③ 項羽劉邦等舉兵し群雄起る。

扶蘇

秦始皇帝 在位十五
某—子嬰 (3)

B.C. 1111

二世皇帝 在位三

参考問題

- 1 秦隨晉漢三國宋五代唐南北朝明元清の年代順序列。(東師專門大正五)
- 2 秦の始皇帝の事業。(東師女師海經大正二 山南大正三)
- 3 秦の始皇帝の政略。(陸士一高)
- 4 秦の始皇帝改革の諸點。(東師美術廣師大正三)
- 5 李斯。(海鏡東師東商)
- 6 匈奴。(東師東面大正九)
- 7 超高。
- 8 蒙恬。

第六章 西漢—前漢の興起 B.C. 202—A.D. 8

甲、漢楚の分争

A 項羽の暴擧 B.C. 206—B.C. 202

- ① 楚の人。名は籍。字は羽。秦未擧兵せし項梁の甥なり。
- ② 江東(江蘇)に擧兵し劉邦と相約して咸陽を攻撃す。
- ③ 鴻門の會(陝西省西安府)
 - イ 劉邦項羽に先して占領せるを怒る。
 - ロ 劉邦は張良と樊噲の智勇によつて避難す。
 - ハ 范增は劉邦を殺害せむとして失敗す。
- ④ 阿房宮を焼き子嬰を殺害し秦始皇帝の王墓を發く。
- ⑤ 東歸して彭城に都し西楚の霸王となる(江蘇)
- ⑥ 劉邦と交戦四年にして垓下に敗れ烏江に自殺す(安徽省和州城)………B.C. 202

B 劉邦の成功

- ① 沛(江蘇)に擧兵して咸陽を攻略し秦の苛政を解き人望良し。

- ② 項羽は東歸してより漢中(陝西)巴蜀(四川)を領し漢王に封ぜらる。
- ③ 漢の三傑の富國強兵の策を執る。
イ 蕭何—沛の人。漢の丞相たり。
ロ 張良—韓の人。博浪沙に始皇帝を狙撃せることあり。
ハ 韓信—淮陰の人。項羽を討つ。

乙、漢の高祖—劉邦即位 B.C. 202—B.C. 194

A 内政

- ① 秦の和平統一策を繼承せり。
- ② 長安に冀都し朝儀を制定す。
- ③ 周の封建制秦の郡縣制を併用す。

B 封土—政略

- ① 封侯は建國の功臣老将を以てして後には韓信彭越英布等皆殺害せらる。
- ② 漸進的に血族を以て封し藩屏とす。

丙、呂氏の亂 B.C. 195—B.C. 180

A 原因

- ① 高祖死し呂太后及其の族專横なり。
 - ② 惠帝死し趙王を殺し戚夫人を殺して篡奪して臨朝八年間に及ぶ。
- B 鎮定—周勃陳平鎮壓す

丁、吳楚七國の亂 B.C. 154

A 原因

- ① 劉氏の諸王強勢となる—惠帝多病にして呂氏の内亂あり。
- ② 文帝諸王の封土を分ち其の弟子に割譲す—賈誼の獻策。
- ③ 景帝諸侯の封度の過大なるものを削減す—晁錯の獻策。

B 乱況

- ① 吳王濞主謀たり。
- ② 楚。趙。膠西。膠東。菑川。濟南等。聯盟せり。

C 結果

- ① 大尉周亞父鎮定す。
- ② 亂後諸王を京師に參勤せしむ。
- ③ 文臣を以て地方政治を執らしむ。



參考問題

- 1 漢の高祖の事業。(陸士美術大正四)
- 2 漢の高祖の爲政の概要。(美術)
- 3 長安。(五高各商大正三)
- 4 烏江。(東師)
- 5 周亞夫。(東師)
- 6 蕭何。(陸經大正七)

- 7 鼂錯。(陸士大正六)
- 8 項羽。
- 9 張良。
- 10 漢の三傑の事蹟。

第七章 西漢—前漢時代の外交

甲、西漢の武帝の外征

A 朝鮮経略

- ① 古朝鮮と支那との關係……B.C. 1120—B.C. 194
 - イ 古朝鮮は殷の王族箕子建國す。
 - ロ 王險(平安道)に箕都し支那文化を移す(井田法音楽等も傳へた) B.C. 1120
 - ハ 箕準(四十一)に至り滅亡(九百)年間
 - ニ 燕人衛滿篡奪す……B.C. 194
- ② 漢の郡縣統治。B.C. 108
 - イ 原因—衛右渠(衛滿の孫)が漢の邊吏を殺害せるより武帝征服す。
 - ロ 結果—樂浪。玄菟。臨屯。眞番の四郡を設置す(京城以北の北鮮) 滿州を含む
 - ③ 三韓の鼎立。
- イ 朝鮮の漢江以南部なり。

ロ 馬韓。辰韓—(秦韓)。辦韓あり。
ハ 漢と交通し又日本との交渉もあり。

B 匈奴征伐

C 南越東越と南蠻族の平定

- ① 南越東越は秦末の内亂ありて獨立し漢使を殺害す……B.C. 203
- ② 武帝征服して番禺(廣東)を占領し郡縣を再興す……B.C. 111
- ③ 四川省地帯の諸蕃族平定。

乙、西域との交渉

A 西域諸國

- ① 位置—新疆省パミル (Pamir) 高原地帯—東は玉關(甘肅省敦煌の西北)陽關(敦煌の西南)より葱嶺。
- ② 匈奴の興隆の理由。
 - イ 秦の始皇帝の退嬰武策。
 - ロ 冒頓單于の統一—東胡 (Tongus) 族の故地たる蒙古。月氏族の故地たる甘肅地方。
 - ハ 漢の高祖の軟弱外交—白登山(山西省大同府)に圍まれ夫人寶物を貢す。
- ③ 匈奴征服。

イ 衛青。霍去病(衛青の甥)は瀚海に於いて撃破す。
ロ 匈奴は漢南—内蒙古を放棄す。

④ 國名—西漢時代は三十六國。東漢時代。五十國—疎勒 (Kashgar) 大宛 (Fergana) 大夏 (Bactria) 安息 (Arsaces) 于闐 (Khotan) 龜茲 (Kucha) 車莎 (Yarkand) 烏孫 (Usun) 等。

B 張騫の派遣……B.C. 114—B.C. 126

- ① 目的—漢はバクトリア (Bactria) の大月氏國と協力して匈奴を夾撃せむとす。
- ② 結果—匈奴に捕へられ後逃走せるも大月氏國衰微して目的失敗す。
- ③ 影響—中央亞細亞との交通開けり。

C 交通の状況

① 交通路—南北兩道。

イ 南道—樓蘭—于闐—莎車—葱嶺—大月氏—安息。

ロ 北道—樓蘭—伊吾盧—龜茲—疎勒—葱嶺—罽賓—身毒。

② 輸入品—葡萄。良馬。苜蓿。胡麻。柘榴。孔雀。獅子。駱駝。

③ 和蕃公主—漢の王族の子女が西域諸國の王に婚嫁せるもの。

丙、武帝の失敗—外征の結果

A 財政の紊乱

- ① 武功爵級を濫授し買官の制を設く。
- ② 鹽鐵酒の專賣事業。
- ③ 官物を賣却し均輸平准法を設く。

B 國民の反感

- ① 方士神仙術等の迷信により建昌宮承露盤を築造す。
- ② 外征によつて人馬の徵發苛酷なり。

参考問題

- 1 漢の武帝以前の古朝鮮。(東師八高東師 大正六)
- 2 三韓の名稱及び位置。(東師)
- 3 古朝鮮の起原。(陸士)
- 4 漢の武帝。(女師)
- 5 張騫。(各高東師 女師 廣師 東師 大正三 海機 大正三 廣師 大正三 海兵 大正八 陸士 大正一一 廣師 昭和元)
- 6 三韓の位置と起原。

【註】馬韓 全羅、忠清、京畿道。

燕人衛滿に逐はれ金馬郡に於て箕準建國す。

辰韓 慶尙北道。

秦の始皇帝の苦役により避逃せるもの。

濊韓 慶尙南道。

秦韓人と雜居し聯邦を組織し日本の邊民と交渉あり。

第八章 西漢の衰微

甲、宣帝の中興

A 霍光の攝政——(霍去病の異母弟大司馬大將軍)となり宣帝の時關白となる

- ① 昭帝八歳にて即位せるにより攝政すること二十年間。
- ② 衛太子の孫なる宣帝を擁立せり。

B 内治外交の振興

- ① 魏相丙吉千定國等の良更輩出し麒麟閣の十一人と敬せらる。
- ② 外交 B.C. 80
 - イ 烏孫と協力し匈奴を夾撃し西域三十六國も入貢す。
 - ロ 鄭吉を派遣し西域都護府を烏壘城(新疆省庫車)に設置せり。

乙、西漢の中絶 A.D. 8—A.D. 25

A 因 由

- ① 元帝多帝にして宦官の執政。

② 成帝の朝より外戚の政權壟斷。

イ 王鳳王音—大司馬大將軍たり。

ロ 王崇等五弟(譚、尚立、根、逢時)は諸侯となる。

ハ 王蔓の子王莽—攝政。

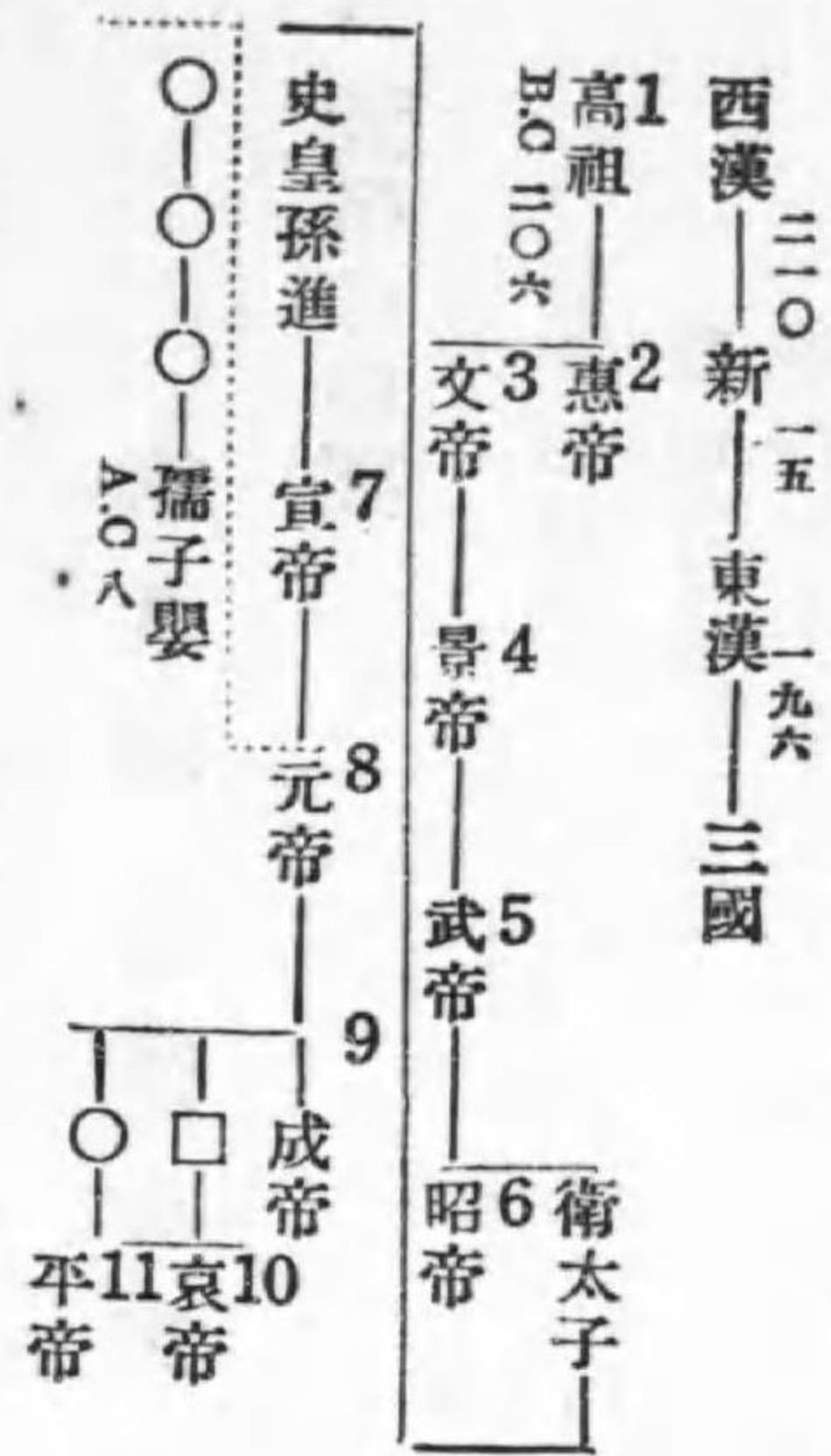
B 新の政策

① 新の政策—王莽平帝を弑害して西漢滅亡せり。

② 吏民の頌徳上書する四十八萬人あり篡奪して新と國號を改む。

③ 貨錢を改鑄し重税を課し法令煩鎖なり。

④ 漢の王族と戦ひ敗れて滅亡す十五年間なり。



参考問題

- 1 霍光。(二高)
- 2 王莽。(陸士海樓大正四)
- 3 前漢を滅して之に代へる人の名及び其の主なる事蹟。(漢書)
- 4 西曆紀元初世紀は支那の何朝か。(東史)
- 5 鄭吉。

第九章 東漢—後漢の興亡

甲、光武帝の一統—劉秀即位 25

A 昆陽の戦—(河南省南陽府)

- ① 戰因—王莽の苛政に乗じて西漢の王族劉秀舉兵す。
- ② 戰況—王莽の四十二萬の大軍敗し虎豹股戰したり。
- ③ 結果—光武帝洛陽(洛邑)に奠都即位せり。

B 儒教を振興し外戚の権力を抑壓す。

乙、東漢の外交

A 匈奴の服屬

- ① 新王莽時代に再興し北匈奴南匈奴に分割せり。
- ② 内蒙古の南匈奴東漢光武帝に降る。
- ③ 外蒙古の北匈奴は明帝朝に竇固に征伐せらる。
- ④ 匈奴の西移—西域諸國を放棄しカスピ海に逃走す。

B 西域統治 91—107

- ① 明帝の朝班超遠征し龜茲(Kucha)(天山南路)に西域都護府を設置す。
- ② 章帝以後外交方針は定らす適才もなく安帝の朝全廢す。

C 大秦との交通 166

- ① 名稱—支那にて羅馬帝國を稱呼す。
- ② 沿革—班超は甘英を派遣せるも安息人に障害せられて失敗せり。
- ③ 遣使—大秦(Rome)帝國の安敦(Marcus Aurelius Antonius)海路より使節を派遣せり。
- ④ 通商—東京(Tonking)地方にて絹布を輸出す。

丙、東漢の衰微

A 外戚の専横—幼帝の擁立

- ① 竇后—④和帝即位十歳
- ② 鄧后—⑤廢帝百ヶ日 ⑥ 安帝即位十四歳
- ③ 閻后—⑦順帝即位十一歳
- ④ 梁后—⑧冲帝即位二歳 ⑨ 質帝即位八歳
- ⑩ 桓帝即位十五歳

B 宦官の跋扈

- ① 外戚梁冀專横なるにより宦者單超の援助にて抑壓す。
- ② 李膺等二百名黨人として反宦者熱を宣傳し禁錮せる。
- ③ 袁紹舉兵して少長等宦官二千名を殺害す。

丁、東漢の滅亡 184—220

A 群雄割據

- ① 董卓の亂—宦者討伐と僞稱して舉し獻帝を脅迫し長安に據り在位三年にて呂布に殺さる。
- ② 曹操—江北。劉備—巴蜀。孫權—江南に舉兵獨立せり。

B 曹否(曹操の子)東漢の獻帝を退位せしむ。

西漢—東漢……B.C. 206—A.D. 220

(1) 東漢光武帝—(2) 明帝—(3) 章帝—(4) 和帝—(5) 殤帝

(6) 安帝—(7) 順帝—(8) 冲帝
 (9) 質帝



参考問題

- 1 昆陽の戰。(東師)
- 2 洛陽。(女師)
- 3 東漢の光武帝。(東師 女師 專門 東師 大正八 陸士 大正九)
- 4 班超。(東師)
- 5 漢と大秦との交通。(八高 陸士)
- 6 大秦國。(廣師 八高 廣師 大正一一)
- 7 黨錮の禍。(東師 專門)
- 8 黃巾の賊。(海欄 陸士)

【註】 東漢の末期地方政治紊亂し道教を信仰し符水妖術を以て山東省の鉅鹿の張角及び弟なる張寶張梁等 叛徒數十萬人騒動し皇甫のため討伐せらる。

- 9 龜茲國。
- 10 董卓の亂。

第十章 漢代の文化 B.C. 206—A.D. 220

甲、儒學

A 文運復活の理由

- ① 前漢の武帝董仲舒の三策を用ふ。
イ 秦の祕密政策を廢し公明なる政治を創むる事。
ロ 儒教により人心を收斂する事。
ハ 教育を振興し社會教化する事。
- ② 武帝は大學を復活し五經博士(易詩書禮春秋)を創置せり。

B 古學の研究

- ① 孔安國(孔子十一世の孫)孔子の舊宅より古文尙書禮記論語を發見し研究せり。
- ② 五經博士によりて訓詁學派と稱し語句の研究行はる。
- ③ 後漢には馬融鄭玄により集大成す。
- ④ 字劃制定の結果石經の發達。

乙、文 藝

- A 詩賦—前漢武帝朝司馬相如
- B 文章—前漢の司馬遷の史記。後漢の班固(兄^超)の漢書等の史書、及女流作家として班昭(班^超の妹)あり。
- C 文字—楷行草三體發達し蔡倫紙を發明す。

丙、宗 教

- A 佛教の傳來—後漢の明帝 67
 - ① 蔡愔を大月氏國に派遣求法せしむ。
 - ② 加葉摩騰 (Kasyapa Matanga) 來朝し佛說四十二章經を傳ふ。
 - ③ 長安に始めて白馬寺建立せらる。
- B 道教の成立
 - ① 陰陽五行説より織緯學起る。
 - ② 後漢の張陵老莊の道士說神仙術を加へ道教を創む。

参考問題

- 1 佛教の東漸。(専門各高 東師 陸士 大正三 六高 大正五 陸士 大正八)
 - 2 加葉摩騰。(東師)
 - 3 兩漢の文物の概要。(東師 大正五)
 - 4 兩漢の文物の相違。(東師)
- 【註】
- | | | |
|----|-------|--------|
| 儒學 | 儒學の復興 | 五行説の流行 |
| 佛教 | | 佛教の東漸 |
| 文藝 | 詩賦の流行 | 音韻の研究 |
- 5 道教。(陸士)
 - 6 司馬遷。(東師)
 - 7 白馬寺。(東師 大正二)
 - 8 司馬相如。
 - 9 孔安國。
 - 10 後漢の明帝。
 - 11 班固。

第十一章 三國及び西晉東晉の盛衰

甲、三國の攻争 208—234

A 覇業—天下三分

- ① 曹丕(曹參の裔) — 洛陽—魏の大帝。
- ② 劉備(漢の景帝の裔) — 成都—漢の昭烈帝。
- ③ 孫權(吳の孫堅の子) — 建業—吳の大帝。

B 赤壁の戦—(湖北省武昌府)

- ① 原因—曹操揚子江以南を併呑せむとして吳を脅迫す、諸葛亮孫權に宣戦を力説す。
- ② 戦況

イ 吳漢聯合軍—吳の周瑜三萬兵。

ロ 魏軍の水師八十萬數十艘焼失し曹操逃走す。

C 白帝城の戦

D 五丈原の戦—(陝西省鳳翔府) 234

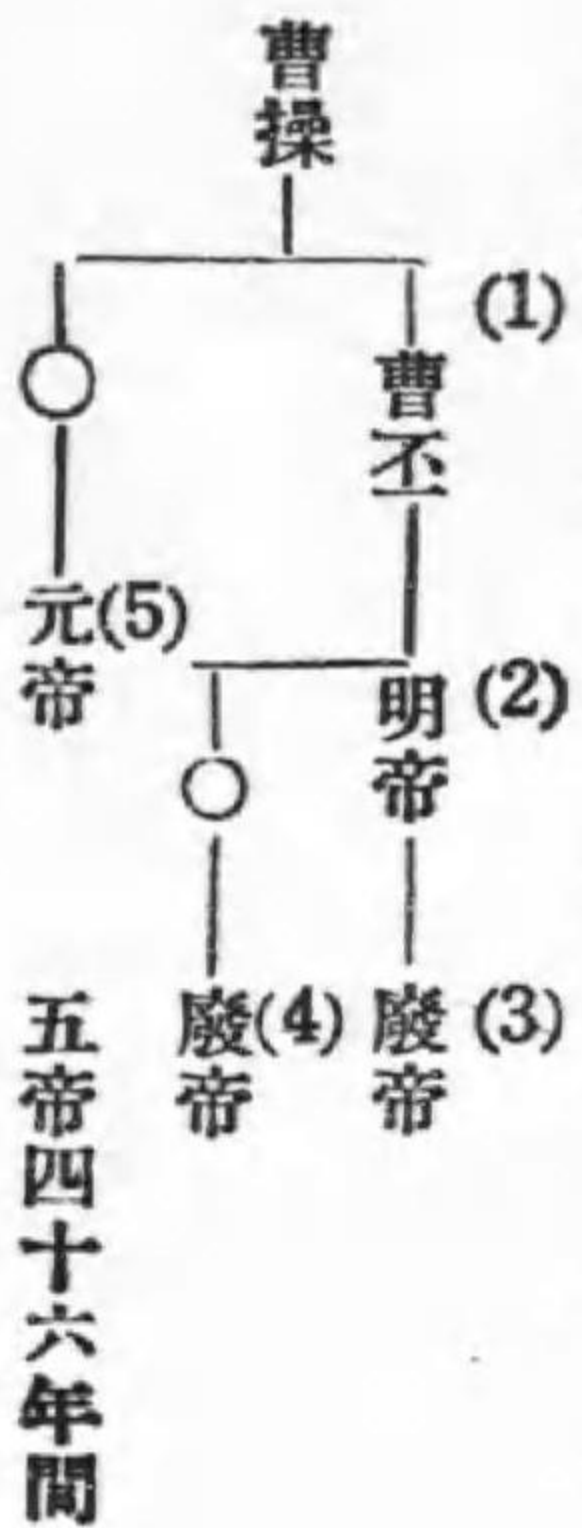
- ① 目的—關羽の仇讐を報ぜむとす。
- ② 戦況—漢軍は吳の孫權に夷陵に撃破せられて劉備憤死す。
- ① 魏明帝—司馬懿(字仲達)
- ② 蜀漢劉禪—諸葛亮(字孔明)戦死す……234

乙、三國の滅亡 興二二〇—亡二八〇

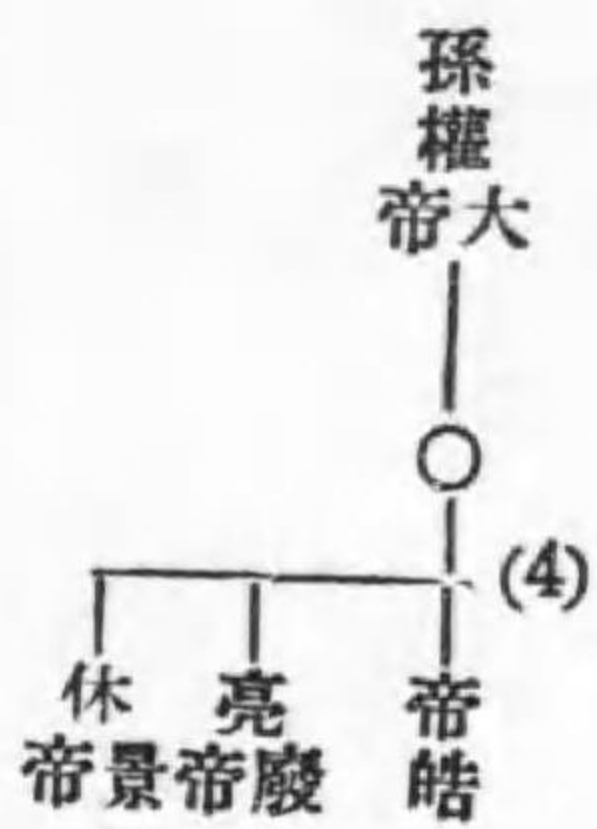
A 蜀漢……二二二—二六三—魏に討滅せらる。

劉備—劉禪 四十二年間

B 魏……二二〇—二六五—魏司馬炎篡奪して西晉と號す。



C 吳……二二九—二八〇—西晉の司馬炎に滅さる。



四帝五十二年間

丙、西 晉 280—316

A 創業

① 司馬炎は武帝と稱し洛陽に奠都。

② 血族を分封せるが塞外の異民族の内地に雜居せり。

B 衰 運

① 武帝の失政。

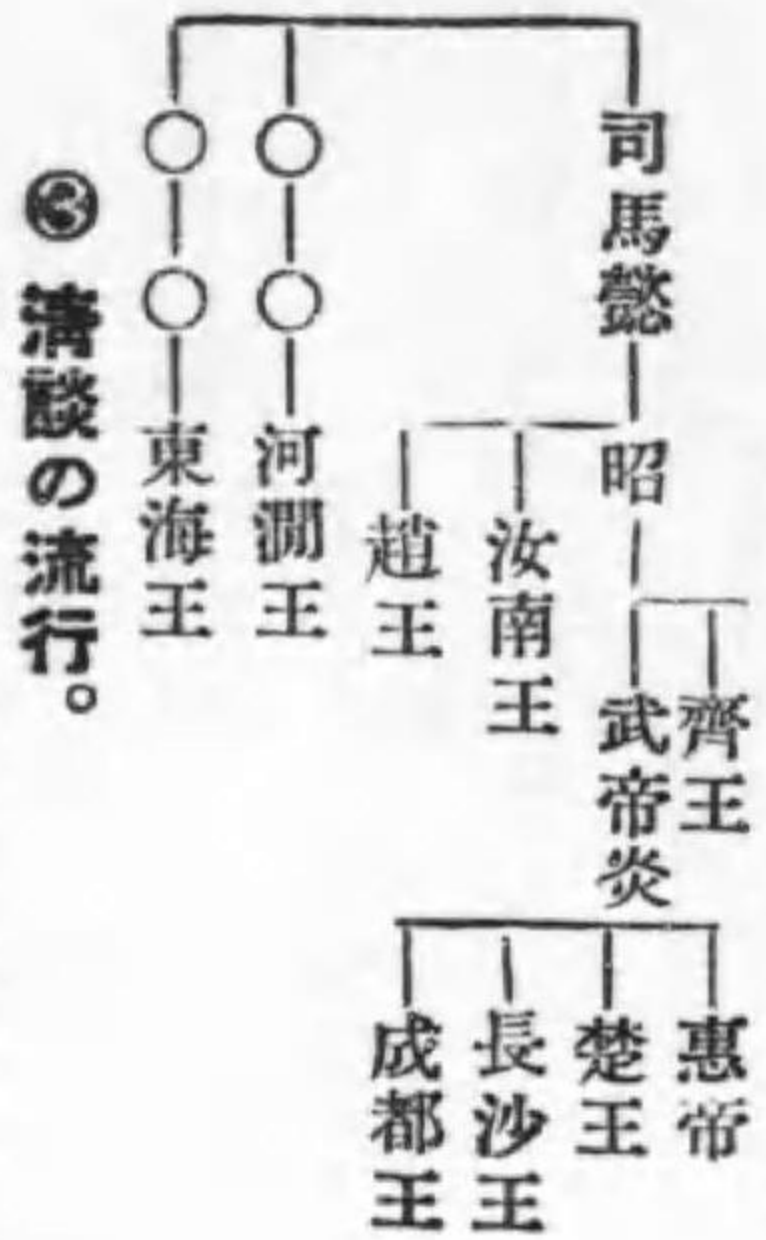
イ 羊車舞妓の豪奢により財源の窮迫。

ロ 州郡の國境地帯の武備の徹廢。

② 八王の亂。

イ 原因—惠帝暗愚にして賈后專横なり。

ロ 亂況—趙王舉兵し賈后惠帝を廢し自立す齊王河間王等相次いで叛す。



③ 清談の流行。

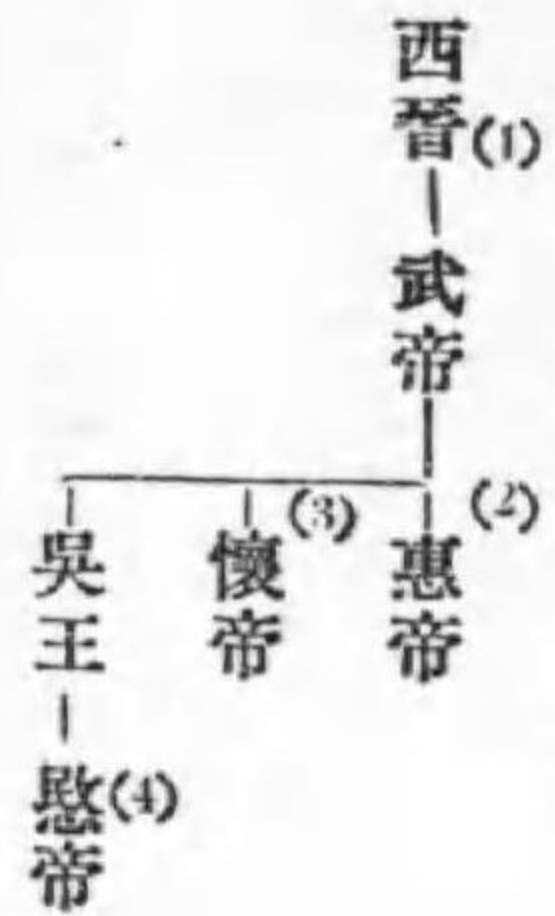
イ 老莊の虛無厭世思想に基きて政治社會を拒否せり。

ロ 竹林七賢—阮咸。阮籍。稽康。山濤。劉伶。白秀。王戎。

C 滅 亡 316

① 漢の劉聰は劉曜及石勒を派遣して討伐せり。

② 西晉の愍帝長安に降る。



丁、東 晉 317—420

A 創 業

- ① 五胡の異族北支那を占有せり。
- ② 西晉の王族司馬睿江南を保ち建康に即位せり。

B 衰 滅

① 肥水の戦。383

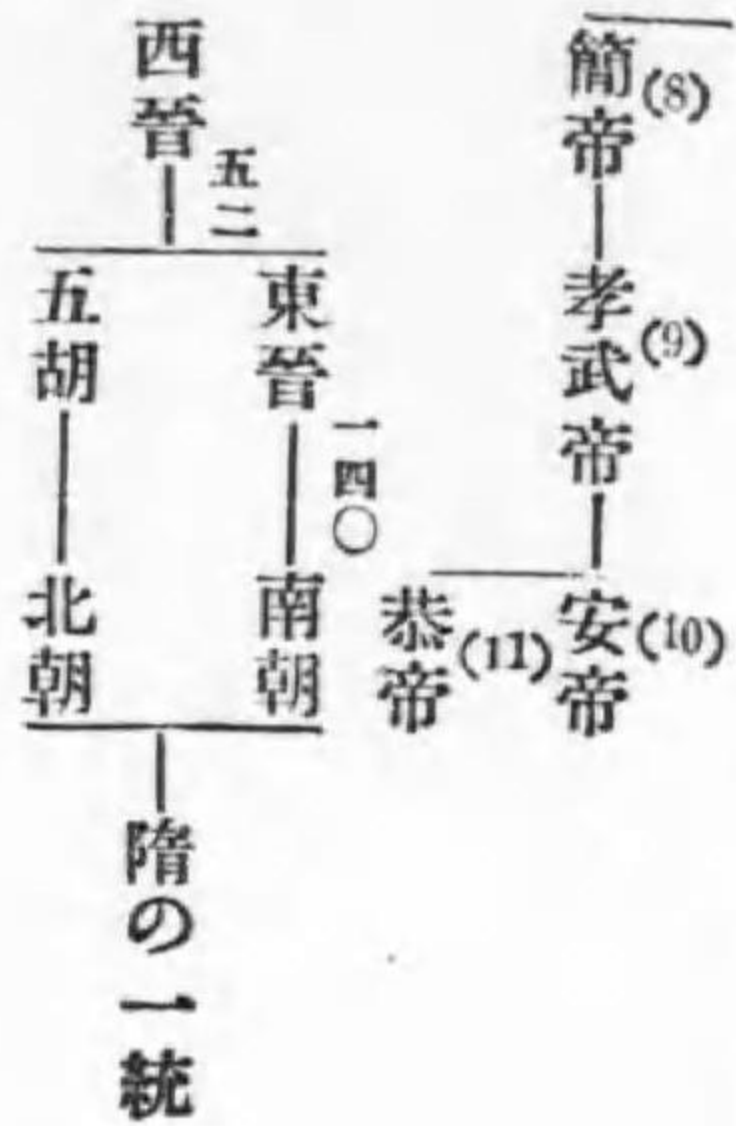
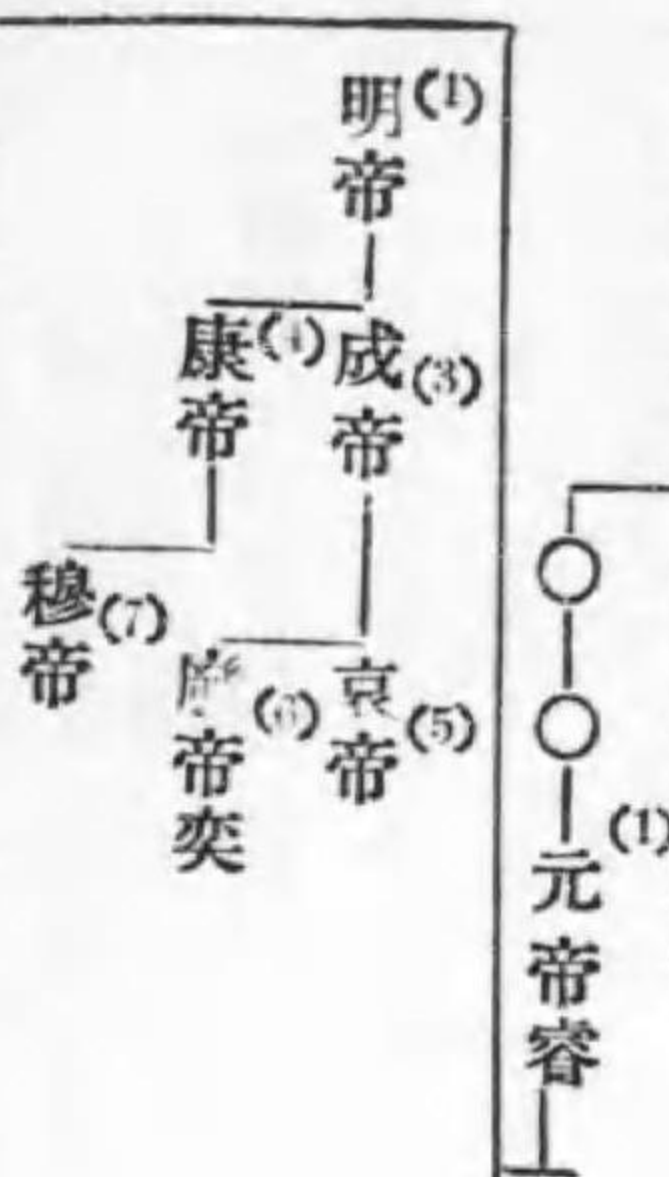
イ原因—北支那の前秦の苻堅來攻す。

ロ戦況—東晉の謝安謝石等八萬を以て苻堅の六十萬卒二十七萬騎を淝水(安徽省鳳陽府)に撃破す。

ハ影響—前秦衰微し江北の分裂を生ず。

② 東晉も戦後衰微し丞相劉裕篡立して宋の武帝となる。

東晉司馬懿—昭—西晉武帝



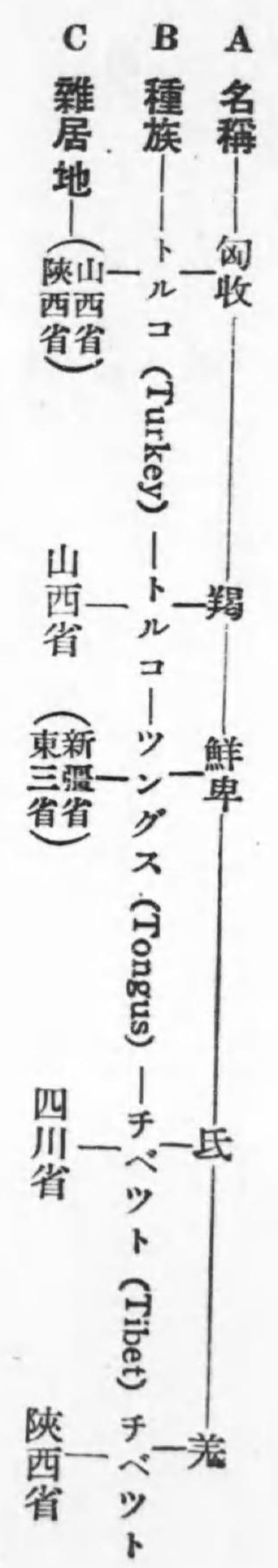
参考問題

- 1 三國の國號及び其の初の君主の名稱。(漢書)
- 2 諸葛孔明の事蹟。(名工六高海兵)
- 3 支那に於ける洛陽蜀は今の何處に當るか。(女師)
- 4 建業の位置。(長西)
- 5 成都。(長商)
- 6 蜀。(女師)
- 7 建康。(二高東師)

- 8 清談の流行及び其の影響。(陸士大正六)
- 9 八王の亂。(海嶺大正三)
- 10 淝水の戰。(東師東南大正二 各高 大正八 東師 大正九 南大 大正一四)

第十二章 五胡南北朝の興廢

甲、五胡



乙、十六國 304—439

A 建國の順序

前趙、成漢、後趙、前燕、前涼、前秦、後燕、後秦、西秦、後涼、南燕、西涼、南涼、北涼、大夏、北燕。

【註】 左側は建國者名其の上の数字は代数。



B 前秦…351—394

C 後魏…485—534

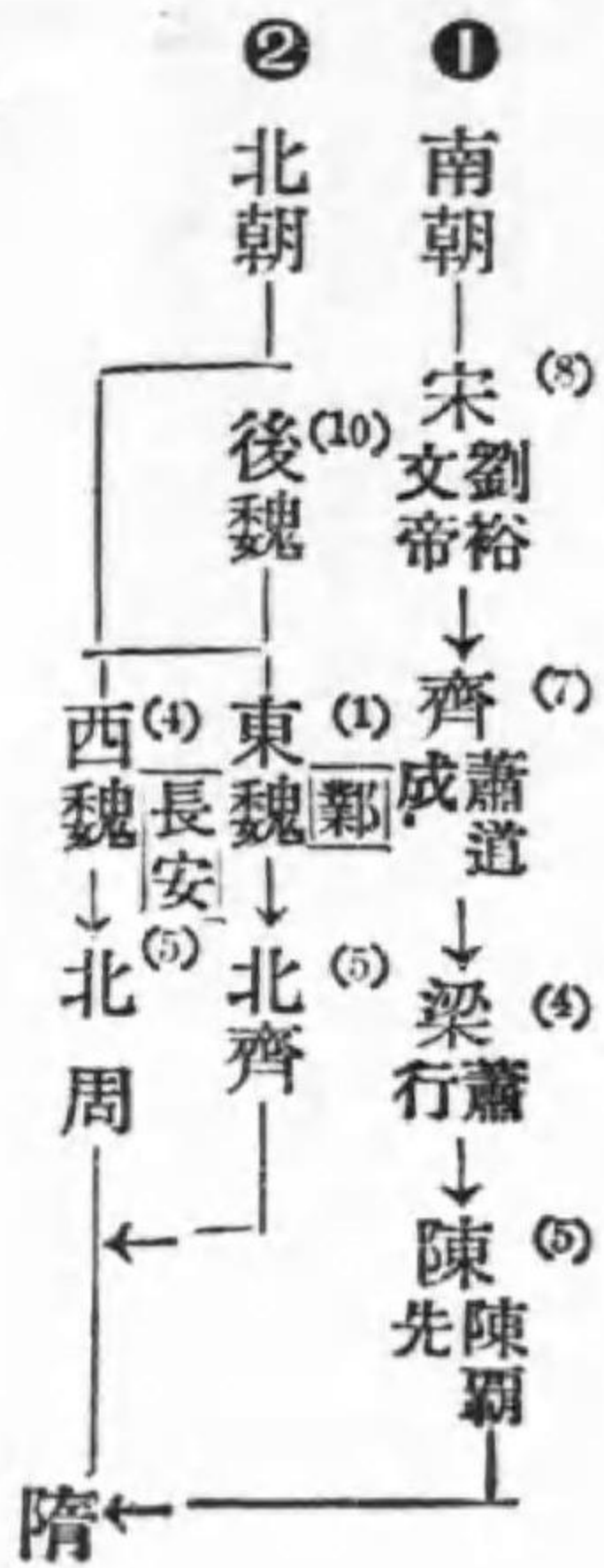
- ① 興起—氏西蒲洪は前趙の劉聰に従ひ更に石勒に事へ後趙の滅後三秦王と稱し苻と改姓せり。
- ② 建國—苻建長安に奠都し前涼前燕を討滅し高句麗新羅と修好す。
- ③ 衰滅—淝水の戦に敗れ第六代苻崇は後秦の姚興に討滅さる。

① 建國—拓跋珪は後燕を討滅し平城に奠都し後魏の道武帝と稱す。
 ② 國勢と文化。
 イ 太武帝は破洛那 (Fergana) (露領トルキスタン) (Turkistan) を侵害し柔然族を撃ち波斯 (Persia) と通す。
 ロ 孝文帝は洛陽に遷都し胡語胡服を禁じ漢人文化を入れ佛教藝術發達せり。
 ハ 孝明帝より衰運となり東西に分立せり。



丙、南北朝

A 興亡 (右側の数字は代数) 439—589
(國名の下は建國者)



B 文化

① 比較

イ 南朝—老莊思想—陶淵明等の詩人—六朝文化としての美術。

ロ 北朝—周孔思想—徐遵明等の散文家—四六駢儷體の流行。

② 佛 教

イ 入竺求法。

(1) 法顯—後秦の人印度錫蘭に至り佛國記を著す。

(II) 宋雲—後魏の人。佛教美術を輸入し石窟寺を建立す。
ロ 來朝布教。

(I) 羅什 (Kumarajiva)—龜茲の人。長安に至り苻建等歸依す。

(II) 達磨 (Bodhi charma)—印度の人。梁武帝朝にして慧可に禪を傳授す。

③ 文 藝

イ 史學—三國志(晉の陳壽)—後漢書(宋の范曄)—宋書(梁の沈約)

ロ 繪畫—晉の顧愷之。宋の陸探微。

ハ 書道—王羲之—王獻之—六朝體。

④ 影 響

イ 前秦は高句麗に傳ふ……………三七二

ロ 東晉は百濟に傳ふ……………二八四

ハ 百濟は日本に傳ふ……………五五二

参考問題

1 後魏考文帝。(二高)

2 法顯。(東師大正七)

3 達磨。(海經海兵 大正四 東師 大正八)

4 東魏西魏の分争。(東師)

【註】後魏は孝文帝時代に文物發達し政治も振興せるも孝莊帝の時代に紊亂し孝武帝は宇文泰によりて長安に都して西魏と稱し、高歡は孝靜帝を奉じて鄴に都して東魏と稱し、宇文泰高歡は相互に潼關に會戦したり。

5 王猛。(海兵)

【註】前秦の苻建に遇せられ丞相となりて善政を施したり。

6 鳩摩羅什。

7 王羲之。

8 陶淵明。

9 六朝文化。

【註】吳東晉 (宋)(齊)(梁)(陳) ()は南朝なり

第十三章 隋唐朝鮮の大勢 88

甲、隋の興隆 539

A 文帝—北周の外戚楊堅篡立し隋と稱す

B 煬帝

① 内治。

イ 即位—父及皇兄弟を弑害す。

ロ 冀都—長安(西京)洛陽(東京)離宮四十個所。

ハ 長城の修築。

ニ 運河—運輸と遊興の爲に黄河淮水揚子江地帯に三溝を通す。

② 外征。

イ 南—林邑(交趾支那 Cachin China)

ロ 東南—流求(臺灣 Formosal)

ハ 西—吐谷渾(青海西藏 Tibet)

ニ 東—高句麗。612—614

③ 外交。

イ 西域諸國と洛陽に互市す。

ロ 推古朝小野妹子遣隋使として派遣せらる。607

乙、隋の滅亡

A 煬帝の失政

① 高句麗を南征して大敗せり…六一二

② 外征と土木と豪華な生活費に國民は課税と苦役に悩む。

B 李淵の舉兵

① 煬帝江都に宴遊中に殺さる…六一八

② 太原の留守として突厥を防げる李淵李世民と共に舉兵す。

③ 長安を占領す即ち唐の太祖なり。

丙、朝鮮三國の鼎立

A 高句麗の強大 B.C. 37

① 朱蒙建國せり。B.C. 18

② 古朝鮮の故地により丸都(楚山)に都す。

B 百濟の衰微

① 朱蒙の子温祚建國せり。

② 馬韓の故地により慰禮(稷山)に奠都す。

C 新羅の隆盛 B.C. 57

① 赫居正建國せり。

② 辰韓辯韓を併合し慶州に尊都す。

D 任那

① 神功皇后の征討。

② 任那日本府の統治。

丁、唐の貞觀の治

A 創業 618

① 唐の高祖(李淵)隋を篡奪す。

② 唐の太宗(李世民)天下を統一し貞觀の政治整備せり。

B 組織

① 内務—房玄齡、杜如晦。

- ② 軍務—李靖、李勣。
- ③ 秘書—魏徵、王珪。

参考問題

- 1 隋の煬帝の事業。(東師陸經)
- 2 隋の東征。(二高)
- 3 隋の滅亡の理由。(陸志)
- 4 唐の勃興の次第。(海嶽大正二 海嶽大正五)
- 5 唐の帝都。(專門)
- 6 唐以後現今迄に至る興廢の概要。(美術)
- 7 唐の太宗の事蹟。(四高二高 東師 海嶽四高 大正五)
- 8 房去齡。(各高大正六)
- 9 隋の運河。
 【註】 刊溝、(江蘇運河)。永濟溝(衛河)。江南河(浙江運河)。

第十四章 唐の政治と外交 618—907

甲、官制

A 中央政府(京官)

- ① 中書省—中書令(長官)
- ② 尚書省—尚書令(長官)
 - イ 左僕射—吏部、戸部禮部。
 - ロ 右僕射—兵部刑部工部。
- ③ 門下省—侍郎(長官)

B 地方政廳(外官)

- ① 道—巡察使—關内、河東、河南、河北、山南。
- ② 州—刺史。
- ③ 縣—縣令、府—府尹。

乙、土地制度(税制)

A 田制—均田法

① 丁男(十八歳の男子)に官田百畝を班授す。

イ 二十畝は永業田(永代所有)とす。
権あり

ロ 八十畝は口分田として授受す。

② 妻妾に三十畝篤疾者に四十畝を給す。

B 税制—三税の制

① 三税。

イ 租—田租(百畝に付粟二斛)

ロ 庸—勞役(毎年二十日間)

ハ 調—地方の貢物。

② 兩税—税間架除陌錢法。(德宗朝以後)

イ 夏輸—六月麥を貢納す。

ロ 秋輸—十一月米を貢納す。

丙、兵制

A 兵役

① 十八歳を徴兵適齡とし丁男と云ふ。

② 全國兵數の三分の一を府兵とす。

B 組織—折衝府—(各道に配置せる師團)

① 種類。

イ 上府—千二百名定員。

ロ 中府—千名定員。

ハ 小府—八百名定員。

② 服務。

イ 衛士として宮城を警備し各道の保安に任ず。

ロ 冬期は武藝を練習す。

ハ 三税を免除せらる。

丁、刑律

A 刑量—五刑

① 笞刑—十、廿、卅、四十、五十…五等。

② 杖刑—六十、七十、八十、九十、百…五等。

- ③ 徒刑—一年、一年半、二年、二年半、三年…五等。
 - ④ 流刑—二千里、二千五百里、三千里。
 - ⑤ 死刑—絞殺、斬殺。
- B 刑名—十惡** (謀反、謀大逆、謀叛、惡逆、不道、大不敬、不孝、不睦、不義、内亂)
- C 赦法**
- イ 八議の減刑—(議親、議政、議賢、議能、議功、議貴、議勤、議賓)
 - ロ 贖銅法—各刑量により銅にて贖ふ。
 - ハ 免除—九十歳以上七歳以下。
- D 唐六典の律令は朝鮮日本に傳ふ。**

戊、學制

- A 教育機關**
- ① 京師。
 - イ 國子學—貴族三百名定員。
 - ロ 大學—位階ある者五百名定員。
 - ハ 四門學—官吏庶民の秀才—千五百名定員。

- ② 地方。
 - イ 州學。
 - ロ 縣學。
- B 官吏試験—科擧**
- ① 擧貢—州縣の人物考査試験。
 - ② 明經—三禮(儀禮、周禮、禮記)と三傳(春秋の左氏傳、公羊傳、穀梁傳)の學科試験。
 - ③ 進士—帖文詩賦の試験。

己、突厥

- A 起原**
- ① 種族—柔然(南北朝時代に現る)に隸屬せるトルコ民族。
 - ② 原住地—外蒙古都斤山。
 - ③ 沿革—柔然族につき南北朝末期より隋唐に内外蒙古、新疆中亞を侵す。
- B 交渉**
- ① 東突厥
 - イ 唐高祖を援けてより侵寇す。

庚、朝鮮

A 唐の太宗征討

- ① 原因—高句麗百濟と協力して新羅を攻撃せり。
- ② 結果—高句麗と安市城(蓋平の北)に戦ひ敗る。

B 唐の高原の征伐

- ① 原因—新羅愈唐に援軍を求む。
- ② 結果。
 - イ 百濟の滅亡—日本の援軍は唐の蘇定方に白村江に敗る—六六〇
 - ロ 高句麗の滅亡—唐の李勣を派遣して討滅す。六六八
 - ハ 安東都護府を平壤(後に遼東に遷す)に置く。

辛、波斯と大食

A 波斯 640

- ① ササン (Sasan) 朝は西突厥の侵寇を受く。
- ② 大食國 (Arabia) に討滅せらる。
- ③ 唐の保護により復興せんとして敗る。

B 大食—サラセン (Saracen) アラビア (Arabia) 622

- ① 國勢—マホメット Mahomet はイスラム教(即ち回教) (Islam) を創めサラセン帝國を建設す。
- ② 通商
 - イ 互市—唐は市舶使を設け廣府(廣東)を市場とす。
 - ロ 商品—犀角。象牙。胡椒。香料。

壬、西域と印度

A 修交—和番公主(支那の天子並に皇族の女)が西域諸王に嫁せるもの

- ① 吐番と通商通婚す。
- ② 焉耆、龜茲、干闥を征服す。
- ③ 印度カノージ (Kanoji) 朝の戒日王 (Ciladitya) (曲女城にあり) (Kanoji) と通商す。

B 管理—六都護府

- ① 安東—高句麗百済の故地(満州朝鮮の西北部)
- ② 安北—鐵勒諸部(外蒙古)
- ③ 單于—突厥諸部(内蒙古)
- ④ 北庭—西突厥諸部(天山南路露領七川州)
- ⑤ 安西—西域諸國(天山南路中央亞細亞)
- ⑥ 安南—南海諸國(佛領印度支那地方)

癸、日本

A 遣唐使

- ① 舒明天皇即ち唐の太宗朝以降…六三〇
- ② 宇多天皇即ち唐の安祿山の亂後まで使節留學生學問僧を派遣す…八九四

B 留學生と學問僧

- ① 奈良平安朝の宗教文藝思想となる。
- ② 大化奈良朝の政治制度となる。

参考問題

- 1 唐の中央政府の組織。(東師)
- 2 唐の制度の大略。(廣師 大正六)
- 3 唐宋代の文化。(美術 大正七)
- 4 租庸調。(各高)
- 5 兩税法。(二高 海經 大正三)
- 6 税間架除陌錢法。(海經 大正三)
- 7 唐の最盛期に於ける外國との交通。(廣師 大正九)
- 8 唐と朝鮮との關係。(各高 東師 東師 大正一二)
- 9 唐の世に於ける東征。(二高)
- 10 唐代の外國領土統治法。(東師)
- 11 六都護府。(東師 東師 大正四 東師 大正一二)
- 12 唐代に於ける東西の交通貿易。(各高 大正五)
- 13 大食國。(東師 專門)

- 14 唐代に於ける西域文明の輸入。(専門大正七)
- 15 蘇定方。

第十五章 唐の衰滅

甲、武章の内亂

A 則天武后—高宗の後

- ① 高宗の崩後中宗睿宗を廢す。
- ② 唐室を篡奪して國を周と號す。
- ③ 在位十六年間。690—705

B 韋后—中宗の後

- ① 中宗復位してより垂簾の政を執る。
- ② 中宗を弑害して專横なり……七〇五
- ③ 睿宗の子隆基(即ち玄宗)に殺さる……七一三



乙、開元の治—玄宗の初政 712—755

A 政治—姚崇宋璟の輔佐により内政整備

B 文化

- ① 詩文の復興。
- ② 吉備眞備阿部仲麻呂唐留學。

丙、安祿山の亂—天寶の亂—安史の亂 755—763

A 原因

- ① 玄宗晩年の失政。
 - イ 揚貴妃の寵遇—驪山温泉の遊宴。
 - ロ 楊氏の專横—楊國忠(從祖)の宰相。
- ② 安祿山の劃策。
 - イ 平盧范陽河東の節度使を兼併せざるも宰相李林甫默認せり。
 - ロ 突厥の混血人なるも貴妃を傀儡す。

B 亂狀

- ① 勤王軍の不振—顏眞卿顏杲卿張巡許遠等—山東河南地方。
- ② 讓位—玄宗貴妃と蜀に逃走し肅宗即位す。
- ③ 安祿山洛陽を占領し燕帝と自稱す。
- ④ 史思明祿山の後を襲ひ大燕皇帝と稱したり。
- ⑤ 肅宗代宗兩朝に兩京恢復……七六二
郭子儀李光弼(契丹人)回紇人、大食人の援助による。

丁、滅亡の諸原因—晩唐の情勢

A 節度使の跋扈—藩鎮

① 節度使の沿革。

- イ 睿宗朝創設し玄宗朝十節度使。
- ロ 突厥、吐蕃、アラビヤ人防備。
- ハ 國境の保安に兵馬行政權あり。

② 藩鎮の増加と專横。

- イ 天寶の亂後増加し德宗朝三十節度使。
- ロ 河北三鎮(幽州成德魏伯)河南二鎮(淄青淮西)等聯盟して納税の壟斷、土地の兼併。

B 異民族の侵寇

① 回紇人 (Uigur)

イ 外蒙古のトルコ族にてイスラム教を信じ回紇文字を用ふ。

ロ 東突厥の滅後安祿山の亂より強くなる。

ハ 唐の才幣をうけ北邊を侵寇す。

② 黠戛斯人 (Kirghiz)

イ 北狄種族の野蠻なり。

ロ 回紇人を討滅せり。

③ 吐番人 (Tibet)

イ 天山南路地帯に強勢なり。

ロ 長安を占領せり。

C 宦者の専横

① 玄宗朝安祿山の亂當時詔勅を司る。

② 德宗朝禁軍を司る。

③ 憲宗朝皇位繼承に干涉す。

D 財政の紊亂

① 租庸調の制廢せられ兩税法は民間の反感をうく。

② 茶酒税鹽鐵税の如き苛税。

戊、滅亡 907

A 地方の反亂 878

① 黃巢の亂。

② 汴節度使朱全忠舉兵叛亂す。

B 朱全忠の篡立

① 昭帝を弑害し唐室亡ぶ。

② 開封に奠都し後梁の太祖と自稱。

参考問題

1 則天武后。(歴七)

2 唐室反亂の主要なるものを列挙。(商船海程)

3 開元の治。(海程海程海兵大正六)

4 安祿山。(東師名工海兵各高)

- 5 顏真卿。(長唐)
- 6 唐代の節度使。(陸士大正九)
- 7 郭子儀。(二卷)
- 8 唐代藩鎮跋扈の由來。(陸士海經)
- 9 唐朝衰亡の理由。
- 10 回紇人。
- 11 章后の亂。
- 12 十節度使。

【註】 1 平盧 2 范陽 3 河東 4 朔方 5 河西 6 隴西 7 安西 8 北庭 9 劍南 10 嶺南

第十六章 唐代の文化

甲、儒學

- A 訓詁學派の流行—經典の字句の註釋
- B 五經正義—易詩書禮春秋の釋書
 - ① 孔穎達の欽定—太宗朝。
 - ② 官吏登用試験の標準となる。

乙、文學

- A 韻文
 - ① 特徴—兩漢以前の古調の復活。
 - ② 詩人の輩出。
 - イ 李白(太白)—詩韻高絶—玄宗朝。
 - ロ 杜甫(子美)—詩品沈靜—玄宗朝。

B 散文

- ハ 白居易(樂天) — 詩風恬淡 — 德宗朝。
- ① 韓愈(退之) — 文章雄渾 — 論佛骨表。
- ② 柳宗元(子厚) — 文體古雅 — 封建論。

丙、美術

A 書道

- ① 歐陽詢 — 太宗朝。
- ② 顏真卿 — 玄宗朝。

B 繪畫

- ① 特徵
 - イ 賞鑒的繪畫の流行 — 山水畫。
 - ロ 佛畫の發達 — 壁畫。
- ② 畫風 — 玄宗朝。
 - イ 佛畫 — 吳道玄 — 山水寫生畫。
 - ロ 南宋畫 — 王維 — 水墨山水畫。

- C 彫刻 — 揚惠之
- D 曆法 — 一行の大衍曆

丁、佛教

A 入竺求法

- ① 玄奘 — 玄宗朝。
 - イ 新譯佛典千三百餘卷。
 - ロ 法相宗の開基。
 - ハ 西域記を著す。
- ② 義淨 — 武后朝。
 - イ 譯經五十六部二百六十五卷。
 - ロ 南海高僧傳を著す。

B 佛教分派の東流。

- ① 三論法相、華嚴、律、天台、真言、禪、淨土。
- ② 最澄 — 天台宗 — 東魏の慧文の開宗。

ハ 北宋畫 — 李思訓 — 丹青山水畫。

戊、道教

③ 空海—眞言宗—唐の善無畏の開宗。

A 起因と沿革

- ① 周代の老莊の虚無思想。
- ② 秦漢時代の方士神仙術。
- ③ 東漢時代の佛教思想の影響。
- ④ 東漢の張道陵の創説—須帝朝。
- ⑤ 後魏の寇謙之の大成。

B 發達

- ① 唐室の姓と老子(姓は李(名は耳)) 姓とが等しく祖先と信仰せること。
- ② 民間の通俗信仰を基とし醫術藥法咒咀を教ふ。
- ③ 中宗玄宗、武宗等の保護をうく。

己、諸外教—三夷寺の建立

A 祓教—拜火教(Zoroastor)—波斯教

① 起原—波斯の蘇魯支創立(…B.C. 700)

- ② 内容—善神(Ahuramazd) 惡神(Ahrimom) の宇宙支配。
- ③ 傳來—唐の高祖朝。

B 摩尼教

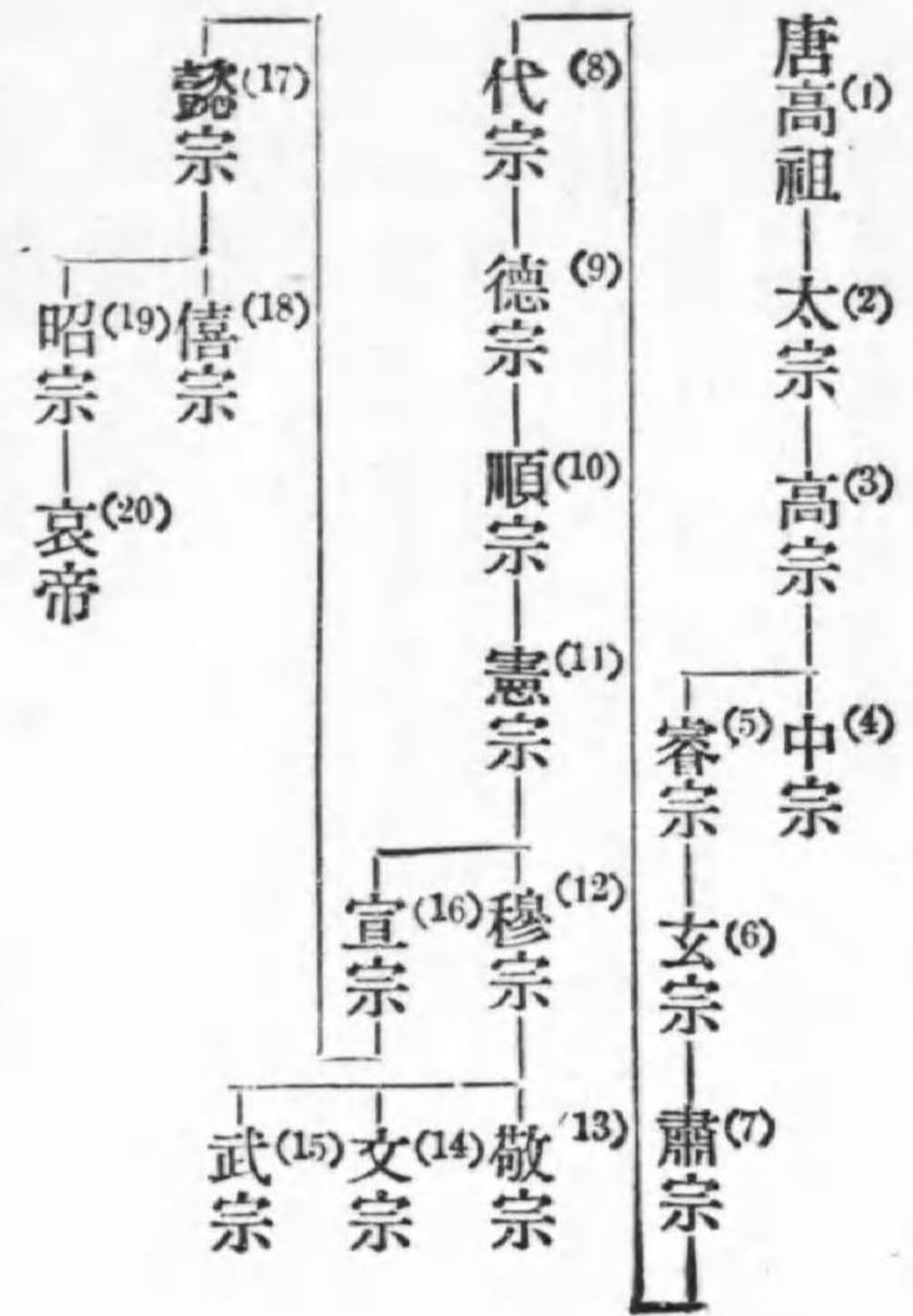
- ① 起原—波斯の摩尼(Magi) 創立…300
- ② 内容—明暗二神の争闘するといふ二元教。
- ③ 傳來—代宗朝。

C ネストル(Nestor) 教

- ① 起原—東羅馬の人ネストリウス(Nestorius) の創立…500
- ② 内容—基督教の異端(基督は人なり)
- ③ 傳來—阿宗羅本(Orohon) 傳ふ—太宗朝。
イ 大秦景教流行中國碑育名なり。
ロ 日本の高野山に模造碑あり。

D 回教—イスラム(Islam) 教—マホメット教

- ① 起原—アラビヤ人(Arabia) マホメット(Mahomet) 創立しイスラム教と稱す。622
- ② 内容—アラー(Alla) といふ唯一神に絶體服従するものなり。
- ③ 傳來—天山南路の回紇人及び南支那のアラビヤ行商等。



参考問題

- 1 唐宋代の儒學及文藝。(前大塚 大正一四)
- 2 唐代の外教。(廣師 昭和二三)
- 3 玄奘。(東師 海兵 專門 廣師 昭和二三)
- 4 景教。(廣師 外語 陸士 專門)

- 5 道教。(廣師 陸士 專門 廣師 大正一一)
- 6 唐代の文藝。(大阪外語)
- 7 杜甫。(海兵 大正二)
- 8 李白。(美術 專門 大正五)
- 9 韓愈。(東師 陸經 各論)
- 10 張陵。
- 11 訓話學派。
- 12 孔穎達。
- 13 五經正義。
- 14 吳道玄。
- 15 三夷寺。
- 16 南宗畫。

第十七章 五代及諸民族の勃興

甲、五代

A 興亡

- ① 後梁—朱全忠(太祖)—開封(九〇七)十七代
- ② 後唐—李存勖(莊宗)—洛陽(九三三)十四代
- ③ 後晉—石敬瑭(高祖)—開封(九三六)十二代
- ④ 後漢—劉知遠(高祖)—開封(九四七)三年
- ⑤ 後周—郭威(高祖)—開封(九五〇)三代

B 概況—世相

- ① 唐滅亡より宋太宗一統まで五十四年間十三君の廢立。
- ② 後唐後晉後漢の宗室はトルコ人種にて後梁周の始祖も無學の賊將。
- ③ 風俗道德は亂れ苛稅濫刑激し。

乙、契丹の興起 916

A 起原

- ① 人種—東胡人。
- ② 原住地—遼河の上流潢河附近。
- ③ 文化—契丹文字。
- ④ 五代の興亡は北支那地帯の統治にて地方は十ヶ國の郡雄割據す。
- ⑤ 五代十國—前蜀、後蜀、楚、荆南、吳、南唐、吳越、閩、南漢、北漢。

B 建國

- ① 酋長の耶律阿保機自立(契丹の太祖)
- ② 臨潢に冀都—(後梁)

C 國勢—契丹—遼

- ① 太宗に後晉を討滅して遼と號す。
- ② 聖宗は北宋と盟約す。

D 國情

- ① 輕租—農家粟米の富有。

丙、渤海 713—926

A 起原 713

① 人種—滿洲の肅慎人……南北朝。

② 居住地—滿洲の靺鞨部(粟末部—松花江) 黑水部—黑龍江)

B 建國

① 粟末部長の大祚榮創建…唐玄宗—713

② 忽汗城(吉林省)に奠都。

C 滅亡—契丹太祖國都討滅 926

丁、高麗

A 建國 936

① 王建松嶽(京畿道開城縣)に即位す—高麗太祖。

② 新羅敬順王降服し百濟神劍討滅さる。

B 國勢

① 遼に朝貢し遼の正朔を奉ず。994

② 女真金國勃興に際し俱に遼を討つ。

戊、西夏

A 起原

① 人種—吐番人種(Tibet)の(Taughtu)黨項部。

② 居住地—夏州(陝西省)地方。

B 建國

① 李元昊創立。1038

② 興慶(甘肅省寧夏縣)に奠都す。

C 國勢

① 甘肅省より河西河南地方を侵略す。

② 宋より歲幣をとる。1044

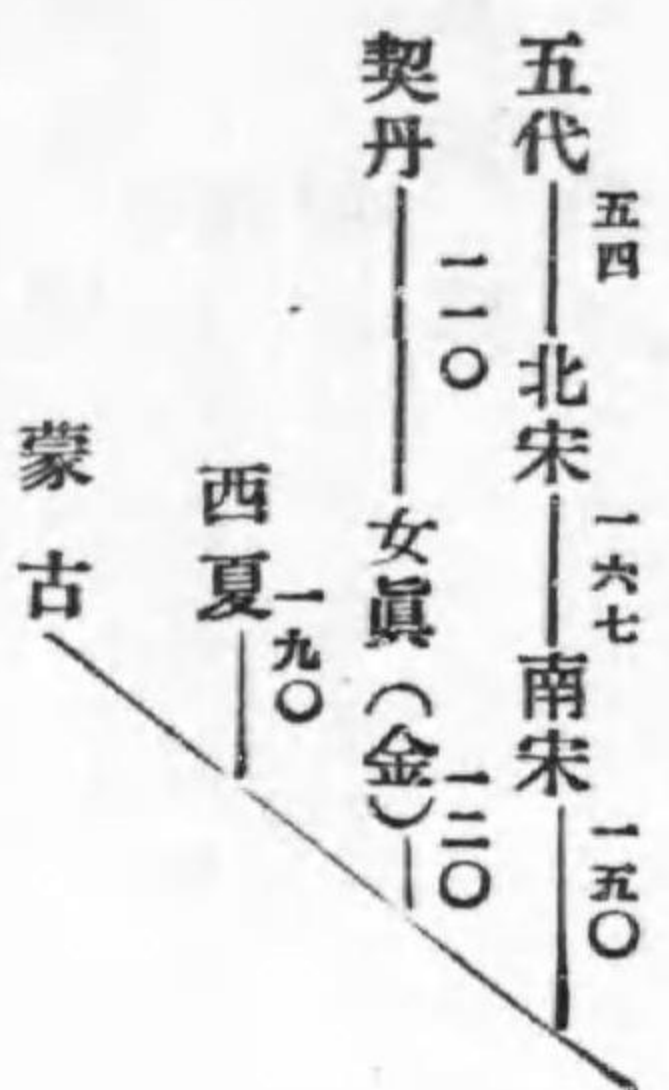
己、金—女真國

A 起原

- ① 人種—東胡人種 (Tungus) の女真人 (Jurchen)
- ② 居住地—黒龍江の松花江地方。
- ③ 文化—女真文字。

B 建國

- ① 完顔部 (Wanyan) の阿骨打 (Agudha) 自立し金の太祖と稱す。1115
- ② 會寧(吉林省)に奠都。



参考問題

- 1 五代の沿革。(東師)
- 2 臨潢。(東師)

3 汴京。(二高東師)

4 阿骨打。(東師)

5 金の四都。(東師)

【註】(1) 上京會寧 (2) 北京臨潢 (3) 南京遼陽 (4) 中京大定 (5) 西京大同 () は四都なり

6 契丹の太祖の事蹟。

7 渤海國。

8 松嶽。

第十八章 宋代の内治と外交

甲、宋の創業

- A 建國—節度使趙匡胤後周を篡奪して開封に奠都し宋と號す。960
- B 内治—中央集權
 - ① 節度使の漸減政策—文官を任命す。
 - ② 通判轉運使を置き地方の政治の改善。
 - ③ 禁軍の宿將に兵權を放棄せしむ。
 - ④ 楚、荆南、後蜀、南漢、南唐、吳越、北漢の七國を討滅す。976

乙、宋代の外交

- A 安南の離反
 - ① 秦始皇帝並に漢武帝に討伐せらる。
 - ② 隋代の交趾郡唐代の安南都護の統治をうく。
 - ③ 宋の太祖の討征失敗せり。

B 遼との交渉—澶の戰 1004

- ④ 宋の孝宗朝獨立す。
- ① 戰因—宋の宰相寇準眞宗を勸誘し出征に決す。
- ② 戰況—遼軍は女眞高麗の應援を得て宋軍を澶州(直隸省)に擊破し皇族を捕虜とす。
- ③ 戰局—遼に絹銀を貢ぎ兄弟となる。

C 西夏の交渉 1044

- ① 仁宗范仲淹をして西夏を防禦す。
- ② 銀絹の歳幣を納め入寇を防止す。

D 金との交渉

- ① 宋金の聯合軍遼の天祚帝を擊破し遼滅亡す。1125
- ② 遼の皇族耶律大石は中亞に遁れ西遼國を建設せり。1120—1125
- ③ 靖康の變。1127
 - イ 金軍南進して宋の徽宗欽宗及び太后官人千二百人を捕掠す。
 - ロ 首都開封陥落し高宗應天に避難し南宋と稱す。

丙、南宋の國勢 1138—1276

A 南宋の創業 1138

- ① 高宗臨安(浙江省杭州縣)を行在とし南支那を開發せり—南宋文化。
- ② 金は河南關中淮北地帯を占領す。

B 南宋の外伐 TIAI

- ① 南宋の外交界。

I 主戦派—

宋澤汴京の恢復を志して失敗す岳飛韓世忠楚兵三萬を以て北伐して失敗し遂に殺害せらる。

II 和睦派—

高宗は父母(章氏)の異郷にあるを以て煩悶す。

宰相秦檜の退嬰政策。

- ② 帝は銀絹を納れて父の遺骨と母を反還せしむ。
- ③ 趙古乃燕京に遷都し宋將虞允文は采石に撃破す。
- ④ 金の世宗(小堯舜)は南宋と和して宋の文化を移す。

参考問題

- 1 趙匡胤。(専門)

- 2 澶州の役。(歴史)
- 3 宋金同盟と遼との關係。(歴史)
- 4 宋金兩國の關係。(東師東師大正一一)
- 5 宋金との境界の略圖。(二高)
- 6 西遼の興亡。(専門)
- 7 岳飛。(東師各高専門)
- 8 秦檜。(東師東師)

第十九章 宋代の文化 960—1276

甲、神宗の改革—王安石の新法—富国强兵策

A 目的

- ① 財政上—外征と歳賜による財源の窮乏。
- ② 軍事上—安南遼西夏に對する外征の失敗。

B 内容

- ① 均輸法—地方納税の整理。
- ② 青苗法—勸農に低利資金の貸與。
- ③ 募役法—免役者にも徵税。
- ④ 保甲法—組合による募兵制度。
- ⑤ 保馬法—官馬を農家に貸與制度。

C 直接の影響

- ① 外交依然として不振なり。
イ 西夏安南と交戦して失敗す。

口 遊は益く南進せり。

- ② 國民は經濟の疲弊より反感を抱く。

D 間接の影響

- ① 新法—神宗朝—王安石、呂惠卿。
- ② 舊法—高太后朝(攝政)—司馬光(公)。
- ③ 新法—哲宗の親政—享愍。蔡京。
- ④ 舊法—向太后朝(徽宗の母)—韓忠彥、曾布。
- ⑤ 新法—徽宗の親政—蔡京。

乙、純文學

A 韻文—詩賦

- ① 北宋—蘇軾。黃庭堅。
- ② 南宋—陸游(放翁)。范成大。

B 散文

- ① 唐宋八大家—韓愈。柳宗元—(唐)歐陽脩。曾鞏。王安石。蘇洵。蘇軾。蘇轍—(宋代人)。
- ② 南宋—文天祥。謝訪得。

C 史學

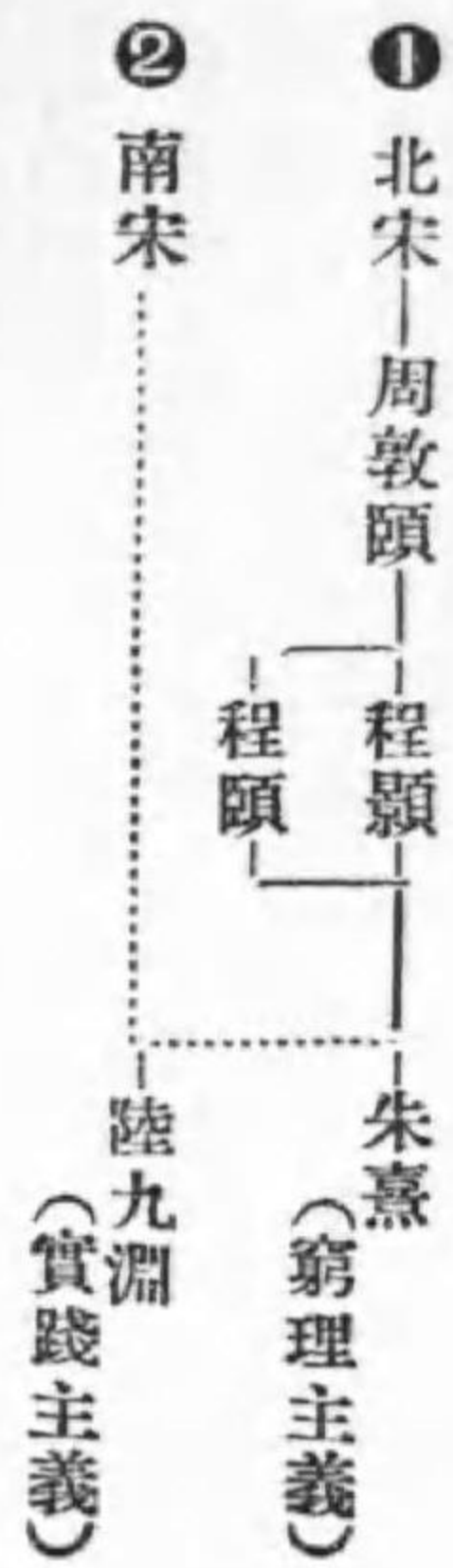
- ① 歐陽脩—新唐書。新五代史。
- ② 司馬光—資治通鑑。
- ③ 朱熹—通鑑綱目。

丙、哲學思想

A 特徵—性理學派

- ① 唐代の儒教の訓詁學の反動。
- ② 禪宗の宗教哲理の影響せられ易の根本的哲學的研究

B 學派



C 學說—著書

- ① 周敦頤—(號) 濂溪—大極圖說。

丁、宗教

A 佛教

- ② 二程—程頤(號) 明道—定性書
- ③ 朱熹(號) 晦庵—四書集註。小學。近思錄。
- ④ 陸九淵(號) 象山—(門人の) 象山語錄。

B 道教

- ① 支那の獨創的新宗派の研究。
- ② 禪學禪的趣味の流行。
- ③ 日本の榮西道元の留學傳來。
- ① 北宋の眞宗徽宗皇帝の信仰保護。
- ② 南宋の修養目的の全眞派の分流。

戊、美術工藝

A 繪畫

① 北宋

イ 董源。李成——山水畫。

ロ 李公麟(龍眠)——人物畫佛畫。

ハ 米芾(元章)——佛畫。

ニ 牧谿——禪的文人畫。

② 南宋

イ 李唐——院畫(徽宗帝院畫創設)

ロ 夏珪。馬遠——山水畫。

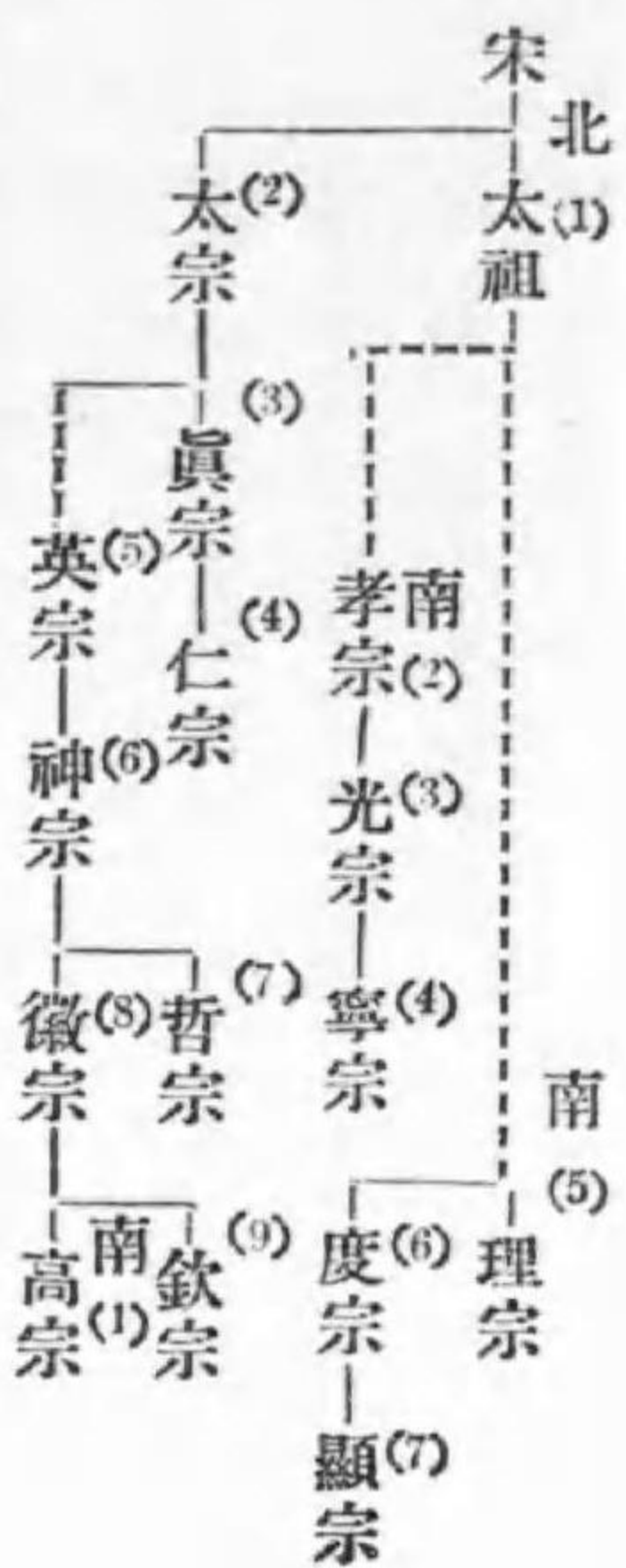
B 書道——蔡襄。米芾

C 陶器——徽宗宣和時代の景德鎮江西燒あり。

D 印刷

① 北宋の大藏經の刊行。

② 北宋仁宗朝銅版發明(獨逸のグーテンベルヒの印刷より四百年前)



参考問題

- 1 宋代の文化。(美術大正六)
- 2 王安石の新法及其の成否。(陸士)
- 3 宋代新法黨及び舊法黨の争につきて次の項目を説明せよ。(陸士大正六)
 - イ 兩黨の領袖一名。 甲 D ① ②
 - ロ 新法黨の目的其の綱目。 甲 A B
 - ハ 舊法黨が新法黨に反對せし理由。 甲 C
 - ニ 黨争の國家に及ぼしたる影響。 國是の不確立。宋の衰滅の因。
- 4 王安石。(東海東師陸士名工五高海欄大正四)

- 5 王安石の新法。(東師國士專門)
 - 6 青苗法。(東商東師)
 - 7 均輸法。(東師)
 - 8 宋代朋黨の弊。(東商)
 - 9 洛蜀朔三黨の争。(陸士)
- 【註】
- 1 洛黨洛陽の人程頤。
 - 2 蜀黨蜀の人蘇軾。
 - 3 朔黨北方の人劉摯。
- 俱に舊法黨なり。
- 10 宋代の名臣。(美術)
 - 11 宋朝の文學。(美術)
 - 12 宋代の文學儒學。(各高 大正六)
 - 13 宋代の著名なる學者三名。(東師)
 - 14 宋代の儒學の學風。(各高)
 - 15 宋學の大要。(東師 大正八)

- 16 宋代の儒學。(廣師)
- 17 蘇東坡。(廣師 昭和二)
- 18 程朱學。(海兵 大正五)
- 19 朱熹。(專門 海機 商船 三高山商 美術 大正三 海船 大正四 專門 大正八 外語 大正八 廣師 昭和二)
- 20 陸象山。(東師)
- 21 唐宋八大家。

第二十章 蒙古族の興起

甲、元の建國 1206—1368

A 蒙古人種 (Mongol)

- ① 原住地—外蒙古の斡難河 (R. Onon) の上流。
- ② 文化—蒙古文字及び札撒 (行政軍事の訓令集)
- ③ 風俗—勇猛にして射御に長じ、辨髪なり (頭髮を組み、背後に垂る)

B 蒙古の太祖の創業

- ① 漠北の乃滿 (Naiman) 部長太陽罕 (Tayan Khan) を討滅してより興隆。1204
- ② 遼金に隸屬せる酋長鐵木眞 (Temutchin) の統一。
- ③ 成吉思汗 (Chingis Khan) (盛大の義) として即位す。1206

乙、蒙古の太祖の外征—元の太祖—鐵木眞 (成吉思汗のこと)

- A 西夏—討伐して半屬國とし西征後討滅せり 1227

B 金—討伐して河北を奪ひ汴京 (開封府) に奠都

C 西征の概況 1215—1223

① 原因。

- イ 太陽罕の子屈出律再舉して中央亞細亞を併呑せんとす。
- ロ 花剌子模王摩訶末 (Mahomet) は蒙古隊商百名を殺害せり。

② 戦況—出陣

- イ 成吉思汗。求赤 (Djuchi) 察合臺 (Chagatai) 窩闊臺 (Ogotai) 施雷 (Tului) 一本隊。
- ロ 先發隊—哲別 (Cheba) 速不臺 (Subtai) 等花剌子模 (Khorasan) を討伐す。
- ハ 國王カスピ海 (Caspian Sea) に逃れ孤島に竄死せり。
- ニ 阿羅思 (Orao) (露西亞) 人をカルカ (Kalka) に撃破す。

③ 戦局—結果—分轄統治

- イ 求赤—黠戛斯曠原次西。
- ロ 察合臺—西遼の故地。
- ハ 窩闊臺—乃滿 (乃蠻とも云ふ) の故地。
- ニ 施雷—蒙古の本土。

丙、元の太宗の事蹟—窩闊臺 1229—1242

A 即位

- ① 事情—クルリタイ蒙古大集會 (Khuriltai) の議決—クルリタイは蒙古の諸王諸將の集會にて王位繼承宜戰媾和を決定す。
- ② 和林に奠都。
イ 位置—外蒙古カルコン河畔。
ロ 支那の佛教藝術喇嘛文化を移植す。

B 外征

- ① 金との交渉。
イ 元宋聯盟して金を夾撃討滅す。
ロ 金の哀宗蔡州(河南省)に放逐せられて滅亡九帝百二十年間。1234
- ② 拔都の西征 (Batu)
イ 原因—札蘭丁 (Djalalud-dim) (摩訶王の子) デリイ (Delhi) より再舉して中亞を侵略せり。
ロ 戦況
拔都 (Batu) 貴由 (Kuyuk) 蒙哥 (Mangu) 等の本隊は露領キエフ (Kiev) モスクワ (Moscow) を占領す。
別軍は波蘭土 (Poland) 匈牙利 (Hungary) に侵入す。

ハ 戦局

太宗の薨報により歸還す(敵の耳數 廿八萬) 欽察汗國を創建す。

丁、憲宗の事蹟—蒙哥(施雷の子) 1251—1260

A 忽必烈 (Khubilai) の南征

- ① 南支那四川雲南地方の平定す。
- ② 吐番交趾支那を討伐す。

B 帝の親征—宋を討征中急死 1259

C 旭烈兀 (Hulagu) の西征

- ① 理由—イスラム (Islam) 教徒の鎮定。
- ② 戦況
イ バグダード (Bagdad) (打吉) 占領。
ロ サラセン (Sarracen) 帝國を討滅す 1258
- ③ 戦局—伊兒汗國 (Ilkhan) の創討 1259

戊、世祖の事業(成吉思汗の孫施雷の子 憲宗の皇弟なり)

A 即位

① 阿里不哥 (Arikhukha) の内亂を鎮定す。

② 奠都

イ 開平 (Kaiping) = 上都 - 避暑地 (内蒙古
タリコル湖畔)

ロ 燕京 = 大都 - 避暑地。

③ 漢風の轉化。

イ 元の國號。

ロ 先帝の諡號。

B 外征

① 宋の滅亡。1279

イ 原因 - 宋は破約して北進し元の領地を侵害す。

ロ 戦況

I 元の伯顔 (Bayan) 宋の文天祥を撃破す。

II 臨安の帝都陥落す。

III 帳世傑厓山に再舉して失敗す、宋は十八代三百廿年。

② 南海の征服。

イ 朝貢國 - スマトラ (Sumatra) ジャバ (Java)

ロ 征服地 - バルマ (Burma) ミヤム (Siam) チャムプ (Champa) カンボジャ (Cambodia)

③ 高麗の降伏。

イ 忠烈王は世祖の女を后妃とす。

ロ 元は内政外交に干渉す。

④ 日本との關係 - 元寇 - 弘安役。1281

イ 原因 - 高麗王の招致を拒絶す。

ロ 戦況 - 弘安役。

ハ 戦況 - 范文洪忻都等十四萬颶風に逢ひ惨敗す。

参考問題

1 成吉思汗。(山商)

2 元の太祖の事蹟。(東師 - 高海兵長商)

3 元の太祖の西征。(海兵)

4 蒙古軍の歐羅巴侵略。(専門)

5 十三世紀に於ける蒙古人の事蹟。(圖志)

- 6 哲別。(海兵)
- 7 クルリタイ。(海兵 専門 大正五)
- 8 和林。(東師)
- 9 拔都。(東師 三高 海兵 千醫 女師 海樞 大正三)
- 10 忽必烈。(東師 美術 東商)
- 11 拔都の西征。(東師 六高 陸士 廣師 大正三 東師 大正六 陸經 大正七)
- 12 旭烈兀西征の年代。(海兵)
- 13 元代の朝鮮。(東師 大正二)
- 14 宋の滅亡。(東商)
- 15 伯顔。(海兵)
- 16 厓山戦。(陸士)
- 17 范文洪。(海兵)
- 18 文天祥。(東商 女師 海兵 陸士 大正六 海兵 大正一四)

第二十一章 元の衰滅

甲、政治的原因—海都(Kaidu)の反亂 1265—1306

A 亂因

- ① 施雷の血統が偏重せられ即位す。
- ② 太宗の子孫等反感を抱く。
- ③ 海都世祖に心服せず。

B 亂况

- ① 海都叛亂し察合臺欽察兩汗援助す。
- ② 中亞を占領し蒙古大汗と潜稱す。
- ③ 支那の元本土に入寇す……成祖朝。

C 亂局……戦亂四十年間

- ① 海都の死後察合臺欽察降服す。
- ② 窩闊臺汗國滅す。
- ③ 四汗國は元本土より獨立せり。

乙、經濟的原因

A 戦費の消失

- ① 世祖の外征。
- ② 蒙古西汗國の獨立。

B 内政の失策—阿哈瑪特(Ahmad) (回紇)の新稅政策

- ① 交鈔といふ紙幣の濫發。
- ② 喇嘛教の寺院建立と其の專横による宮中費の濫費。

丙、宗教的原因—喇嘛(Lama)の專横

A 傳來

- ① 世祖吐番討征の時傳藩す。
- ② 喇嘛僧八思巴(Paspa)に吐番統治權を授く。

B 状態

- ① 皇室に於て僭勢力あり内政の干涉。
- ② 南宋の諸陵を發き財寶を掘る。

丁、民族的原因—漢人種の不平

A 原因

- ③ 法制上治外法權にして風俗を亂す。
- ④ 國庫より寺院建立費生活費を強請せり。

- ① 世祖朝以後漢人の官吏に任用せられず。

- ② 漢人の經濟的窮迫。

B 暴徒

- ① 方國珍(浙江) 郭子興(安徽) 徐壽輝(湖北)等叛す。

- ② 朱元璋金陵(江寧)に舉兵し元の大都を占領し順帝敗走せり。

参考問題

1 元朝の衰亡の速かなりし理由。(女師)

2 交鈔。(東師)

3 漢人種と蒙古人種の関係。(東師 大正三)

4 海都の亂。(海兵)

第二十二章 元代の政治文化

甲、統治の概要

- A 皇帝の統治—元帝國
 - ① 滿洲、支那本土、蒙古。
 - ② 吐番、中央亞細亞印度支那、高麗。
- B 植民統治—蒙古四汗國
 - ① 察合臺：察合臺：西遼：アルマリク。
 - ② 窩闊臺：窩闊臺：乃滿：エミル。
 - ③ 欽察：拔都：(シベリア西半部) サライ。(歐洲東部)
 - ④ 伊兒：旭烈兀：西アジア：マラカヤ。
- C 統治法
 - ① 各異人種の舊俗信仰の自由。
 - ② 領民の區別。
 - イ 蒙古人種：樞機の參政權。
 - ロ 西域人種：官吏に用ふ。
 - ハ 漢人種：差別的冷遇。
 - ニ 南支那人種：社會階級低し。

乙、藝術

- A 美術
 - ① 畫家：高克恭(西域人)
 - ② 書家：趙子昂(名孟) 巒々(西藏人)
- B 文學：小説劇曲の發達。
 - ① 文章：虞集(號道園)
 - ② 小説：水滸傳。
- C 清真教：同教
- D 喇嘛教
- E 基督教
 - ① 定宗朝羅馬使節の來朝。

丙、東西文化の移動

A 促因—東西交通

① 原因

- イ 回教國の滅亡に依り基督教徒迫害の危険なし。
- ロ セルジュックトルコ (Serjuck Turkey) 族の滅亡により西歐行商の安全。
- ハ 元朝世祖の西歐人優待。

② 状況

- イ 通路：海路(印度)陸路(中亞)
- ロ 市場：上都廣州。泉州 (Zayton) 杭州。

③ 結果

- イ 東西文化の融合亞細亞の紹介。
- ロ 絹麻手工藝品の交易。

B 泰西文明の輸入：世祖朝

① 外人の任用

- イ マルコポーロ (Marco Polo)：東洋見聞録。
- ロ イブンバツタ (Ibn Batuta)：七萬哩旅行記。

② 基督教：世祖朝伊太利僧モンテコルヴノ法王の命に依り來朝す。

- ツ メヌ—ハチユリ……帖木兒……バベル
- カベル—○—元太祖—

求赤—拔都(欽察汗)……月即別—札尼別

トカチムル……トクタムシ

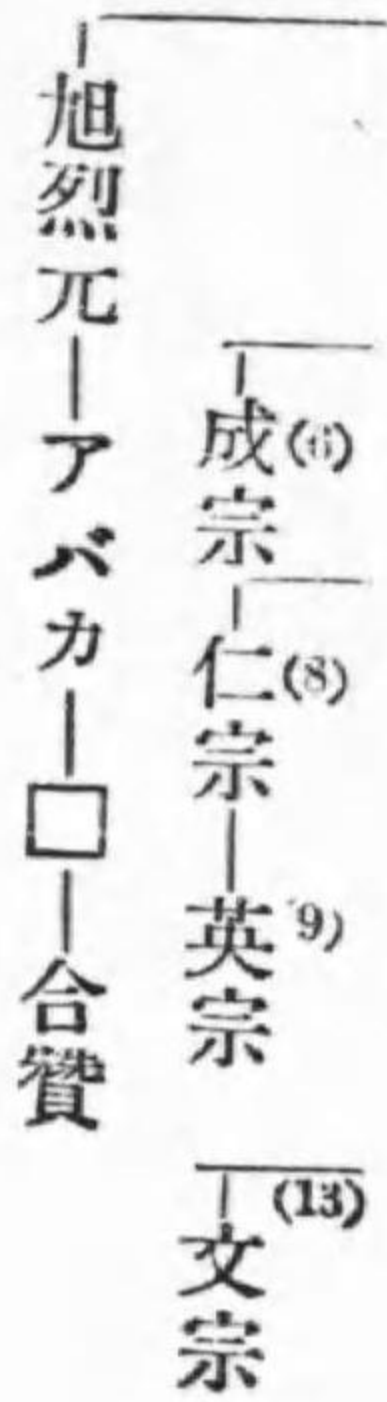
察合臺(察合臺汗)……也先

太宗(窩闊臺汗)——定宗⁽³⁾

施雷——憲宗⁽⁴⁾——海都

世祖⁽⁵⁾……秦定帝——天順帝⁽¹¹⁾

……武宗⁽⁷⁾——明宗⁽¹²⁾



太祖鐵米眞—求赤⁽¹⁾

察合臺

太宗窩濶臺—定宗貴由⁽³⁾

拖雷—憲宗蒙哥⁽⁴⁾

世祖忽必烈—太子眞金—阿里不哥⁽⁵⁾

明宗—順帝—益王⁽¹¹⁾
⁽¹³⁾

英宗—文宗⁽¹²⁾—寧宗⁽¹⁴⁾

成宗⁽⁶⁾

泰定帝

武宗⁽⁷⁾

仁宗⁽⁸⁾

英宗⁽⁹⁾

文宗⁽¹²⁾

寧宗⁽¹⁴⁾

益王⁽¹⁵⁾

参考問題

- 1 蒙古四汗國の名稱及び其の始祖。(海兵)
- 2 中古蒙古人の最極盛時代の管理版圖。(外題 海報 各頁 大正二)
- 3 我國の西歐人に始めて知られたる時代。(海報)
- 4 マルコポーロ。(外題 海報 六頁 東高師 山西 殿士 専門 大正二 海報 大正五)
- 5 元代の歐亞の交通。(山勢)
- 6 八思巴。

第二十三章 明の盛衰と外交

甲、明の太祖の創業…朱元璋

A 建國

① 元の討滅。1368

イ 郭子興の部將として舉兵し大都を占領す十五世百六十年間。
 ロ 徐達をして燕京を討しめ開平の戦後漠南滿洲の占領す。
 ハ 金陵に奠都し南京と稱す。

② 南支那四川雲南の平定。

B 統治

① 邊境防備の行都指揮使司の新設、遼東(奉天)大寧(直隸)大同(山西)洮州(甘肅)
 ② 功臣老将を殺戮し諸子を合封す。

C 文治

① 華夷の差別を嚴にし滿人風の禁止。
 ② 律令の欽定。

③ 唐時代の寇位の復舊。
 ④ 教育制度科擧の振興。

乙、成祖の治績

A 即位—靖難の役

① 惠帝(太祖の孫)は諸王を抑壓す。
 ② 燕王朱棣の篡奪。
 イ 金陵の官者内授せり。
 ロ 成祖永樂帝(年號)と稱す。
 ハ 燕京を北京とし金陵を南京と對稱せり。

B 外征

① 塞外親征…蒙古の互刺部族。
 イ 斡難河(R. Onon)地帯の元遺族の鎮定。
 ロ 土拉(R. Tura)河地帯の互刺部の征服。
 ② 安南併合。
 イ 安南の内亂に干渉し鎮定す。

- 安南人大越國を建設す…宜宗朝。
- ③ 南海經略。

イ 目的

- I 元の惠帝を追跡探偵す。
- II 明の國勢の示威。

ロ 效果

- I 宣者鄭和。王景弘等六十二艘の海軍派遣。
- II 蘇門答刺 (Sumatra) 王の捕虜。
- III 征討三十年間朝貢三十餘國。

丙、帖木兒 (Timur) 帝國…蒙古族の復活…1369—1405

A 帖木兒の閱歷

- ① 蒙古族の疎族。
- ② 撒馬兒罕 (Samarkand) の南方碣石 (Kesh) に生る。
- ③ 撒馬兒罕に奠都す。

B 察合台汗國の併合

C 伊兒汗國の討滅

- ① 合贊 (Ghazan Khan) 朝に羅馬の文化を輸入す。
- ② 不賽因 (Abu Said) 朝以後内訌ありて衰微す。
- ③ 欽察汗の侵入をうけ更に帖木兒に滅さる

D 欽察汗の降服 1395

- ① 月即別 (Uzbek) 札尼別 (Janibeg) 朝羅馬と通商す。
- ② 白金青三黨汗國の分裂して篡奪す。
- ③ 喀山汗 (Kazan) のトクタミッシェ (Toktamish) 帖木兒領を侵入す。
- ④ 帖木兒三黨汗喀山汗等を平定し露領モスカウ (Moscow) に侵入す。

E 印度平定

- ① 回教徒温都教徒 (Hindoisim) との宗争に干渉す。
- ② 印度首都デリ地方の平定。

F オスマントルコ (Osmanli Turkey) 討伐 1402

- ① 東羅馬トルコに侵寇せられて救援す。
- ② 酋長バジヤツト (Bajazed) を捕虜す。
- ③ 小亞細亞アンゴラ (Angora) を占領す。

G 明國征伐の企圖 1405

- ① 蒙古の元國復興の素志。
- ② 出征の途中オトラル (Othar) に病死す。

丁、瓦剌部族の侵寇

A 土木の變 1449

① 原因

- イ 瓦剌部酋長也先 (Yesen) 元の遺族を奉じて支那本土に入寇す。
- ロ 宦者王振は示威のため明の英宗の外征を勧誘す。
- ② 戦況—土木堡(直隸省)に明軍大敗し英宗捕虜となる。
- ③ 戦局
 - イ 和議により英宗放還せらる。
 - ロ 也先も亦阿剌に殺害せらる。
 - ハ 明國の威信は失し瓦剌も衰ふ。

戊、韃靼部族の歸順

A 韃靼部酋長達延 (Dayan Khan) の入寇 1495

- ① 元の順帝七世の孫と自稱す。
- ② 外内蒙古を統一し大元大可汗たり。
- ③ 明領の河套に侵入す。

B 俺答 (Altan) の歸服…

- ① 達延の孫にして初め明領を侵せり。
- ② 明と修好して順義王に封ぜらる。

己、倭寇の侵害

A 起原

- ① 南北朝應仁亂後南海四國人の發展。
- ② 元の順帝朝南支那黃海沿岸朝鮮を侵略す。

B 侵害地帯

- ① 江蘇省、浙江省、福建省、山東省。
- ② 朝鮮慶尙南道忠清道。

C 沿革

- ① 明初防倭衛所を設置し朝鮮烽火設備をなせり。

② 明成祖永樂帝朝足利義滿に封冊を授け修好し被害中絶す。

D 討伐…平海衛の戦 1563

① 明の世祖嘉靖帝朝愈大猷胡宗憲戚繼光等討伐す。

② 平海衛(福建省)に於て倭寇の斬首二千二百級を獲得せり。

③ 餘黨臺灣附近に於て海賊となる。

庚、萬曆朝鮮役 1592

A 原 國

① 豊臣秀吉の討明計劃。

② 朝鮮李王の討明嚮導の拒絶。

イ 李朝始祖李成桂より明の外藩。

ロ 宣祖(八世の孫)日本を輕視せり。

B 戦 況

① 討明の前提に朝鮮京城を占領す。

② 宣祖義州(鴨綠江口)に逃れ明に援を求む。

③ 碧蹄館の戦に明軍大敗す。

C 結 果

① 明の沈惟敬講和を締結しながら秘す。

② 秀吉の再征は不成功にして冬營す。

③ 秀吉死没し日本軍撤退す。

参 考 問 題

1 朱元璋。(軍口)

2 明の帝都。(軍口)

3 鄭和。(東歸海兵 大正五)

4 チムールの事蹟。(海軍陸士海軍海兵海軍 大正五 海軍 大正一五)

5 アンゴラ役。(海兵)

6 倭寇。(海軍美術 長崎 大正)

7 倭寇の起原。(商船商船 大正一二)

8 明代に於ける我國邊民の侵略。(海兵)

9 所謂倭寇なるものが最も盛に支那沿岸を侵掠せしは我國並に支那にて何朝なるか。(海軍)

- 10 李成桂。(海欄海經海兵專門各高外語七高東師大正三東師大正五專門大正八博士大正九)
- 11 碧蹄館。(長商大正三)
- 12 明滅亡の原因。(海欄各高)
- 13 徐達。(東師)
- 14 靖難の役。(東師)
- 15 土木の變。
- 16 俞大猷。

第二十四章 明代の文化

甲、儒教

A 陸子學の隆盛…姚江派

- ① 王守仁の所説…陽明學派。
 - イ 餘姚の人陽明は字なり。
 - ロ 知行合一説を述べ傳習録の著あり。
- ② 陽明學派日本に傳はる。

B 朱子學の大成…河東派

- ① 河東(山西)の人薛瑄及方孝儒。
- ② 程朱學の四書五經大全の編纂す。

乙、藝術

A 文學

- ① 散文…擬古文…宋濂。歸有光。

B 繪畫

- ② 漢詩…高邱。李夢陽。
- ① 北宗畫…戴進(定宗朝)
- ② 南宗畫…文徵明。董其昌。
- ③ 風俗畫…仇英。

C 書道…文徵明

丙、天主教…基督教

A 傳來の原由

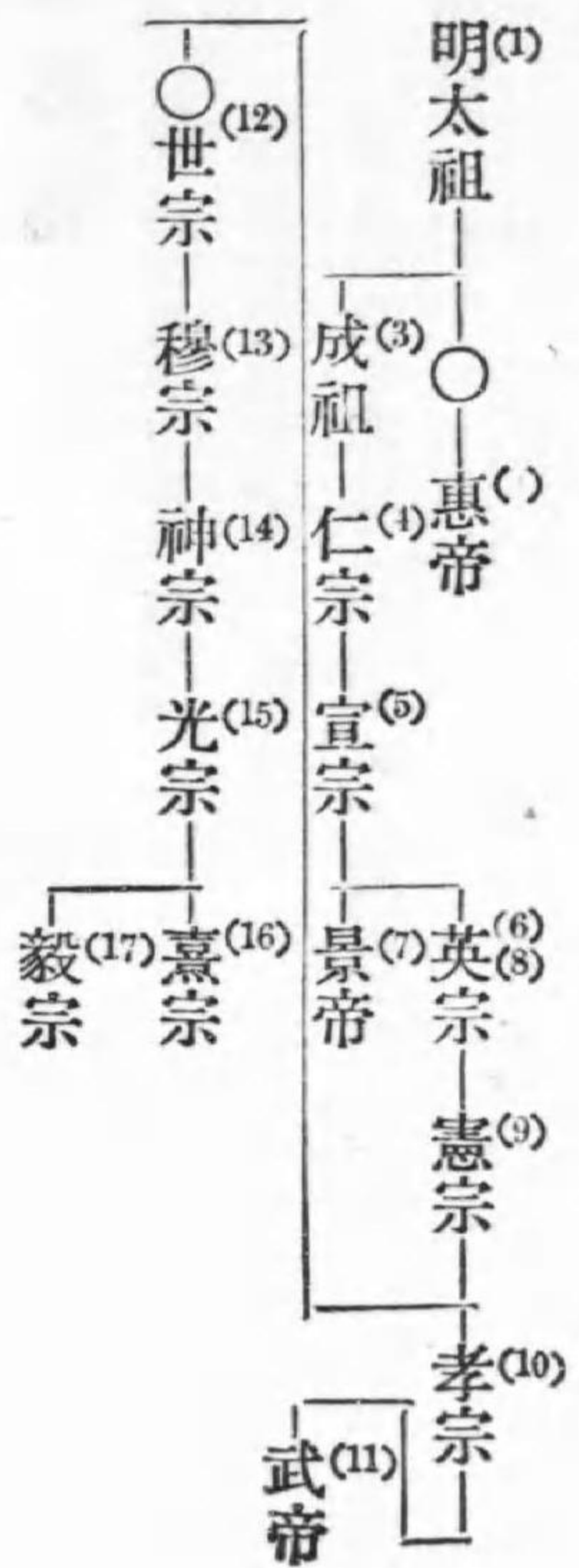
- ① 歐洲人の來航…東洋物産の輸入。
イ 葡萄牙人の臥亞(Goa)阿媽(Anako)占領。
ロ 西班牙人のマニラ(Manila)占領。
ハ 和蘭人の爪哇(Java)占領。
- ② 西歐の舊新兩教の宗争。
イ 舊教の耶蘇會の創設と布教。
ロ 葡。西兩國の領土に對する野心。

B 傳道

- ① 元の世祖朝布教使モンテコルヴェイノの來朝。
- ② 葡人フランシスコザヴェル(Francise Xavier)來朝。
イ 日本に布教後渡明す。
ロ 支那に傳道中死歿す…1552
- ③ 伊太利人マテオリツチ(Mattheo Ricci)來朝…神宗朝北京教會堂創建す。
- ④ 伊人ロンゴバルダ(Niccolas Longobardi)(龍華)パトロンジャ(Diego de Pantoja)獨逸人アダムシヤール(Johann Adam von schall)(湯若望)來朝す。

C 影響

- ① 曆法數學砲術の輸入。
- ② 布教の奏效。
イ 徐光啓(教名バウロ)…砲術幾何に長ず。
ロ 李之藻(教名レオン)…哲學に精通す。



参考問題

- 1 王守仁。(専門 東師 山商)
- 2 方孝儒。(二高 海兵)
- 3 歐洲人の東洋に渡來せし次第。(東商)
- 4 西歐人の東漸及び其の狀況。(東師 名工 陸經)
- 5 ゴア。(外語 各商 大正二)
- 6 澳門。(東師 大正二 東師 大正五)

- 7 明末支那に來りし西洋人。(東師)
- 8 明末の泰西文化の輸入。(京門 大正五)
- 9 マテオソツチ。(東師 陸士 東師 商 大隈 大正一四)
- 10 フランシスザビエル。(海樞 長商)
- 11 唐宋元明時代の西教。
- 12 モンテコルピノ。

第二十五章 清朝の興隆

甲、滿洲族の勃興

A 後金の太祖—清の太祖—努爾哈赤 (Nurhachu)

① 種族・愛親覺羅 (Aisin Gioro) 東胡人種 (金と同人種)

② 居住地—赫圖阿拉 (Hototala) (奉天省 興京縣)

③ 征伐—薩爾滸山戰。

イ 明神宗朝鮮と協力して夾撃す。

ロ 後金の太祖聯合軍を撃破す。

④ 奠都—瀋陽 (奉天省 瀋陽府)

B 清の太宗

① 討征。

イ 朝鮮を討ち朝貢國とす—1637

ロ 漠内蒙古部長林丹汗を討ちて支那歴代相傳の印璽を繼承す。

ハ 明軍を山海關に撃破す。

② 改號。

イ 蒙古の汗號を皇帝と改む。

ロ 清と國號を改む。

乙、清朝の隆盛

A 世祖

① 明の内亂を鎮定す。

イ 明の李自成叛亂す。

ロ 明將吳三桂に授軍を派す。

② 奠都 1644

イ 北京に奠都す。

ロ 辮髮令を發布す。

B 聖祖—康熙帝

① 三藩の亂—興明討虜の企圖。1681

イ 吳三桂—(平西王)雲南に叛す。

ロ 明の遺臣尙可喜及尙之信—(平南王)廣東に謀叛す。

ハ 耿繼茂及耿精忠—(靖南王)福建に亂す。
 ニ 聖朝明の遺臣を鎮定し清朝の直屬とす。

② 臺灣征伐—朱成功の亂。1661

イ 鄭成功魯王を奉じ臺灣に據りて明を復興せむとす。
 ロ 鄭經鄭克塽清に降参す。

③ 準噶爾 (Dsungar) 部平定。

イ 衛拉(瓦剌)也先以後四部に分裂す—準噶爾部。杜爾伯特部。土爾扈部。和碩部。
 ロ 明朝末期準噶爾三部を兼併す。
 ハ 清朝の初め青海西藏外蒙古を侵略す。

ニ 蒙古三部—札薩克圖 (Jasaktu) 土謝圖 (Tushiyet) 車臣部 (Tsetsen)—等清に求援す。
 ホ ツーラ河畔の戦に準噶爾部長ガルトマン (Galdan) 敗北自盡す—1696

④ 蒙古の統治。1720

イ 準噶爾族を撃破し科布多に清兵を駐在す。
 ロ 外内蒙古部を清朝領とす。

⑤ 西藏平定。

イ 準噶爾部喇嘛擁立の爲め侵入せり。

ロ 清軍征討して拉薩 (Lhasa) に駐藏大臣を設置す。
 ハ 西藏新達賴喇嘛を册立す。

C 高宗—乾隆帝

① 準噶爾部伊犁 (III) 部討滅。

② 回部—天山南路の平定。

イ 五代朝に回教の傳來。

ロ 天山南路の回紇人信仰す。

③ 南海の朝貢。

イ 緬甸封册をうく。

ロ 暹羅山田長政執政たり。

ハ 安南—大越王阮文惠降服す。

参考問題

1 清朝の興起。(海兵)

2 ヌルハチ。(隆士大正七)

3 乾隆帝。(各高)

- 4 清の聖祖及び高宗時代。(東師)
- 5 明朝滅亡の世紀。(海標)
- 6 清の高宗。(東師大正八)
- 7 聖祖。(東師海兵大正三)
- 8 吳三桂。(東師東商商船)
- 9 三藩の亂。(東師)
- 10 鄭成功。(東師海標海經海兵陸士五高各高名工農大豫外師陸士大正四海標大正五海兵大正七海兵大正八)
- 11 朱成功。(東師)
- 12 歐羅巴人の初めて臺灣に植民せし國及其の年代。(外師東師)
- 13 【註】和蘭人一六二三年臺灣に上陸占領すセイランヤア城を築城し後一六六一年鄭成功占領す。臺灣の清に屬したる始末。(東師)
- 14 瓦刺人の侵入。

第二十六章 清朝の文化

甲、中央政府

A 内閣

① 組織。

イ 長官—大學士 次官—協辦大學士(大學士四人)協辦大學士二人—機務の統理。
 ロ 六部衛門—政務の分掌。

② 沿革。

イ 總理衛門の創設—(長髮の賊亂後)の改制
 ロ 軍機處の專權。

B 六部衛門—長官—尙書 次官—侍郎

- ① 吏部—叙勳封爵。
- ② 戸部—財政戶籍。
- ③ 禮部—教育宗教。
- ④ 兵部—兵事軍政。

- ⑤ 刑部—刑律斷獄。
- ⑥ 工部—土木度量衡。

C 軍機處

① 起原。

- イ 世宗雍正十年軍需局創設。
- ロ 高宗乾隆十九年再設。

② 權限。

- イ 皇帝の諮詢顧問。
- ロ 軍機の樞密極祕の事務。
- ハ 詔勅の掌理。

③ 沿革。

- イ 親王大學士兼任。
- ロ 内閣の政權壟斷。

D 理藩院—塞外統治機關

- ① 内外蒙古—盟長。
- ② 天山南路—新疆省新設。

- ③ 毒海—辦事大臣。
- ④ 西藏—駐藏大臣。

乙、地方政廳

A 省

- ① 區劃—全支那十八省、滿州三省新疆省(直隸、山東、山西、河南、江蘇、安徽、浙江、江西、福建、廣東、廣西、甘肅、陝西、四川、湖南、湖北、雲南、貴州)
- ② 行政官。
 - イ 總督—二省兼務統治。
 - ロ 巡撫使—布政使(租稅)按察使(裁判)
 - ハ 提督—省内督軍の司令。

B 府州縣

- ① 長官—知府 知州 知縣。
- ② 滿漢人種併用制度。

C 滿洲統治

- ① 特徵。
 - イ 將軍—各三省の庶政總務。
 - ロ 奉天府尹—五部衙門常設(吏部除外)

② 目的。

- イ 清朝滿州人の發祥地。
- ロ 對露對韓政策。

丙、兵制

A 八旗—(軍團の類別)

- ① 旗色—正黃正白正紅正藍、鑲黃鑲白鑲紅鑲藍。
- ② 種類—二十四旗、滿州八旗、蒙古八旗、漢人八旗。
- ③ 起原—清太祖滿州八旗創設。
- ④ 任務

イ 滿州三省の國境安寧の守備。

ロ 北京帝都の治安守衛。

ハ 要地要塞の保全警備。

B 綠旗

- ① 漢人の組織。
- ② 任務、

C 鄉勇

イ 各省の駐衛社會交通の保護。
ロ 邊境の異民族の警備。

- ① 拳匪の叛亂鎮定に臨時募集。
- ② 清朝末には常設となり八旗綠旗の制衰微せり。

丁、文藝

A 考證學—經書の歴史的考證集大成

① 起因

イ 靚炎武—明の遺臣蘇州の人太祖聖祖に仕へ史學經學字學を振興す(字は中清壽人とも云ふ) 日知錄の名著あり)

ロ 閻若璩—聖宗世宗に任へ老證學を鼓吹す(字は百詩古文尙書を研究す 地理學上には四書釋地の著作あり)

② 勅撰集

イ 聖祖朝—佩文韻府四百四十四卷、全唐詩九百卷、康熙字典四十二卷。

ロ 高宗朝—大清一統志五百卷、二十二史劄記三十六卷、四庫全書提要二百卷内容十七萬二千五百二十六卷。

B 詩

- ① 王士禎(字は貽上、號は漁洋、山東省新城の人、聖祖朝に刑部尙書たり)
- ② 吳偉業(梅村)

C 小説劇曲

- ① 小説—十二樓記(李漁作)紅樓夢(曹雪芹作)(李漁の號は笠翁と云ふ、浙江の人。)
- ② 劇曲—笠翁十二曲(李漁)桃花扇(孔尙任作)

D 漢學

- ① 經學—惠棟。
- ② 數學—梅文鼎。
- ③ 史學—錢大昕(字は及之、二十二史考異の著作あり。)
- ④ 字學—段玉裁(字は若膺、説文に精通す)

戊、宗教

A 喇嘛教

- ① 分派—紅教喇嘛(Samar Lama)黄教喇嘛。
- ② 黄教喇嘛教(Saser Lasa)の興隆。

イ 紅教喇嘛の通俗的墮落。

ロ 宗喀巴(Tsong Khapa)黄教の創設。

ハ 班禪喇嘛(Pansen Lama)達賴喇嘛に分流す。

ニ 西藏拉薩の喇嘛並に蒙古庫倫の活佛は統治權を有す。

B 基督教

- ① 耶蘇會宣教師の來朝。

イ アダムシヤル(Adam Schall) 聖祖朝。

ロ フェルベイスト(Verbiest) 聖祖朝。

ハ シヤルツ—聖祖朝。

- ② 宗勢—北京公會所設立信徒十萬人。

- ③ 文化—天文曆數實測地圖の輸入。

- ④ 禁止

イ 理由—西班牙人の領土的野心及孔子の祖先崇拜との衝突。

ロ 期限—世宗雍正帝朝—1722

己、藝術

A 繪畫

- ① 山水畫—王時敏、王鏊、王翬、王原祁。
 - ② 花鳥畫—惲壽平。
 - ③ 寫生畫—伊太利人、郎世寧。
- B 書道—翁文綱、劉墉鄧石如。

參考問題

- 1 清の官制。(各高)
- 2 軍機處。(大高東勝)
- 3 理藩院。(專門 大正五)
- 4 清朝の八旗綠旗の概要。(東勝)
- 5 觀災武。(東勝 廣師 昭和二)
- 6 清朝儒學の特色。
- 7 六部衛門。
- 8 督軍。
- 9 鄉勇。
- 10 四庫全書。

第二十七章 莫臥兒帝國の興亡

甲、英臥兒 (Maghal Empire) の復興

A 建國 1526

- ① ウズベック (Uzheg) 族南侵。
イ 帖木兒帝國の遺族を討滅す。
- ロ ブハラ (Bokhara) キヅノ (Khiva) 二汗國建設。
- ② バベル (Baber) 中亞に敗れ印度に退却す。
イ チムル (Timur) 五世の後裔。
ロ 莫臥兒は蒙古 (Mongol) の轉訛なり。

B 興起 1556—1688

- ① アクバル (Akbar) 大帝—バベルの孫。
イ 在位五十年印度古代文化復興。
- ロ アグラ (Agra) 尊都度量衡の制定。
- ハ 非回教課税を廢し温都教と通婚し兩宗教を和解す。

- ② アウラウツツ (Aurangzeb) 1688
- イ 南印度を征し全印度統一。
- ロ 温都教徒の叛亂。

乙、西歐人の植民—莫臥莫帝國の滅亡 1857

A 英國の印度經略

- ① 西紀千六百年東印度會社創設。
- ② 植民地—マドラス (Madras) キヤンビー (Bombay) カルカッタ (Calcutta) 1639
- ③ クライヴ (Robert Clive) の植民地の擴張。

B 佛國の印度侵略

- ① 西紀千六百年東印度會社創設。
- ② 植民地—ボンヤシエリ (Pondicherry) シヤンハナナナ (Chander Nagar)
- ③ ダブレックス (Dupleix) の商路發展。1741—1754

C 滅亡 1804

- ① 英の印度總督の内政干涉。
- ② 莫臥兒皇帝の年金制度。

③ バハツルシヤアの失策 (アウラウツツの六世の孫)

イ 印度アライイ (Delhi) 土兵叛徒に内援す。

ロ 奪位せられ十五帝三百三十二年にて滅亡。

丙、印度帝國 1858

A 基 因

- ① プラシイ (Plassey) 戰勝。
- イ 印度、佛聯合軍七萬兵敗北。
- ロ 英軍クライブの兵三千奇蹟的勝利。
- ハ 印度帝國の創建紀元。
- ② 東印度會社の活動。
- ③ 英本國の總督に全權委囑。

B 征 略 1757

- ① ベンガル (Bengal) の内政干涉—クライブ。
- ② イスラム (Islam) 教徒の鎮壓—ヴェルズリ (Wellesley)
- ③ マーラッタ (Maharatta) 同盟諸國の平定—ヘスチングス (Warren Hastings)

④ マイゾル (Mysore) 土匪の征服—ヘスチングス。

C 建設 1877

① ムガル皇帝の退位。

② 東印度會社の政府直轄。

③ ビクトリア (Victoria) 女帝の印度皇帝兼稱。

D 國勢

① 緬甸 (Burma) 併合。1886

② 馬來半島 (Malay Peninsula) の服屬。1895

帖木兒—(四世)—パベル—〇—アクバル大帝

〇—〇—アウラングゼブ…バハツル二世

参考問題

1 モガル帝國の興起。(東師 專門 東師 大正二)

2 モガル帝國の興廢。(大阪外語 外語 專門 東師 大正七)

3 パベル。(東師 大正九)

4 デリー。(各高)

5 アクバル。(各高 東師 東師 大正二)

6 近世印度に於ける英佛の權力爭奪。(陸士 陸士)

7 近世に於ける歐洲諸國の東方經略。(東商 美術 大正四)

8 十七八世紀に於ける和、英佛のアジア方面の權力消長。(女師 外語)

9 アジアに於ける英國の經營。(海兵)

10 英國の印度侵略。(各高 東商 海機 各高 大正四 海機 大正四)

11 英吉利印度會社。(專門 大正元)

12 英領印度建設の始末。(東商)

13 印度帝國の紀元。(商船 專門 大正四)

14 ヘースチングス。(長商 外語)

15 クライヴ。(外語 神商 海機 大正一五)

16 マーラツタ同盟。(海兵 六高 二高)

第二十八章 清朝の衰運

甲、阿片戦争 1839—1842

A 戦因

① 輸入の状況。

- イ 英領臥亞の阿片を輸入す。
- ロ 宣宗朝年額三萬五千箱（七十年間百八十倍）

② 禁止の理由。

- イ 正貨の海外流出。
- ロ 衛生上の國民保健。

③ 禁止の嚴令。

- イ 高宗朝燒棄 1729
- ロ 仁宗朝燒棄 1767
- ハ 宣宗朝燒棄 1837

B 暴舉—林則徐の上書 1839

- ① 林則徐兩廣總督として二萬八十三箱の阿片を燒棄す。
- ② 英國に通商を禁じ飲食物の供給の禁止。
- ③ 林則徐欽差全權大臣として嚴命し英の廣東領事エリオットと交渉す。

C 戦況

① 英艦の出動。

- イ エリオット (Elliott) 本國政府に出兵を要求す。
- ロ 本國政府印度總督に訓令し司令官ブレメル (Brenner) 軍艦十五艘澳門に急派す。

② 封鎖及び占領。

- イ 廣東港寧波を占領す。
- ロ 清將陳化皮は上海に敗れ揚子江に英艦逆進す。
- ハ 南京陥落。

D 戦局—南京條約道光二十二年 1842

- ① 全權委員—清國の伊里布、英國のポッチンシヤ (Pottinger)
- ② 内容。
 - イ 代償金二千百萬弗。
 - ロ 廣東廈門福州寧波上海の五貿易港を開く。

- ハ 香港九龍諸島の割譲。
- ③ 影響
 - イ 白耳義、和蘭、普魯西、西班牙、葡萄牙、諸國の領事駐在。
 - ロ 米國、佛國の北京公使の派遣。
 - ハ 西洋文化の輸入。
 - ニ 排外運動の基因。

乙、長髮賊の騷擾 1850—1864

A 因由

- ① 清朝に對する漢人種の反感—辨髮令と北京中心の外交。
- ② 清朝の兵備弛緩—八旗綠旗の微弱。
- ③ 清朝の外交失敗—阿片南京條約。
- ④ 基督教の嚴禁の反動—滿人種の儒教思想。

B 擧兵 1850

- ① 基督教信者(廣東省の人)洪秀全廣西金田村に暴動を惹起す(太平天國の政令は西洋風に於て奴隸と稱す) 賣買婦人の纏足辨髮を禁じ天帝の弟
- ② 南京より揚子江地帶南支那の漢人を收集し太平天國と稱す。

③ 黄河地方の捻匪賊と内應す。

C 討伐 1850—1862

- ① 郷勇の募集。
 - イ 曾國藩曾國荃(湖南省の人湘勇軍を引) 辛す。荃は弟なり
 - ロ 左京棠(湖南省長沙府の人) 曾國藩に登用せらる
 - ハ 李鴻章(安徽省廬州府の人) 淮勇軍を組織す
 - ニ 胡林翼(湖南省長沙府の人) 文宗朝には湖南巡撫なりき
- ② 鎮定。1864
 - イ 米人ワード(Ward) 英人ゴルドン(Gordon) 常勝軍を引率して偉功を立つ。
 - ロ 官軍の持久的包圍により洪秀全自殺し賊勢挫けり。
 - ハ 捻匪賊も鎮壓せらる。

D 影響

- ① 戦闘十五年間、兵禍十六省、戦死者二千萬人。
- ② 漢人の勃興。
- ③ 英佛の北清侵略。

④ 財政窮迫により地方に釐金税を課す。

丙、英佛の侵略 1856—1860

A アロー號事件 1856

① 原因。

イ 廣東官吏罪人捕虜の爲め英船に闖入す。

ロ 廣西の官吏佛の宣教師を殺す。

② 戦況。

イ 英佛聯合軍廣東港大沽砲臺を攻略す。

ロ 天津假條約を締結す。

B 圓明園の禍 1860

① 原因—英佛の批准使節清兵に砲撃せらる。

② 戦況。

イ 英佛聯合軍天津北京を攻略す。

ロ 北京郊外の圓明園の宮殿燒棄せらる。

ハ 文宗直隸省の熱河に逃走す。

③ 戦局。

- イ 皇弟恭親王談判委員たり。
- ロ 償金八百萬圓を兩國へ支拂ふ。
- ハ 耶蘇教の信仰布教の自由解放。
- ニ 牛莊芝罘漢口等七貿易港の公開。
- ホ 外國公使館の北京駐在設置。

参考問題

- 1 鴉片戦争の始末。(廣師 女師 海兵 外語 廣師 大正一五)
- 2 阿片戦役の原因。(美術)
- 3 阿片戦争の結果。(外語)
- 4 林則徐。(海兵 專門 東師 各高 山崎 專門 大正三 海兵 大正四)
- 5 南京條約。(專門 大正二)
- 6 清國對外國の交戦を列擧し其の年代原因結果を述べよ。(海標)
- 7 十九世紀に於ける支那と英佛獨との間に起りし主要事件。(海標 大正五)
- 8 長髮賊の亂。(東師 陸士 商船 海兵 海經 廣師)

- 9 洪秀全。(東師海機各高長商海機 大正二 東帥 大正六)
- 10 ゴルドン 戈登。(東師 外師 三高 高師 大正三 海機 大正三)
- 11 曾國藩。(海機 海經 海兵 東商 山商 農大 豫 東師 山商 女帥 長商 東商 大正三 海兵 大正三 東師 大正三 美術 大正六 海兵 大正九)
- 12 李鴻章。(山商 名工 海機 大正三 海機 大正七 海機 大正一五)
- 13 左宗棠。(各高 各高 大正五)
- 14 英佛の北清侵入。(商船)
- 15 アロー 號事件。(海經 大正三 商船 大正六)
- 16 一八五八の天津條約。(海兵)
- 17 香港。(各高 長商 海兵 外師)

第二十九章 露佛の亞細亞經營

甲、露國の西伯利亞侵略 1480—1579

A コサツク族の活動

- ① ドン河 (R. Don) 畔のコサツク (Cossack) 會長 ヘルマク (Yermak) の東方侵略。
- ② キプチャツクの後裔シビル (Siberkhan) 汗國を討伐し侵地をイワン (Ivan) 四世に獻納す。

B 黒龍江 (R. Amur) 經營

- ① 露軍先鋒隊 コサツクと清兵と黒龍江地帯に衝突しヤクサ (Albazin) 城を陥る。
- ② 露清の尼布楚 (Nertinsk) 條約の締結……1689
 - イ ハトル大帝 (Peter the Great) 聖祖時代に於て外貝加爾 (Baikal) 州に會見す。
 - ロ 外興安嶺を境界とし露兵撤退。
- ③ 愛琿條約。1858
 - イ ムラビヨフ (Muraviev) 極東總督とし劃策す。
 - ロ 長髮賊の内亂中黒龍江を占領す。
 - ハ 愛琿 (Aigun) を國境とす。

④ 烏蘇里占領。1860

イ 英佛と清朝との交戦中講和斡旋の報酬。

ロ イグナチフ (Ignatiev) 總督の劃策。

⑤ 樺太占領—日本と千島樺太交換問題の結果。1875

C 極東施設 1847

① 恰克圖の通商條約。

② シベリア (Siberia) 總督任命派遣。

③ シベリア鐵道の布設。

④ 浦鹽 (Vladivostok) の經營。

乙、露國の中央亞細亞侵略

A アフガニスタンの占領—キヅア (Khiva) ノンラ (Bokhara) コウカンド (Khokand) 鼎
立交争中干渉す。1868—1876

B 伊犁事件 1881

① 原由。

イ 天山南路の回教徒の反亂。

ロ 露國國境保護に軍事的占領。

ハ 清國左宗棠討伐軍を急派す。

② 交渉。

イ リウヅジャ條約は崇厚によりて締結せられたるが清朝破棄す。

ロ 伊犁條約を再結す。

I ゴルゴス河を國境とす。

II 九百萬ルーブルを代償として伊犁を清朝に返還す。

丙、英露衝突

A 因由

① 露國のヘラット (Herat) 侵略。

② 英國のアフガニスタン (Afghanistan) に干渉す。

B 結局

① アフガニスタン境界議定……1887

② パミル境界議定。1895

丁、佛國の安南占領

A 安南統一

① 阮福映の創業。

イ 宣教師のピニヨ (Pigneau) (佛人) の勸告により廣南に舉兵す。

ロ 阮文惠の後裔を討伐したり。

② 越南國の建設。

イ 越南の世祖嘉隆帝と稱號す。

ロ 清朝の朝貢國となる。

B 佛國の出兵

① 原因—清の封冊をうけ佛國の宣教師を殺害す。

② 戦況—佛軍侵襲して越南降伏す。

③ 講和—交趾支那。

イ 交趾支那の割讓。

ロ 償金二千萬フラン。

C 越南の屈伏 1883

① 原由。

イ 佛國の紅河航行權を強請す。

ロ 佛軍の河内 (Hanoi) 東京 (Tonking) 占領。

② 戦況。

イ 佛軍は首府順化 (Hue) を陥る。

ロ 長髮賊の殘黨の劉永福黑旗軍を率ゐて對戦して敗北す。

③ 講和

イ 東京地方の割讓。

ロ 佛國の保護統治となる。

戊、清佛戦役 1884—1885

A 戦因

① 清國の佛越條約非認。

② 諒山—(紅河の上流) に清佛兩兵の衝突。

B 戦況

① 清軍の東京 (Tonking) 侵略。

② 佛軍クルベール (Courbet) 提督の出勤。

イ 福建攻撃。

口 澎湖島占領臺灣封鎖。

C 戦局—清朝の佛越條約承認

己、佛領印度支那 (Cochin China) の統治 1887—1893

A 統治領—交趾支那東京安南 (河内(Hanoi)に總督駐在す)

B 保護國—カンボチャ (Cambodia)

C 老撾事件 (Laos)

- ① 位置—メコン (R. Mekong) 河上流にカンボチャ (Cambodia) 故領なりとの理由にて占領。
- ② 處分—佛國の保護國とす。

參考問題

- 1 アジアに於ける露國の經略。(各高海兵専門陸主東師海領各高 大正一四)
- 2 清朝と露國の國際的關係の沿革の年代順記述。(陸士大正五 廣師 大正八)
- 3 露清兩國の境界に關する諸條約。(各高専門 大正二)
- 4 尼布楚條約。(東師各高陸士外師商大豫 大正一四)

- 5 イグナチエフ。(七高)
- 6 ムラビエフ。(専門海兵 山師東師海兵 大正四 陸經 大正七 専門 大正七)
- 7 伊犁事件。(東師専門 七高 女師陸士 大正九)
- 8 愛琿條約。(各高陸士専門 大正四)
- 9 ウラチオストツク。(長商)
- 10 中央アジアに於ける英露の衝突。(海兵陸士陸士 大正四 各高 大正五)
- 11 露國の基華征服の年代と狀況。(海兵陸士陸士)
- 12 清佛戰役の顛末。(海兵陸士 大正八)
- 13 劉永福。

第三十章 清末の外交

甲、朝鮮の内政干渉—日清役前の交渉

A 壬申の變—明治十五年の京城事件。1883

① 原因。

イ 親清派—攝政大院君。

ロ 親日派—閔妃—朴泳孝金玉均。

② 政變。

イ 日本軍派遣。

ロ 李鴻章大院君を清國へ拉致す。

B 甲申の變—明治十七年の京城事件。1885

① 原因。

イ 親清派事大黨—閔妃—閔臺鎬閔泳翊。

ロ 親日派獨立黨—李太王—朴泳孝金玉均。

② 政變。

イ 日本軍の派遣。

ロ 朴泳孝等の獨立假政府建立の失敗。

ハ 清軍袁世凱吳大澂等と衝突す。

③ 天津條約の締結。

イ 日清兩國の駐兵を撤廢す。

ロ 出動に當りては交渉をなす。

乙、日清戦役 1894—1895

A 戦因

① 經濟上—袁世凱朝鮮人を煽動して釜山の日本商人に防穀令を發す（大石正己公使の交渉）。

② 感情上。

イ 西太后の排外運動。

ロ 金玉均は李鴻章に誘はれて上海にて慘殺せらる。

③ 軍事上—朝鮮の東學黨は排外運動の騷亂を惹起し清兵の出動。

B 戦況

① 朝鮮地方の攻略。

イ 牙山成歡山の戦に葉志超敗る。

- ① 平壤の戦に聶士成馬玉昆敗る。
- ② 遼東半島の攻略。
- イ 鳳凰城九連城の陥落。

C 戦局 1894

ロ 旅順威海衛も占領せられ丁汝昌毒殺す(丁汝昌の字は禹亭曾國藩に撰拔せられ英國に至り戦術を研究す)

① 談判—下ノ關春帆樓の會見。

イ 日本—伊藤博文陸奥宗光。

ロ 支那—李鴻章吳大澂。

② 條約。

イ 朝鮮の獨立保護。

ロ 償金二億兩—三億圓。

ハ 遼東半島臺灣澎湖列島の割讓。

ニ 沙市重慶蘇州杭州の開港。

D 戦後の交渉

① 三國干渉—遼東還附問題。

イ 露國はシベリア鐵道を延長布設し浦鹽より更に不凍港の要求。

ロ 露佛協約と獨逸の參加。

② 三國公使外相陸奥宗光と會見し還附を聲明—代償三千萬兩。

参考問題

- 1 天津條約の由來。(海兵 陸士 海標 陸士 大正七)
- 2 大院君。(七高 東師 專門 大正五)
- 3 明治十七年の事變。(海兵 陸士)
- 4 東學黨の亂。(陸士 專門 陸士 大正六)
- 5 日清役の原因結果。(山商 陸士 海標 大正三 各高 大正五)
- 6 平壤。(各高 海兵)
- 7 朝鮮に於ける獨立黨と事大黨の關係。(海兵 大正五)
- 8 丁汝昌。(山商)
- 9 明治二十七八年戦役以後に於ける我國の新領土租借地及現時に於ける占領地。(各商 大正六)
- 10 馬關條約。(陸幼 大正九)
- 11 三國干渉。(長商 大正二 長商 大正四)

12 日清役の影響。(商大豫 大正一四)

13 アジアに於ける歐洲列強の領土租借保護地域。(審門 大正三)

14 膠州灣。(海經 海兵 大正四)

15 廣州灣。(廣師)

16 カシニ一密約。(海經)

【註】 締結時期 一八九六年五月(明治二十九)

締結全權 李鴻章、ウイツテ藏相。

締結場所 露都ペトログラード。

締結立案 露國の北京駐在公使カシニ一。

條約内容 1 露國の支那沿岸使用權 2 清兵召集權 3 旅順口膠州灣の使用權 4 滿州測量權

5 西伯利亞鐵道の大連連絡延長管理權。

17 金玉均。

18 李是應。

【註】 第二十六代李熙王の攝政、雲岬宮於て政務を總覽す、三軍府の新設、江華島鎮撫營の砲臺新造、西教排斥事大主義にして江華島砲臺より我國雲揚艦を砲撃せしめ京城事變を惹起し、更に日清役を醸成せしむ。

第三十一章 輓近の排外運動

甲、西歐諸國の太平洋政策—日清戦役の影響

A 露國—遼東の租借、東清鐵道の布設。

B 獨逸—膠州灣の租借山東省の採礦權。

C 佛國—廣州灣の租借、兩廣雲貴の採礦權。

D 英國—威海衛の租借。

乙、排外運動—北清事變の原由

A 戊戌の政變—變法自強の政治運動 1898

① 原因。

イ 歐米人の脅迫強請に對する利權回收。

ロ 基督教宣教使の横暴に對する國民的憤起。

② 顧末。

イ 康有爲梁啓超等變法自強の上策(康有爲は廣東の廣州の儒學者兼て保皇會をつくり改革を提唱せり昭和二年四月病歿)

ロ 德宗光緒帝日本の維新を模倣せむと劃策す。
 ハ 西太后德宗皇帝を幽閉し康有爲等同志亡命す。

B 西太后の排外主義 (西太后は文宗の貴妃穆宗の母后一九〇八歿す)

- ① 端郡王と協力して改革の黨を殺す。
- ② 義和拳匪を煽動す。

丙、義和團 (Boxer) の亂—拳匪 1899—1901

A 暴動

- ① 西教撲滅。
- ② 外人排斥。

イ 山東省の鐵道破壊。

ロ 直隸省より北京に侵入し北京公使館の攻撃 (獨逸公使ケツトレル日本書記官杉山彬等殺さる)

B 鎮壓

- ① 列國聯合軍を組織し大沽砲臺山海關を占領す (英國東洋艦隊司令官シイモア八ヶ國陸戰隊を指揮す)
- ② 日本の援兵北京を攻撃鎮定し公使館を救ふ (日本山口素臣中將の指揮により天津守將聶士成馬玉昆敗北す)
- ③ 西太后德宗等西安に出奔す。

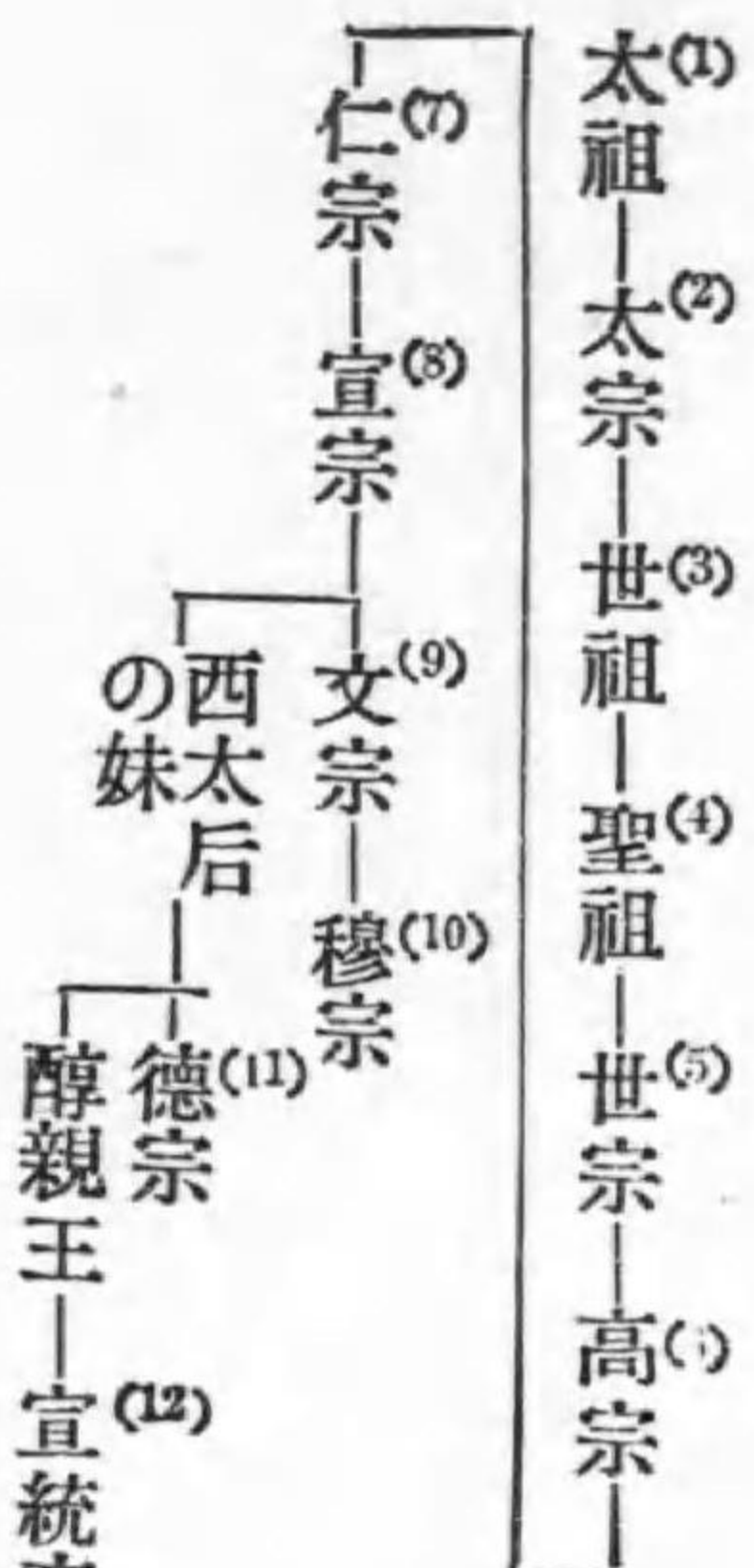
C 和約 1901

- ① 講和全權慶親王李鴻章派遣す。
- ② 和約關係國—團匪借款國—英佛獨露米伊白西和奧日十一ヶ國。
- ③ 北京條約。

イ 主謀者端郡王の處罰。

ロ 兵器彈藥等の輸入楚止 (六ヶ年間)

ハ 賠償金四億五千萬兩 (一億一千萬圓)



参考問題

- 1 義和團匪事件。(海兵 東師 陸士 大正三 海兵 大正四 東師 大正七)
- 2 北清事變。(東師 陸士 美術 大正六 各高 大正八)
- 3 康有爲

第三十二章 極東及び太平洋問題

甲、滿韓交換問題—日露戦役の原因

A 露國の滿洲占領

- ① 國境保全居留民保護の名義に於て團匪の反亂に際し出兵す。
- ② 黒龍江滿洲奉天の軍事的占領し亂後も撤兵せず。

B 露清密約。

- ① 北京條結の締結調停の報酬。
- ② 清朝滿洲の利權讓與。

C 日米英の三國干渉 1901

- ① 日英同盟締結せられ極東平和の爲撤兵を露國に強請す。
- ② 三回にて撤退條項を宣言しながら第一回奉天の一部を撤兵せるのみ。
- ③ 遼東半島の軍事的設備。
 - イ 安東縣の陸軍兵營。
 - ロ 旅順金州湯地の防備。

ハ ハルピンの陸軍策源の本營。
ニ クロボトキン (Kropotkin) 總督の急派巡閲。

乙、日露戦役 1904—1905

A 宣戦

- ① 日本の宣戦勅諭御發布前に於ける海軍の出勤。
- ② 國交断絶後の朝鮮の仁川蔚山沖の海戦太平洋艦隊(マカロフ)敗走す。
- ③ 旅順閉鎖計劃と黄海の海上権の獲得。

B 戦況

- ① 日本軍の遼東半島諸要塞占領。
 - イ 九連城鳳凰城の占領。
 - ロ 大孤山の戦。
 - ハ 旅順南山の攻撃(乃木第三軍司令官)
- ② 遼陽奉天の大激戦。
 - イ クロボトキン 大山總司令官の指揮—戦線四十里。
 - ロ 奉天の決戦—第三乃木軍の左翼攻撃の奏功。

③ 日本海の大激戦。

イ 露國のバルチック (Baltic) 艦隊の派遣。
 ロ ロゼンストヴヰンスキ (Rozhdest Vensky) 中將と東郷司令官の總指揮。

C ポーツマス (Portsmouth) 條約 1905

① 休戦。

イ 米國大統領ルーズベルト (Roosevelt) の仲裁。

ロ 小村壽太郎と露國全權ウツテ (Witte) の講和談判(副使として高平小五郎駐米公使)
 露の駐米公使ローゼン派遣さる)

② 條約。

イ 韓國の日本の利権確認。
 ロ 遼東半島の租借權及び鐵道の割讓。
 ハ 樺太南半の割讓。

丙、戦後の影響

A 日英同盟 1902—1921

① 目的。

イ 日本の滿韓利權の保持。

- ① 英國の印度經營の保證。
 - ② 効果。
 - イ 露國の極東政策の失敗。
 - ロ 佛國獨國の太平洋政策の防禦。
 - ③ 締結沿革。
 - イ 第一回——一九〇二
 - ロ 第二回攻守同盟——一九〇五
 - ハ 第三回通商同盟——一九一〇
 - ニ 華府會議にて廢棄——一九二一
- B 黃禍説 1905—1907**
- ① 起因。
 - イ 日露戦役により黄色人種の勃興に對する恐怖宣傳。
 - ロ 獨帝が露帝に黃禍圖を贈る。
 - ② 結果影響。
 - イ 日本の世界的地位の向上。
 - ロ 露國の蒙古に對する侵略的政策。

- C 日米覺書 1908**
 - ハ 米國濠洲に於ける排日運動。
 - ① 米國の太平洋經略—モンロ主義 (Monroism) の變調。
 - イ ハワイ (Hawaii) 諸島の併合。1898
 - ロ フィリッピン (Philippine) 占領。1898
 - ② 内容。
 - イ 清國の領土保全。
 - ロ 商工業の機會均等主義。
 - ハ 支那門戸開放。
- D 日露協約 1907—1910**
 - ① 目的—國民的偕好經濟的復興。
 - ② 沿革
 - イ 第一回……一九〇七
 - ロ 第二回……一九一〇
- E 日韓合併 (一八九七朝鮮を韓と改め 一九一〇合併により再び朝鮮と改稱す) 1897—1910**
 - ① 日韓新條約
 - イ 保護統治として外交權を日本帝國に委囑。

- 統監府を新設し内政の改革。
- ② 合併。1910
 - イ 韓帝の獨立企圖の失敗。
 - ロ 伊藤博文のハルビン (Harbin) の遭難。

参考問題

- 1 明治三十七八年戦役の原因結果。(陸士 陸幼 大正二 海軍 大正三 各高 大正五)
- 2 日露戦役の講和會議。(専門 大正八)
- 3 ポーツマス條約。(女師 海兵 大正二)
- 4 日英同盟の經過。(各高 大正二 廣師 大正三 海軍 大正三 美術 大正六 長商 大正八)
- 5 第二日英同盟。(海兵)
- 6 韓國併合の由來。(各高 大正四)
- 7 ルーズベルト。(山西)
- 8 露國の日清役後の極東侵略の概要。(東應)

第三十三章 清朝の滅亡

甲、清末の政治改革運動

A 國勢の凋衰理由

- ① 滿洲人の無能に對する漢人種の政權獲得運動。
- ② 基督教及び外國人排斥運動。
- ③ 税制の紊亂と兵制の弛緩により地方行政の腐敗。
- ④ 白蓮社海賊等の叛亂。
- ⑤ 歐洲人の内政干渉と土地租借鐵道布設礦山の採掘權の強請。
- ⑥ 戦役と輸入超加による正貨海外流出。1906—1908

B 國會開設の準備

- ① 政治思想の發達により變法自強の説再燃す。
- ② 德宗光緒帝立憲政治準備の詔勅の發布。
- ③ 軍機大臣に張之洞袁世凱任命せられ立憲政體の豫約の公布。

C 革命運動の前提 1910

① 宣統帝の即位—三歳

イ 德宗西太后の薨去。

ロ 醇親王の攝政—宣統帝の生父。

② 國會開設の急迫。

イ 國會開設期限の短縮宣言—十年以後を六年後とす。

ロ 資政院を北京に開催す。

ハ 中央政府の官制の改革。

D 南支那漢人の革命運動

① 革命思想。

イ 佛國ルソーの思想を繼承し三合會組織せらる。

ロ 廣來の孫文黃興の興中會の宣傳。

② 第一革命—武昌革命。1911

イ 動機—盛宣懷の鐵道國有のため外債募集に對する反對。

ロ 狀況—武昌の湯化龍等暴動し黎元洪を假都督とす。

③ 南京革命。

イ 孫文臨時大總統となり共和宣言し民國元年正月とす。

乙、共和政體の確立 1912

A 清帝の退位 1912

ロ 黃興臨時大元帥となり北伐軍を組織す（黃興は湖南長の人黃軫とも言ふ一九〇〇頃より革命運動をなせり）

① 清軍の討伐軍の不成功。

② 袁世凱執政として政權を壟斷す。

③ 袁世凱と孫文との内交渉。

B 共和政府

① 宣統帝退位の宣言書發布。

② 清の皇帝尊號をうけ年金を受諾の契約をなす。

③ 清朝は十二代二百九十七年間。1616—1911

参考問題

1 孫文。（大阪外題）

2 清朝滅亡の理由。

3 袁世凱。

第三十四章 中華民國の内治

甲、袁世凱の帝政 1912—1916

A 袁世凱の閱歴

- ① 京城事變當時の韓國懷柔政策。
- ② 李鴻章により北洋軍閥の首領たり。
- ③ 戊戌の政變に德宗に變節し西太后に親任せらる。

B 臨時共和政府の確立 1912

- ① 南京參議會の推舉。
イ 全國各省代表會議を召集開催す。
ロ 南京の參議院を北京に遷す。
- ② 孫文辭任し袁世凱假大總統となる。
- ③ 民國第一回國會の正式選舉により第一期大總統となる—黎元洪副大總統となる。

C 第二次革命—袁世凱の帝政準備 1913

- ① 原因—袁は國民黨領袖宋教仁を暗殺し議會を專制的に政權を獨占す。

- ② 運動—南支那の反袁熱となり李烈鈞江西に舉兵す。
- ③ 結果
イ 北軍段芝貴張勳等に鎮定せらる。
ロ 孫文黃興岑春煊等海外に亡命す。

D 帝政運動 1915

- ① 國民黨の議員を放逐し解散を命ず。
- ② 國會を停歩し臨時約法の改正。
- ③ 籌安會の帝政鼓吹により即位の宣言洪憲元年と改號。

E 第三次革命 1916

- ① 歐米諸國の帝政反對の注言。
- ② 蔡鈔唐繼堯等雲南に舉兵し護國軍と稱し貴州廣東廣西江西等相援く。
- ③ 帝政廢棄の宣言をなし憂悶の中に死没す五十八歳なり。

乙、黎元洪時代 1916—1918

A 歐洲大戰亂の支那參加問題

- ① 總理段祺瑞は袁派の官僚軍閥と對獨逸宣戰説の主張。
- ② 國會に於ける國民黨の反對により免職せらる。

③ 北方督軍の北京政府を脅迫す。
B 清朝復辟問題 1917

① 張勳の暴舉。

イ 黎總統の委囑により北方軍閥を撃退す。

ロ 國會を解散し清朝復興を企つ。

② 民國共和制。

イ 段祺瑞の救國軍を率ゐる北京を占領し張勳派逃走す。

ロ 黎元洪引責辭職し馮國祥就任。

丙、南北對立問題

A 北方督軍の政權壟斷

① 北京政府と滿洲將軍の提携。

② 段祺瑞等と日本の結托。

③ 國民黨系の廣東軍政府の樹立。

B 南北平和會議 1919

① 徐世昌大總統となり列國干涉す。

C 安直戰爭

② 上海に平和會議を開催せるも北方派安直の争闘により效果なし。

① 動機—巴里の講和會議に山東直接還附の要求入れられず。

② 戦況—安徽派の段祺瑞は馮國璋の直隸軍に撃破さる。

D 廣東の民國政府 1921

① 孫文大總統となり北京政府に對峙し、民族民生民權の三民主義の主張。

② 北京北伐軍を起せるも雲南貴州の動亂により孫文出奔せり。

E 奉直戰爭

① 戦局—直隸派吳佩孚と奉天派張作霖と交戦す。

② 結果—徐世昌引責辭職し黎元洪大總領となる。

F 蘇浙戦

① 齊燮元督軍の抗戦。

② 吳佩孚敗北し長江聯盟による。

第三十五章 中華民國の外交

甲、支那大陸に於ける國力均衡

- A 露國—外蒙古。
- B 英國—揚子江流域西藏。
- C 佛國—西南支那。
- D 米國—准水流域—汎濫地帯の開拓。
- E 日本—青島、東部蒙古。

乙、日支交渉—山東問題

- A 日支條約の締結—二十一條要求 1915
 - ① 因 由—日獨戰爭の開始に當り獨逸租借地膠州灣を軍事的に占領す。
 - ② 内容。
 - イ 日本の遼東半島租借年限の延長—九十九年間—旅順大連。南滿洲安奉鐵道を含む。
 - ロ 山東省獨逸の既得利權の讓與—膠州灣青島の軍港の採礦權。

B 山東の直接還附要求

- ハ 北滿洲東部内蒙古の土地商租居住自由保全の優越權の認承。
- ① 對支條約破棄の運動。1919
 - イ 機會—巴里講和會議に委員の派遣。
 - ロ 日本の還附を拒絶し獨逸より直接還附の主張。
 - ハ 北京上海に於ける排日宣傳ホイットコット。
- ② ワシントン (Washington) 會議の處置。1921
 - イ 膠州灣を日本より受授し商港として開放。
 - ロ 山東鐵道を實價にて支那へ讓與す。
 - ハ 獨逸經營の礦業は日支共營。

丙、蒙藏問題 1912—1913

- A 外蒙古の獨立
 - ① 庫倫の活佛。
 - イ 喇嘛教の教主にして統治權を有す。
 - ロ 露國の後援により獨立せんとす。

- ② 露蒙條約。1912
 - イ 露國外蒙古を保護國とせんとする。
 - ロ 内蒙古の動搖により支那の抗議をうけ撤廢す。
 - ③ 露支條約。1913
 - イ 支那の國領の名義を保持すること。
 - ロ 露國の經營に委囑すること。
 - ④ 外蒙古の獨立。1913
 - イ 自治行政を認むること。
 - ロ 活佛に全權を禪讓すること。
- B 西藏問題 1912—1913**
- ① 外蒙古の獨立運動の影響をうけ英國の後援を恃む。
 - ② 西藏の達賴喇嘛は拉薩にありて統治す。
 - ③ 蒙藏協約により活佛と達賴喇嘛と獨立を協議す。
 - ④ 英露密約により蒙藏の獨立を承認せり。

各高等學校

12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
建康	諸葛孔明	佛教の東漸	大秦國	霍光	張壽	古朝鮮	長安	秦の始皇帝	商鞅	支那秦楚燕の位置	周末の七大國の位置及國都	章節項
十一	十一	十	九	八	七	七	六	五	二	二	二	
甲	甲	丙	乙	甲	乙	甲	乙	甲	戊	註	註	
A	B	A	C	A	B	A	A	乙	A			
25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13
汴京	韓愈	郭子儀	安祿山	唐代の外國貿易	唐の外交	兩稅の法	租庸調	房玄齡	唐の太宗	隋の東征	後魏の孝文帝	肥水の役
十七	十六	十五	十五	十四	十四	十四	十四	十三	十三	十三	十二	十一
甲	乙	丙	丙	己	己	乙	乙	丁	丁	甲	乙	丁
A	B	B		癸	癸	B	B	B		B	C	B

各高等學校

一

26	宋金の關係	十八	乙
27	岳飛	十八	丙
28	王安石	十九	甲
29	宋代の文學儒學	十九	乙
30	朱熹	十九	丙
31	元の太祖	二十	甲
32	拔都	二十	丙
33	マルコポーロ	二十二	丙
34	李成桂の統一	二十三	庚
35	明滅亡の原因	二十三	丁
36	方考儒	二十四	甲
37	ゴア	二十四	丙
38	乾隆帝	二十五	乙
39	鄭成功	二十五	乙
40	清の官制	二十六	甲

41	軍機處	二十六	甲
42	デリー	二十七	乙
43	アクバル大帝	二十七	甲
44	英國の印度侵略	二十七	乙
45	マラーツタ同盟	二十七	丙
46	林則徐	二十八	甲
47	洪秀全	二十八	乙
48	戈登	二十八	乙
49	左宗棠	二十八	乙
50	香港	二十八	甲
51	露國のシベリヤ侵略	二十九	甲
52	ネルチンスク條約	二十九	甲
53	イグナチエフ	二十九	甲
54	伊犁事件	二十九	乙
55	愛琿條約	二十九	甲

各陸海軍學校

56	英佛の中亞侵略	二十九	丙
57	大院君	三十	甲
58	日清役の原因結果	三十	乙
59	平壤役	三十	乙
60	日清役の影響	三十一	甲

61	北清事變	三十一	丙
62	日露役の原因結果	三十二	甲
63	日英同盟の經過	三十二	丙
64	日韓合併の由來	三十二	乙

1	春秋の世及其の時代の覇者	二	丙
2	管仲	二	丙
3	商鞅	二	戊
4	合従連衡	二	丁
5	孟軻	三	戊
6	夏殷周の田制税制	三	乙
7	上代印度の社會制度及釋迦	四	甲

8	阿育王	四	乙
9	秦の始皇帝	五	甲
10	李斯	五	甲
11	漢の高祖	六	乙
12	蕭何	六	甲
13	鼂錯	六	甲
14	古朝鮮	七	甲
15	張騫	七	丁

16	王莽	八	乙	B
17	後漢の光武帝	九	甲	B
18	大秦國	九	乙	C
19	黃巾の賊	九	註	C
20	佛教の東漸	十	丙	A
21	道教	十	丙	A
22	三國の國號及び始祖	十一	甲	B
23	諸葛孔明	十一	甲	A
24	清談	十一	丙	B
25	八王の亂	十一	丙	B
26	達磨	十二	丙	B
27	王猛	十二	註	B
28	隋の煬帝	十三	甲	B
29	隋の滅亡	十三	乙	B
30	唐の勃興	十三	乙	B

31	唐の太宗	十三	丁	B
32	兩税法	十四	乙	A
33	則天武后	十五	甲	A
34	開元の治	十五	乙	A
35	安祿山	十五	丙	A
36	節度使	十五	丁	A
37	玄奘	十六	丁	A
38	景教	十六	己	A
39	杜甫	十六	乙	C
40	韓愈	十六	乙	A
41	金の四都	十七	乙	B
42	澶州の役	十七	註	B
43	宋金遼の關係	十八	乙	B
44	王安石の新法	十八	乙	B
45	新法黨と舊法黨	十九	甲	D

46	程朱學	十九	丙	C
47	元の太祖の西征	二十	乙	C
48	哲別	二十	乙	C
49	クルリタイ	二十	丙	A
50	拔都	二十	丙	B
51	旭烈兀	二十	丁	C
52	伯顔	二十	戊	B
53	厓山の役	二十	戊	B
54	范文虎	二十	戊	B
55	文天祥	二十	戊	B
56	海都の亂	二十一	甲	B
57	蒙古四汗國	二十二	甲	B
58	マルコポーロ	二十二	丙	B
59	鄭和	二十三	乙	B
60	チムールの事蹟	二十三	丙	B

61	アングラ	二十三	丙	B
62	倭寇	二十三	己	A
63	李成桂	二十三	庚	A
64	明の滅亡の原因	二十三	丁	庚
65	方孝儒	二十四	甲	B
66	明代西歐人の東漸	二十四	丙	A
67	マテオリツチ	二十四	丙	B
68	フランススザビル	二十四	丙	B
69	清朝の興起	二十五	甲	A
70	ヌルハチ	二十五	甲	A
71	清の聖祖高宗	二十五	乙	A
72	鄭成功	二十五	乙	B
73	英佛の印度侵略	二十七	乙	B
74	クライヴ	二十七	乙	A
75	マラーッタ同盟	二十七	丙	B

76	阿片戰役	二十八	甲	
77	林則徐	二十八	甲	B
78	長髮賊の亂	二十八	乙	
79	洪秀全	二十八	乙	B
80	ゴルドン	二十八	乙	C
81	曾國藩	二十八	乙	C
82	李鴻章	二十八	乙	C
83	アロー號事件	二十八	丙	A
84	香港	二十八	甲	D
85	露國のシベリヤ侵略	二十九	甲	
86	ムラビエフ	二十九	甲	B
87	伊犁事件	二十九	乙	B
88	愛璉條約	二十九	甲	B
89	英佛の中亞侵略	二十九	丙	
90	露國の基華侵略	二十九	乙	A

91	清佛役	二十九	戊	
92	天津條約の由來	三十	甲	B
93	京城事變	三十	甲	
94	東學黨の亂	三十	乙	A
95	日清役の原因結果	三十	乙	
96	平壤役	三十	乙	B
97	馬關條約	三十	乙	C
98	膠州灣	三十一	甲	B
99	カシニ密約	三十一	註	
100	義和團の亂	三十一	丙	
101	日露役の原因結果	三十二	甲	乙
102	ポーツマス條約	三十二	乙	C

各高等師範學校

1	和漢國體の異同	二	甲	A	章節項
2	春秋時代と戰國時代との差異	二	丙	丁	
3	洛陽	二	乙	B	
4	商鞅	二	戊	A	
5	連衡	二	丙	B	
6	邯鄲	二	註		
7	孔子	三	戊	B	
8	六藝	三	丙	A	
9	韓非子	三	戊	B	
10	印度四姓	四	甲	B	
11	阿育王	四	乙	B	
12	迦貳色加王	四	乙	B	

13	秦の始皇帝	五	甲	D	
14	匈奴	五	甲		
15	烏江	六	甲	A	
16	周亞夫	六	丁	C	
17	古朝鮮	七	甲	A	
18	古代の三韓	七	註		
19	漢の武帝	七	甲		
20	張騫	七	乙	B	
21	昆陽の戰	九	甲	A	
22	東漢の光武帝	九	甲		
23	班超	九	乙	B	
24	大秦國	九	乙	C	
25	黨鋼の禁	九	丙	B	

26	佛教の東漸	十	丙	A
27	加葉摩騰	十	丙	A
28	兩漢の文物	十	甲	丙
29	司馬遷	十	乙	B
30	白馬寺	十	丙	A
31	蜀	十一	甲	A
32	建康	十一	甲	A
33	淝水戰	十一	丁	B
34	法顯	十二	丙	B
35	達磨	十二	丙	B
36	東魏西魏の分争	十二	註	
37	隋の煬帝	十三	甲	B
38	唐の太宗	十三	丁	
39	唐の官制	十四	甲	乙
40	唐の外交	十四	己	癸

41	唐代の外國統治法	十四	壬	B
42	六都護府	十四	壬	B
43	大食國	十四	辛	B
44	安祿山	十五	丙	
45	唐代の外教	十六	己	
46	玄奘	十六	丁	A
47	景教	十六	己	C
48	道教	十六	戊	
49	韓愈	十六	乙	B
50	臨潢	十七	乙	B
51	汴京	十七	甲	A
52	阿骨打	十七	己	B
53	宋金の關係	十八	乙	
54	岳飛	十八	丙	B
55	秦檜	十八	丙	B

56	王安石	十九	甲	
57	均輸法	十九	甲	B
58	宋學の大要	十九	丙	
59	蘇東坡	十九	乙	B
60	朱熹	十九	丙	C
61	陸象山	十九	丙	C
62	元の太祖	二十	乙	
63	和林	二十	丙	A
64	技都の西征	二十	丙	B
65	忽必烈	二十	丁	A
66	元代の朝鮮	二十	戊	B
67	文天祥	二十	戊	B
68	元朝滅亡の理由	二十一	全	
69	交鈔	二十一	乙	B
70	マルコポーロ	二十二	丙	B

71	鄭和	二十三	乙	B
72	李成桂	二十三	庚	A
73	徐達	二十三	甲	A
74	靖難の役	二十三	乙	A
75	王守仁	二十四	甲	A
76	西歐洲人の東漸	二十四	丙	A
77	澳門	二十四	丙	A
78	マテオリツチ	二十四	丙	B
79	清の聖祖高宗の事蹟	二十五	乙	
80	吳三桂	二十五	乙	B
81	三藩の亂	二十五	乙	B
82	鄭成功	二十五	乙	B
83	軍機處	二十六	甲	C
84	清朝の八旗緣族	二十六	丙	
85	觀炎武	二十六	丁	A

86 モゴル帝國の興亡
 87 パベル王
 88 アクバル大帝
 89 和英佛の印度侵略
 90 阿片戰役
 91 林則除
 92 長髮賊の亂
 93 洪秀全
 94 戈登
 95 曾國藩

二十七 甲
 二十七 甲
 二十七 甲
 二十七 乙
 二十八 甲
 二十八 甲
 二十八 乙
 二十八 乙
 二十八 乙
 二十八 乙

96 露國のシベリヤ侵略
 97 ネルチンスク條約
 98 ムラビエフ
 99 伊犛條約
 100 大院君
 101 廣州灣
 102 義和團の亂
 103 北清事變
 104 ポーツマス條約
 105 日英同盟の經過

二十九 甲
 二十九 甲
 二十九 甲
 二十九 乙
 三十 甲
 三十一 甲
 三十一 丙
 三十一 丙
 三十二 乙
 三十二 丙

各高等商業學校

1 齊桓晉文
 2 合從連衡

二 章節項
 二 丙
 二 丁

3 井田法
 4 阿育王
 5 秦の始皇帝

三 乙
 四 乙
 五 甲

6 李斯
 7 匈奴
 8 建業
 9 成都
 10 淝水の役
 11 顔真郷
 12 王安石
 13 青苗法
 14 宋代の朋黨
 15 朱熹
 16 成吉思汗
 17 忽必烈
 18 宋の滅亡
 19 文天祥
 20 マルコポーロ

五 甲
 五 甲
 十一 甲
 十一 甲
 十一 丁
 十五 丙
 十九 甲
 十九 甲
 十九 甲
 十九 甲
 十九 丙
 二十 甲
 二十 丁
 二十 戊
 二十 戊
 二十二 丙

21 元代の歐亞の交通
 22 倭寇
 23 碧蹄館
 24 王守仁
 25 明代西歐人の東漸
 26 マラオリツチ
 27 ザビエル
 28 吳三桂
 29 鄭成功
 30 歐洲諸國の印度經略
 31 英領印度帝國
 32 ヘースチングス
 33 クライヴ
 34 林則除
 35 洪秀全

二十二 丙
 二十三 己
 二十三 庚
 二十四 甲
 二十四 丙
 二十四 丙
 二十四 丙
 二十五 乙
 二十五 乙
 二十五 乙
 二十七 乙
 二十七 乙
 二十七 丙
 二十七 乙
 二十八 甲
 二十八 乙

- 36 曾國藩
- 37 李鴻章
- 38 香港
- 39 ネルチンスク條約
- 40 ムラビエフ
- 41 ウラデオストツク

二十八 乙 C
二十八 乙 C
二十八 甲 D
二十九 甲 B
二十九 甲 B
二十九 甲 C

- 42 日清役の原因結果
- 43 丁汝昌
- 44 三國干涉
- 45 日清役の影響
- 46 日英同盟の経過
- 47 ルーズヴェルト

三十 乙 B
三十 乙 B
三十 甲 D
三十一 甲 A
三十二 丙 A
三十二 乙 C

外語・商船・各専門學校

- 1 漢人種の起原
- 2 和漢國體の異同
- 3 商鞅
- 4 合從連衡
- 5 孔子の事蹟
- 6 井田法

章節項
一 甲 A
二 甲 A
二 戊 A
二 丁 B
三 戊 B
三 乙 A

- 7 上代印度
- 8 佛教の興起
- 9 秦の始皇帝
- 10 漢の高祖
- 11 王莽
- 12 後漢の光武帝
- 13 黨錮の禍

四 甲 B
四 乙 A
五 甲 A
六 乙 B
八 乙 B
九 甲 B
九 丙 B

- 14 佛教東漸
- 15 諸葛孔明
- 16 唐の帝都
- 17 唐宋代の文化
- 18 安祿山
- 19 玄奘
- 20 景教
- 21 道教
- 22 唐代の文藝
- 23 李白
- 24 五代の沿革
- 25 趙匡胤
- 26 岳飛
- 27 王安石
- 28 朱熹

十 丙 A
十一 甲 B
十三 乙 B
十四 九
十五 丙
十六 丁 A
十六 己 C
十六 戊
十六 乙
十七 甲 A
十八 甲 A
十八 丙 B
十九 甲
十九 丙 C

- 29 クルリタイ
- 30 元代の最大版圖
- 31 朱元璋
- 32 倭寇
- 33 李成桂
- 34 王守仁
- 35 西歐人の東漸
- 36 ゴア
- 37 吳三桂
- 38 鄭成功
- 39 理藩院
- 40 モガル帝國の興亡
- 41 和英佛のアジア侵略
- 42 英領印度帝國
- 43 ヘースチングス

二十 丙 A
二十二 甲 B
二十三 甲 A
二十三 己
二十三 庚 A
二十四 甲 A
二十四 丙 A
二十四 丙 A
二十五 乙 B
二十五 乙 B
二十六 甲 D
二十七 甲 A
二十七 乙
二十七 丙 B
二十七 丙 B

44	クライヴ	二十七	乙	A
45	阿片戰役	二十八	甲	
46	林則徐	二十八	甲	B
47	南京條約	二十八	甲	D
48	長髮賊の亂	二十八	乙	
49	ゴルドン	二十八	乙	C
50	曾國藩	二十八	乙	C
51	李鴻章	二十八	乙	C
52	アロー號事件	二十八	丙	A
53	香港	二十八	甲	D
54	ネルチンスク條約	二十九	甲	B
55	愛琿條約	二十九	甲	B
56	大院君	三十	甲	A
57	東學黨の亂	三十	乙	A
58	日清役の影響	三十一	甲	A

59 孫文

三十三 甲 C

昭和二年

官公立高等
専門學校

入學試験問題

海軍兵學校・海軍機關學校

- 一、倭寇
- 二、岳飛

第二十三章参照
第十八章参照

東京高等師範學校

(廣島高等師範學校の
問題は本文中に編入)

- 一、漢武帝時代の匈奴征伐
- 二、南北朝時代の大勢
- 三、宋代の儒學
- 四、アクパール
- 五、法顯
- 六、洪秀全
- 七、三省六部

第七章参照
第十二章参照
第十九章参照
第二十七章参照
第十二章参照
第二十八章参照
第十四章参照

神宮皇學館

- 一、唐代の官制
- 二、迦膩色迦王
- 三、司馬光

第十四章参照
第四章参照
第十九章参照

東京外國語學校

- 一、金陵

第二十三章参照

本館發行所東京日本橋區本銀町三丁目八番地

昭和二年十月十日
七日
日發印



編者
發行所
印刷所

編輯者
發行者
印刷者
印刷所

著作權所有
定價金壹圓

盛林堂編輯部

東京市日本橋區本銀町三丁目八番地

島尾 巖 庵
林 甲子太郎

東京市麹町區飯田町四丁目二十一番地

中村 博文

東京市麹町區飯田町四丁目二十一番地

中村 英文社

東京市日本橋區本銀町三丁目八番地

盛林堂書店

電話日本橋(24) 三六六九番
振替(東京) 一八四六番
口座(名古屋) 一〇五二九番

吉岡三郎

吉岡斗松先生著

增補第三百十版

(内容見本 郵券二錢封入 御申越次第進呈)

三訂 新版

代數學

重要問題 受驗問題

解方の新研究

分冊 上巻定價金壹圓 下巻定價金壹圓 分冊書留送料各拾六錢 合本定價金貳圓 合本書留送料金拾八錢

三訂版は舊書に比し一段の工夫を凝せるは勿論、舊式問題を削除し之れに代ふるに入學試験問題の新傾向に準應すべき新問題及び根底問題を適所に挿入し舊版と同一なる問題は僅かに二割に過ぎず。解方の研究に於て更に一步を進め實力養成の捷徑を直覺せしめ應用力の溢出を主眼とし半面には明快極りなく條理齊然たる分類法を用ひたり。即ち證明問題にありては(一)假設を變形する場合、(二)終結を變形する場合、(三)假設を變形して終結を代入する場合、(四)假設を變形し終結を變形して比較する場合、(五)實數なる但しより工夫する場合、に分類し、公倍數、公約數、及び二次方程式雜論には最も力を盡して説明し根本的改造を加へ懇切明快なる證明を與へたり。又試験問題の重要なものには採點教官(一高 竹内博士、一高 黒河教授、水高 相馬教授、佐賀高校 川本教授、七高 中島教授他十數名)の眞摯熱烈なる採點感想を挿入し受驗者のために大なる受驗上の覺悟を與へたるは本書を以て嚆矢とす。

大正十四年十月中學世界秋季増刊號ニテ全國ノ合格者ヨリ受驗談ヲ懸賞ニテ募集セル受驗準備備ニ於テ吉岡氏ノ代數及ビ幾何ニヨリ準備セル合格者ハ(高工)アンテナ生、(海兵)あしがれ生、(八高)水先生、(東師)鳩鐵砲、(弘高)北海健兒、(四高)MT生、(六高)備中守、(一高)新島黎吉、(八高)苦學生、(新潟)高K生、(姫路高)UV生、(山形高)青磁生、(四高)MK生、ノ拾四名アリテ本書ノ愛讀者ガ第一位ノ多數ヲ占メタリ。

吉岡斗松先生著

增補第三百五版

(内容見本 郵券二錢封入 御申越次第進呈)

改訂 新版

幾何學

重要問題 受驗問題

解方の新研究

合本 定價金壹圓八拾錢 合本書留送料金拾八錢

1 過去十ヶ年間ノ諸官立學校入學試験問題及ビ重要問題七百餘題を撰ビ更ニ其ノ中ヨリ百題ヲ撰ビ幾何學問題解方ノ範示シ其ノ取ルベキ手段方法ヲ詳述シテ餘ス所ナシ
2 以上ノ問題ヨリ特ニ特殊問題トシテ次ノ如ク抽出シ夫々適切ナル解方ノ仕方及ビ研究法ヲ指示セリ
(a) 三直線一點會合問題 (b) 數點一直線問題 (c) 中線問題 (d) 定點問題 (e) 定量問題
(f) 軌跡 (1) 直線トナル場合 (11) 圓周トナル場合 (1) 定點ト定長 (2) 定角ト定長
(g) 作圖題 1 所要直線作法 2 二邊ノ和ヲ知ル三角作法 3 中線ヲ知ル三角作法 4 普通三角作法 5 多角形作法 6 内接外接形作法 7 面積等分法 8 所要圓作法 9 最大最小問題ニ分テリ
(h) 計算題 3 各部門毎ニ模範解答五、六題ヲ置キ答案練習ノ便ニ供シ、模範的工夫ノ仕方六十餘題ヲ設ケ問題ノ種類ニヨリ解方工夫ノ範ヲ示セリ。

1 試験問題中特ニ注意ヲ要スルモノニハ採點教官ノ評ヲ附シ、受驗生共通ノ缺點ヲ明瞭ナラシメ、且如何ニ答案ヲ書クベキカヲ研究セシメントセリ。
2 本邦ニ於テ未ダ試ミラザル進歩的ナル活字排列法ヲ經費ヲ吝マズ極メテ大膽ニ然モ苦心ニ苦心ヲ重ネテ成功セルニアリ。
3 獨創的ニシテ一絲亂レズ整然タル然モ系統的ナル問題配置法ニアリ。
4 讀者ノ實力ヲ遺憾ナク發揮セシメ、如何ナル難問ヲモ突破セズンバ止マザル實力養成主義ノ結果ガ如何ニ活潑シ各題毎ニ研究事項ヲ設ケ、問題ノ變化、應用、連絡ヲ一瞥ノ下ニ其ノ眞相ヲ觀破セシムルノ威力ヲ與フルニアリ。

本書の特色

吉岡斗松先生著

增補二百廿五版

(內容見本郵券二錢封入
御申越次第進呈)

改訂
新版

代數學 重要問題 新撰集

定價金 五拾錢

書留送料金拾四錢

大正九年本書ヲ發行シテ以來版ヲ重ヌルコト第二百回ニ及ビ中學校ノ副教科書トシテ御採用ノ榮ヲ得タル中學校實ニ三百七校アリ。

今回根本ヨリ改訂舊問題ノ七割ヲ除キ昭和二年マデノ入學試驗問題中重用問題、根本問題ヲ骨子トシ之レニ著者ノ研究セル優良問題ヲ配シ、基礎問題ヲ範例トシ範例毎ニ類似問題ヲ分布シ能率向上實力養成ヲ唯一ノ目標トシ時間ト程度トニ應ジテ自由ニ問題選擇ノ便ヲ供ヘタルハ實ニ本書ノ特色ニシテ世ニ行ハル、多クノ問題集ト其ノ趣ヲ異ニシ此ノ方面ニ超越セル一大改革者タランコトヲ期セリ、卷末ニハ適當ニ問題ヲ調和シ實力ノ試金石トシテ模擬試驗問題十數回ヲ收メ、校正嚴密、印刷鮮明眞ニ新撰集タル名ニ背カザランコトニ努力セリ。

吉岡斗松先生著 (改版組版中十月發行)

昭和版

幾何學 重要問題 新撰集

定價金 六拾錢

書留送料金拾四錢

定價ヲ度外視シ圖形約四百ヲ挿入シ到底他ノ追從ヲ許サザル本書モ未曾有ノ震災ニ灰燼絶版スルコト三年寸暇ナキ著者モ三年ノ研究ヲ積ミ茲ニ改訂版ヲ發行スルコトヲ得タリ時間ハ一切ヲ解決ス眞語味フベキナリ

大正十五年八月疲骸ヲ信州山田溫泉ニ養ヒツ、白根山ニ登リ巍々タル山丘ヲ瞰下シ仙境ニ遊ビ本書ノ構成法ヲ考フルコト五回舊書ノ組織ノ根本ヲ打破シ或ル程度マデ普通ノ教科書ト順ヲ同シ昭和二年マデ入試問題中ノ優秀ナルモノ基礎的ナルモノヲ經トシ之レニ著者ノ研究セル優良問題ヲ緯トシ多數ノ圖形ヲ挿入シ記憶ト復習ト思考トニ便ナラシメ、問題ノ變化、改作等ニ關スル注意ヲ具ヘ卷末十數回ノ模擬試驗問題集ヲ收メ實力向上ノ尺度トセリ。

昭和
新版

名古屋高商教授

鈴木得二先生著

〔五版〕

内容見本 郵券二錢封入
御申越次第進呈

新しい英文解釋の研究

定價金壹圓五拾錢

書留送料金拾六錢

苦悶と経験とと経緯とと編著せられ
たる本書は實力養成を念とし工夫
進め……りな参考考好の々人が尙を

- (1) 本書の目的とするところは中等學校の上級生又は卒業生に、學校で學んだ事の復習をなし、又整理をなし、兼れて實力試験の機會を供しようとするに在る。
- (2) 材料は主として入學試験問題に見えたものに取り、若干は教科書其他から取つた。高等専門學校の入學試験問題は、總括的に考へて、現今日本で中等學校卒業者に要求せられる英語解釋力の標準と見做しても差支ないと思惟したるが故に、特に其方面の問題を多く取り入れたのである。
- (3) 本書には特に著者が耳にする最も誤られ易い語の發音を附記してある。
- (4) 複雑な文にあつては、文の主語述語が何れであるか、附屬的の語句は何れであるかを見定める事が最も大切な事である。そして其附屬的修飾語句を暫らく度外に置き、「何が何であるか」「何が行けば正鵠を失ふかの最根本的な單純な形に直して考へ、次に附屬語句を夫々の要素に結びつけて説いたのは此練習を爲さん事を希望するが故である。
- (5) 語學研究には反覆が最も必要なことである。書中同一の構文、語句が何回も繰り返され、諸種の方面から研究を施されてあるのも、この反覆の必要なが故である。

二期大待せられよ
を書考參良大

名古屋高等商業學校教授

鈴木謙吉先生

共著

組版中近日出版

新しい和文英譯の研究

定價金壹圓五拾錢

書留送料金拾六錢

永年數多の學生を指導し來りし鈴木・佐藤兩先生が學生諸君の最も苦心せらるゝ和文英譯に良參考書の少なきを遺憾とせられ多年の経験と豊富なる學識とを傾注し、案を練り想を碎かれること三年、再三再四訂正修補し、諸君の最も誤り易き所及び重要事項入試問題等には力を盡して詳述せられ尙又實力を養成し得べき方法手段等實に豫想以上の苦心と周到なる用意の許に編著せられつゝあり、出版の曉は學習に受験參考に諸君の良師友として歓迎せらるる事ならん。

名古屋高等商業學校教授

鈴木得二先生著

新しい英文法の研究

近
日
發
行

川邊要之助先生著

上卷七十版・下卷五十版

(内容見本 郵券二錢封入 御申越次第進呈)

大改訂

大增補

補習 新選物理學提要

定價上卷・下卷

各金壹圓參拾錢

書留送料各金拾六錢

1. 上卷(物性、熱、運動及び力の部) 下卷(音、光、磁氣及び電氣の部)

本書は中學上級生及び高等受験生諸君の爲めに著者が多年の経験と豊富なる蘊蓄とを傾注して編述せられたるものなり。

2. 全編を通じて諸教科書の簡に過ぎたる所及びその不備なる點を補足し、而も不急なる教材に向て時間と腦力とを分つての不利を避けしめ以て學修上の能率を増進せしむるに努めたり。

3. 毎章の終に明治三十三年より昭和二年に至る二十八年間に渉る諸官立學校入學試験問題及びその他の重要問題千有餘題を精選收輯をして練習に資し且つ之に一々模範的正解を附したり。

之を要するに本書の記述が受験用物理學の眞髓を捉へて逃す所なくその收輯せる所の問題が選擇最も當を得て要を盡せることは、年々施行せらるる諸學校入學試験問題の大多數が本書より出でて本書の讀者を満足せしめつつあることに依りて明かなり。現に大正十五年三月施行の高等學校入學試験物理問題(六問題とも皆本書より出でたり之を對比すれば次の如し。

第一班 第一問は本書上卷一六二頁の五九、第二問は同五三頁の四六、

第二班 第一問は同四八頁の一四、第二問は同四七頁の三〇、

第三班 第一問は同九〇頁、第二問は同九〇頁。

これ本書が如何に有効適切なるかの一斑を示す實證にあらずや、本書一部だにあらば如何なる物理の難關も之を突破すること何かあらん。實に學生諸君必携の寶典なり。

川邊要之助先生著

增訂四十版

(内容見本 郵券二錢封入 御申越次第進呈)

大改訂

大增補

補習 新選化學提要

定價金貳圓

書留送料金拾八錢

1. 本書の特色とする所は各物質を記述するに當りて博物的記述法を避け簡明なる理論を交へ且つ其性質と用途とを互に關聯せしめて讀者の理解に訴へ以て其記憶を助くることに努めたる點に在り。

大正十四年十月五日發行の中學世界秋季増刊號に於て高工合格者は「川邊氏の新選化學提要は非常に詳しく且つ正確な立派な本ですこの本は理解式に出來て居ます云々」

2. 毎章の終に明治三十三年より昭和二年に至る廿八年間に於ける諸官立學校入學試験問題及び其他の重要問題千數百題を収録して練習に資し且之に模範的正解を附したり

3. 記述の程度は最も適切恰當なるのみならず附するに重要な諸表と詳密なる索引とを以てせり

之を要するに本書は多くの點に於て類書に超越せる内容を有し化學の準備參考書としては殆ど理想的のものと云ふも過言にあらず、本書によりて練習せば如何なる化學の難問も立ちどころに解決すべし。試みに諸學校に於ける本年度の入學試験問題を見るに何れも皆本書より出で居りて其新奇なるもの殆ど無し。されば苟も化學の秘鍵を握り試験場裏の優勝者たらんと欲する諸君は速に本書を座右に備へて成功を期せられよ。

川邊要之助先生著

新刊大好評

(内容見本 郵券二錢封入 御申越次第進呈)

新編物理學問題の着眼点と徹底的解方

定價金 貳 圓

書留送料金拾八錢

○本書は中等學校在學生諸君の補習用、高等受験生諸君の參考用として、明治三十三年より昭和二年に至る二十八年間に行はれたる諸官立學校の入學試験問題及びその他の重要問題一千有餘を精選分類して、之に附するに正確にして一字一句も忽にせざる徹底的解方を以てし、又稍々難解なる問題には「着眼点」を附してその解方のヒントを與へ且つ誤解し易き點には「注意」又は「註」を添ふるなど、その用意の周到にして親切なること類書中恐らく本書の右に出づるものあらざるべし。

○本書には、文部省に於て調査せられたる大正十四年三月施行の高等學校入學試験物理科答案の講評を掲載せり。この講評には多數受験者の陥りたる誤謬短所を遺憾なく一々指摘されたれば、一般の學生諸君が物理學を攻究せらるゝ際の好指針たるべし。

○大正十五年三月施行の高等學校入學試験物理科問題は悉く本書より出でたり。之を對照すれば次の如し。

【第一班】 第一問は一六三頁の六六、第二問は四三頁の五〇、第三問は一三九頁の一七。

【第二班】 第一問は一五九頁の六一及び一四五頁の三一、第二問は三四頁の三二、第三問は八八頁の一四。

川邊要之助先生著

増訂十五版

(内容見本 郵券二錢封入 御申越次第進呈)

昭和二年
入試問題
全部増補

新編化學問題の徹底的解方

定價金壹圓八拾錢

書留送料金拾八錢

本書には明治三十三年より昭和二年に至る二十八年間に行はれたる諸官立學校の入學試験問題並に現今中等諸學校に廣く行はれつつある教科書中より、あらゆる種類の模範的問題約八百を精選し一々之に本書の獨特にして敢て他書の企及し能はざる徹底的正解を附し、且つ每章の初めに基礎的要項並に所要の化學方程式を掲げ又巻尾には無機及び有機化合物の構造式集並に通俗名を有する物質表を附録とし、尙ほ重要元素及び基の原子價表をも添へたれば、その要を盡せる點に於て確かに類書中一頭地を抽けるものなるを信ず。本書發刊以來日尙ほ淺きにも拘らず好評嘖々各方面に歡迎せられつつあるもの決して故なきにあらず、乞ふ速かに一本を座右に備へられんことを。

富士德治郎先生著

第十版

(内容見本 郵券二錢封入 御申越次第進呈)

大改正
大増補

補習 外國地理要説

定價 金壹圓九拾錢

書留送料 金拾八錢

1. 本書は中等學校の在學生諸君及び高等受驗生諸君の爲めに補習參考の資となり、兼れて受驗の指針たらしめんとて編纂せられたるものなり。2. 諸君は試験場に臨みて自己の實力の不足を感ずることなきか。學習は研究的なるを要す。各種の問題に對し適切なる材料を整頓し、缺點なき答案の作製に留意すること肝要なり。本書編纂の骨子はこの點につき十分なる援助を與へんと欲するものなり。3. 外國地理につき諸君の知らざるべからざるものは世界に起れる最新の事實なり。本書は大戦後より現今までの最新事實を掲げたり。4. 本書は最近十七年間に於ける各種學校の入學試験及檢定試験に於ける問題に對し、本書の獨特にして且正確なる解答を掲げたり。此の如き徹底的指導は他の類書に於て企及し能はざる所なりと確信するものなり。5. 試験問題中諸君の失敗し易きは應用的問題にあり。本書の「註解」の大部分はこの應用的問題に對する正解なり。幸に之を熟讀玩味すれば應用問題に對する失敗は殆ど免れ得べしと信するなり。6. 地理に於ては本文を地圖と對照して確實なる知識を得ざるべからず。之につき教科書用附圖のみにては遺憾少からず。本書には地形圖、氣候圖、物産分布圖、交通圖等の有益なるものを數多挿入せるを以て、教科書の缺點を補ひ、諸君の要求を満足せしめ得たりと信するなり。本書發刊以來日尙淺きにも拘らず好評噴々各方面に歡迎せられつゝあるは恐らく此等の理由によるものならん。乞ふ速かに一本を座右に備へられんことを。

富士德治郎先生著

(内容見本 郵券二錢封入 御申越次第進呈)

最新刊

補習 日本地理要説

定價 金貳圓貳拾錢

書留送料 金貳拾錢

1. 本書は中等學校の在學生諸君及び高等受驗生諸君の爲めに補習參考の資となり、兼れて受驗の指針たらしめんとして編纂せられたるものにして補習受驗外國地理要説の妹姉編なり。2. 學習は研究的なるを要し、教科書の反復熟讀も大切なれども問題に適應せる答案を作製するの技術と見識を必要とす。本書記述の體裁は其模範を示さんと抱負を有し問題の大小に應じて敏速簡明に解答し得らるゝ手段を示せり。3. 地理學の發達に伴ひ推究的學習法は近時益々盛んとなれり。地理の試験問題も次第にこの趣旨により提出せらるゝ傾向あり。本書の各項に「考へ方」の題を設けて解答の骨子を示し、或は各地方の地質圖を入れて地形考察の一助となせるはこの精神の具體化にして、此の如きは他の類書に見ざる所なり。4. 地理に於ては最新事實を重んず、本書は特にこの點に努力せるを以て教科書に比して更に最新の事實を示せることは各所に發見するを得べし。5. 各學校の試験問題解答は本書の大に苦心せる所にして最近十九年間に於ける各學校の入學試験及檢定試験の問題に對し一々正確なる解答を掲げたり。6. 本書は又應用的問題に對する正解を示さんことに努めたり。幸に之を熟讀玩味すれば應用的問題に對する失敗は殆ど免れ得べしと信するなり。7. 地理に於ては本文と地圖とを對照して確實なる知識を得ざるべからず。屢地圖問題のために失敗する諸君の多きは試験問題に對して適切なる略地圖を描く能はざるによるなり。本書に於ては各地方毎に地形圖・地質圖・産業分布圖・交通圖を初め各種の地圖を挿入したるはこの缺點を救済せんためなり。本書はかく幾多の特色を有し補習受驗の好同伴たらんために生れたり。乞ふ速かに一本を座右に備へられんことを。

金丸市八先生著

近刊

昭和
新版

學習
受驗

現代模範作文

定價金 九拾錢

書留送料 金拾六錢

作文實力涵養 の模範的良書

「文章の上手になるには如何にすべきか。」といふ疑問を解くのが本當の目的であります。前編には作文學習上及び試験場に於ける作文の基本的要件を敘し、文題の類別及び其の趨向を論じ且試験官の作文批評及び文法の概要が附記されてあります。後編には試験文題に該當する斯道大家識者の作に係る模範文を掲げ、中に間々自作文を交へ且つ文章の要點作法上の注意が指示してあります。作文學習上受驗準備上恰好の参考書であると信じます。どうか作文力錬磨の好同伴たらしめて下さい。

金丸市八先生著

補訂三十版

(内容見本 郵券二錢封入 御申越次第進呈)

高等専門諸學校
入學試験

漢文問題集

定價金 六拾錢

書留送料 金拾六錢

昭和二年
入試問題
増補

本書は漢文の實力を練磨するを目的として、纂述せるものにして、大正元年以來本年度の高等専門諸學校入學試験漢文問題を年度別に序列したり、卷末に練習問題を附し之に大正以前の主なる問題を添加したるを以て漢文問題の大要を網羅したりといふべし、入學試験準備上必讀の書にして、學校教科副本たるに最も便好なり、本書出版以來副本として御採用賜りたる全國中等學校實に三百五十八校に及びべし。

改 版

金丸市八先生著

大好評第十版

(内容見本 郵券二錢封入 御申越次第進呈)

高等専門諸學校
入學試験問題

漢文析義

定價 金壹圓八拾錢

書留送料 金拾八錢

本書は漢文の實力を練磨するを目的として纂述せるものにして入學試験問題及び其の他の重要問題を採擇し、教訓篇、史篇、文學篇、雜篇、語句篇、の五部に分類し、書目別に排列して訓點解釋を施せり。

本書が他の類書に超越せる三大特色は、

1. 備考欄——語句、熟語の意義、本文中に於て敘述し盡さざるものを再注せり。
2. 注意欄——文章前後の關係、主語、述語等の關係を明瞭にす。
3. 語句篇——既出の問題たる語句、熟語を年度別、學校別に排別し、其の讀方意義を明確に記憶し易からしむるに資せり。

尙本書の欄外に試験施行年度及び學校名を記して兩々對照の便に供し各自研鑽の好侶伴たらんことを期せり。請ふ、一本を備へて實力を練磨し、以て登龍門の榮幸を擔はるべし。

實 力 磨 練 の 好 參 考 書

新 刊

金丸市八先生著

大好評第三版

(内容見本 郵券二錢封入 御申越次第進呈)

受験
必携

學・庸・論・子孟解釋

定價 金壹圓五拾錢

書留送料 金拾六錢

輓近高等専門諸學校の入試問題を觀察するに四書より出題せるもの實に多數あり、現に昭和二年高等學校入試問題にも摘出せられたり、諸君は修養上、學習及び受験に本書に備せられ研究の好侶伴として以て榮幸を擔はれたし。

本書内容、大學・中庸・論語・孟子の四篇に分ち、大學・中庸は全文を解釋し、論語・孟子は既出の試験問題及び研究修養上最も重用適切なる章句を摘録し、章旨・字解・解釋・備考の四欄に分ち、文法的見地より明確なる解釋を施せり。欄外に試験施行年度・及び學校名を掲げて、漢文問題集との對照に便にす。

修 養 研 究 の 良 參 考 書

盛林堂編輯部編

(内容見本 郵券二錢封入 御申越次第進呈)

最新刊

三段式 見易く覚え易い 西洋史

定價金 壹圓

書留送料金拾六錢

◆歴史は先づ年代と……重要事件の暗記が肝要なり!!

三段式とは……最も苦心せる編纂法を以て……見易く、解り易く、覚え易いやう配例したり。

本書の特色——中等學校の學生諸君の豫習用及び受験用として現今広く使用せられつゝある教科書中の教材は勿論其の他斬新なる事項を網羅し、理解記憶に便なるやう、内容配例を三段式に分類したり。尙又每章の終りに最近廿四ヶ年間の各高等專門學校既出問題を挿入し、各學校の問題傾向を知らしめんとしたり。諸君は本書に依り實力を練磨し、榮冠を獲得せらるべし。

新刊

昭和二年
九月發行

三段式 對 見易く覚え易い 東洋史

定價金 壹圓
書留送料金拾六錢

昭和二年
九月發行

三段式 對 見易く覚え易い 日本史

定價金 壹圓
書留送料金拾六錢

終

